



Simply Better Connections

CN800

USB VGA KVM over IP Mini ユーザーマニュアル

本書 日本語マニュアルについて

この日本語マニュアルは、ATEN International Co., Ltd. が作成した英語版ユーザーマニュアルをもとに、ATEN ジャパン株式会社が機械翻訳をベースに作成したドキュメントです。

日本国内のお客様への便宜を図る目的で公開していますが、用語や表現は機械翻訳による、表記ゆれなどがございます。

本マニュアルには、グローバル共通となる英語版を翻訳したため、日本国内で取り扱いのない製品情報が含まれる場合があります。

製品の取り扱いや仕様などは日本国内の法規に抵触する内容を除き、基本的に英語版ユーザーマニュアルが準拠となります。正確性を要する場合は、本マニュアルは英語版を読む際の補助テキストとしてご利用ください。

なお、内容に不備や誤りなどがございましたら、お手数ですが ATEN ジャパン株式会社までお問い合わせくださいますようお願い申し上げます。

適合性に関する宣言

連邦通信委員会(FEDERAL COMMUNICATIONS COMMISSION INTERFERENCE STATEMENT)

本製品は、FCC(連邦通信委員会)規則のパート15に準拠したデジタル装置クラスAの制限事項を満たして設計され、検査されています。この制限事項は、商業目的の使用において、有害な障害が発生しないよう、基準に沿った保護を提供するためのものです。この操作マニュアルに従わずに使用した場合、本製品から発生するラジオ周波数により、他の通信機器に影響を与える可能性があります。また、本製品を一般住宅地域で使用した場合、有害な電波障害を引き起こす可能性もあります。その際には、ユーザーご自身の負担で、その障害を取り除いてください。

本製品は、FCC(米国連邦通信委員会)規則のパート15に準拠しています。動作は次の2つの条件を前提としています。(1)このデバイスが有害な干渉を引き起こさないこと、(2)このデバイスが、予想外の動作を引き起こす可能性のある干渉を含め、すべての干渉を受け入れなければならないこと。

FCCによる注意事項

本コンプライアンスに対する責任者による明確な承認を得ていない変更または改良を行った場合は、ユーザーの本装置を操作する権利を無効とします。

警告

この装置を居住地域で使用すると、電波干渉を引き起こす可能性があります。



カナダ産業省による宣言

クラスAの本デジタル装置はカナダのICES-003に準拠しています。

CAN ICES (A) / NMB (A)

VCCIに関する宣言

この装置は、クラスA機器です。この装置を住宅環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

VCCI - A

RoHS

本製品は『電気・電子機器に含まれる特定有害物質の使用制限に関する欧州議会及び理事会指令』、通称RoHS指令に準拠しております。

ユーザー情報

オンライン登録

ご購入の製品は、弊社のオンラインサポートセンターにご登録ください。

インターナショナル	http://eservice.aten.com/
-----------	---

電話によるサポート

電話によるサポートは、次の番号にお問い合わせください。

インターナショナル	886-2-8692-6959
中国	86-400-810-0-810
日本	81-3-5615-5811
韓国	82-2-467-6789
北米	1-888-999-ATEN ext 4988 1-949-428-1111

ユーザーの皆様へ

製造元は、このマニュアルに記載されているすべての情報・ドキュメント・仕様を、事前の通知なしに変更する場合があります。製造業者は、本契約の内容に関して、明示的または黙示的に表明または保証を行わず、特定の目的のための商業性または適合性に関するいかなる保証も特に放棄します。このマニュアルに記載されている製造元のソフトウェアは、そのまま販売またはライセンスを受けています。購入後にプログラムに欠陥があることが判明した場合、購入者（メーカー、代理店、または販売店を除く）が、必要なすべてのサービス、修理、およびソフトウェアの欠陥に起因する付随的または派生的損害の全費用を負担します。

このシステムの製造元は、この装置に対して許可されていない変更に起因する無線やTVへの干渉には責任を負いません。このような干渉の訂正は、ユーザーの責任です。

動作前に正しい電圧設定を選択していない場合、製造元はこのシステムの動作において被るいかなる損害に対しても責任を負いません。使用前に電圧設定が正しいか確認してください。

製品情報

すべてのATEN製品について、また、制限なく接続できる方法については、弊社ウェブサイトアクセスするか、またはATEN販売代理店にお問い合わせください。所在地と電話番号の一覧については、弊社ウェブサイトアクセスして、ご確認ください。

インターナショナル	http://www.aten.com/
北米	http://www.aten-usa.com/

同梱品

すべてのアイテムが正常に動作しているか確認してください。問題が発生した場合は、購入元にお問い合わせください。

CN800

- ◆ USB VGA KVM over IP Mini CN800 × 1
- ◆ クイックスタートガイド × 1

目次

適合性に関する宣言.....	i
ユーザー情報.....	iii
オンライン登録.....	iii
電話によるサポート.....	iii
ユーザーの皆様へ.....	iii
製品情報.....	iv
同梱品.....	iv
CN800.....	iv
目次.....	v
本マニュアルについて.....	ix
マニュアル表記について.....	x
第1章 はじめに.....	1
概要.....	1
特長とメリット.....	1
ハードウェア.....	1
管理.....	2
使いやすいインターフェース.....	2
高度なセキュリティ.....	2
バーチャルメディア.....	3
バーチャルリモートデスクトップ.....	3
システム要件.....	4
リモートユーザー側で使用するコンピューター.....	4
サーバー.....	4
ケーブル.....	4
サポートされるビデオ解像度.....	5
OS.....	6
ブラウザ.....	7
製品各部名称.....	8
CN800.....	8
第2章 ハードウェアのセットアップ.....	10

ラックへのマウント.....	11
セットアップ.....	13
接続図.....	13
第3章 ブラウザーからのログイン.....	14
ログイン.....	14
メイン画面.....	16
第4章 設定.....	17
はじめに.....	17
基本設定.....	18
ユーザー管理.....	18
セッション.....	20
メンテナンス.....	21
詳細設定.....	26
デバイス情報.....	26
ネットワーク.....	27
ANMS.....	32
セキュリティ.....	41
日付/時刻.....	52
カスタマイズ.....	54
設定.....	56
ユーザー環境設定.....	56
ログ.....	58
リモートコンソール.....	59
ダウンロード.....	60
バージョン情報.....	60
ビューア.....	61
ログアウト.....	61
第5章 リモートサーバーへのアクセス.....	62
はじめに.....	62
Windows/JavaClient ビューア.....	63
WindowsClient AP.....	64
ダウンロード.....	64
起動.....	64

JavaClient AP	68
第6章 WindowsClientビューア	69
Win/JavaClientのコントロールパネル	69
コントロールパネルの機能	71
マクロ	73
メッセージボード	87
バーチャルメディア	90
ウインドウサイズの拡大・縮小	94
オンスクリーンキーボード	95
マウスポインターの種類	97
マウスダイナシクモード	98
コントロールパネル設定のカスタマイズ	100
第7章 ログファイル	103
ログファイル画面	103
第8章 ログサーバー	104
セットアップ	104
起動	104
メニューバー	105
設定	106
イベント	108
オプション	110
ヘルプ	110
ログサーバーのメイン画面	111
概要	111
リストパネル	112
選択ユニットのログ表示パネル	113
付録	114
安全にお使いいただくために	114
全般	114
ラックへのマウント	116
技術サポート	117
インターナショナル	117
北米	117
IPアドレスの設定	118
IPインストーラー	118

ブラウザー.....	119
WindowsClient AP.....	120
IPv6	121
リンクローカルIPv6アドレス.....	121
IPv6ステートレス自動設定.....	122
ポート転送	123
キーボードエミュレーション.....	124
信頼された証明書.....	125
概要.....	125
証明書のインストール.....	126
証明書のインストール完了.....	127
自己署名(プライベート)証明書.....	130
例.....	130
ファイルのインポート.....	131
トラブルシューティング	132
操作全般	132
Windows.....	135
Java.....	137
Sunシステム	138
Macシステム.....	139
ログサーバー.....	139
その他のマウス同期方法.....	140
Windows.....	140
Sun / Linux.....	142
サポートされるバーチャルメディア.....	143
WindowsClient Active Xビューア/WinClientAP.....	143
Javaアプレットビューア/JavaClientAP.....	143
アドミニストレーターでログインできない場合.....	144
仕様.....	145
CN800.....	145
ATEN保証ポリシー.....	146

本マニュアルについて

このマニュアルは、CN800を最大限に活用するために、製品本体の取り付け・セットアップ・操作の方法について解説しています。

このマニュアルの対象製品は次のとおりです。

型番	製品名
CN800	USB VGA KVM over IP Mini

マニュアルは下記のとおり構成されています。

第1章 はじめに: USB VGA KVM over IP Mini CN800の用途・機能・利点、および本体のフロントパネルとリアパネルの各部名称とその機能について説明します。

第2章 ハードウェアのセットアップ: セットアップと基本操作の方法について説明します。

第3章 ブラウザー操作: ウェブブラウザからCN800にリモートログインする方法と、本製品が提供する各種機能について説明します。

第4章 設定: CN800の作業環境の設定手順について説明します。

第5章 リモートサーバーへのアクセス: CN800にリモートアクセスする方法について説明します。

第6章 WindowsClientビューア: WinClient、JavaClientビューアのコントロールパネルの使用方法について説明します。

第7章 ログファイル: CN800で発生したイベントをログファイルユーティリティで参照する方法について説明します。

第8章 ログサーバー: ログサーバーのインストールと設定の方法について説明します。

付録: CN800に関する仕様およびその他の技術情報を提供します。

注意:

- ◆ 本書をよくお読みになった上で設置・操作の手順に従い、製品本体や接続機器の破損を防止してください。

- ◆ 本書の公開後に、製品に対する機能の追加・改良・削除によって、マニュアルの内容が更新される場合があります。最新のユーザーマニュアルは、<http://www.aten.com/global/en/>でご確認ください。
-

マニュアル表記について

このマニュアルでは、次の規則を使用します。

- [] 入力するキーを示します。例えば[Enter]はEnterキーを押します。複数のキーを同時に押す場合は、[Ctrl] + [Alt]のように表記してあります。
- 1. 番号が付けられている場合は、番号に従って操作してください。
- ◆ ◆印は情報を示しますが、作業の手順ではありません。
- > 連続する選択オプション(メニューやダイアログボックスなど)を示します。例えば、「スタート」>「実行」は「スタート」メニューを開き、「実行」を選択する操作です。
-  重要な情報です。

第1章 はじめに

概要

ATEN USB VGA KVM over IP Mini CN800は、IP経由のアクセス制御を組み込んでいない従来型のKVMスイッチにリモートアクセス機能を付加する製品です。CN800は標準TCP/IPプロトコルを使用して通信します。ターゲットコンピューターやサーバーに本製品を取り付けて、Cat 5e/6ケーブルでLANまたはWANのイントラネットに接続するだけで、コンピューターへのリモートアクセスが可能になります。本製品は最大1920×1200 @60HzのHD解像度による優れたビデオ品質を提供しているため、KVMアクセスが簡単に行えます。システムオペレーターは、WindowsおよびJavaベースのアプリケーションプログラムを使用して、リモートからコンピューターへのアクセス・監視が可能です。

本製品は、広範囲に分散した複数のコンピューターシステムにリモートアクセスして管理するのに、高速で信頼性と費用対効果に優れたソリューションです。

特長とメリット

ハードウェア

- ◆ リモートアクセス非対応のKVMスイッチに、over IP機能を付加
- ◆ マルチプラットフォーム対応 - Windows、Mac、Linux、Oracle社SPARC(Sun)、VT100ベースのシリアルデバイス
- ◆ バーチャルメディア対応
- ◆ 解像度 - 最大1920×1200@60Hz、24ビット色深度
- ◆ 鮮明なビデオ表示のレスポンスのためにfps(フレーム/秒)スループットを強化
- ◆ バスパワー対応 - 外部電源アダプター不要

管理

- ◆ 最大64ユーザーアカウント
- ◆ 最大32ユーザー同時ログイン
- ◆ セッション終了機能 - アドミニストレーターは実行中のセッションを終了可能
- ◆ イベントログおよびWindowsベースのログサーバー対応
- ◆ 緊急度の高いシステムイベントはメールまたはSNMPトラップおよびSyslog経由で管理者へと即時通知
- ◆ ファームウェアアップグレードはリモートから実行可能
- ◆ ポート共有モード - 複数ユーザーからサーバーに対する同時アクセスが可能
- ◆ ATEN統合管理ソフトウェアCC2000との統合
- ◆ ATEN ビデオセッションレコーディングソフトウェアCCVSR対応
- ◆ ダイナミックDNS (Dynamic Domain Name System)
- ◆ ブラウザー操作の有効化/無効化が可能
- ◆ IPv6対応

使いやすいインターフェース

- ◆ ローカルコンソール、ブラウザーベース、およびAP GUIは、統一された多言語インターフェースを提供 - ユーザートレーニング時間を最小限に抑え、生産性が向上
- ◆ クライアント側はマルチプラットフォーム対応 - Windows、Mac OS X、Linux、Oracle社SPARC(Sun)
- ◆ マルチブラウザ対応 - Chrome、Firefox、Safari、Opera
- ◆ ウェブブラウザを使ったリモートアクセス - 事前にJavaソフトウェアパッケージをインストールしなくても、ウェブブラウザだけで管理タスクの実行が可能
- ◆ バーチャルリモートデスクトップ画面はフルスクリーン表示、またはリサイズ可能なウィンドウ表示が選択可能

高度なセキュリティ

- ◆ 外部認証対応 - RADIUS、LDAP、LDAPS、MS Active Directory

- ◆ ユーザーのログイン時にはTLS 1.2暗号化でパスワードを保護
- ◆ キーボード/マウス、ビデオ、バーチャルメディアの各信号を個別に暗号化可能(256ビットAES、ランダムより選択)
- ◆ IPアドレスやMACアドレスによるフィルタリング機能
- ◆ パスワード保護対応
- ◆ プライベートCA認証対応

バーチャルメディア

- ◆ バーチャルメディア対応 - ファイルアプリケーション、OSのパッチ適用、ソフトウェアのインストール、および診断テストの作業が効率的に
- ◆ USBインターフェース搭載サーバーでは、OSレベルとBIOSレベルでバーチャルメディア機能が利用可能
- ◆ USB 2.0 DVD/CDドライブ、USBマスメージングデバイス、PCハードドライブ、ISOイメージをサポート
- ◆ バーチャルメディアケーブルなしで使い勝手の良いデザイン

バーチャルリモートデスクトップ

- ◆ 帯域制御機能 - ビデオ画質は帯域幅の変化に応じて自動調整。モノクロ色深度設定、データ圧縮率のしきい値/ノイズ設定は環境に合わせて変更が可能
- ◆ フルスクリーン表示、またはリサイズ可能なウィンドウ表示が選択可能
- ◆ リモートユーザー間のコミュニケーションに活用できるメッセージボード搭載
- ◆ 多言語対応のオンスクリーンキーボード
- ◆ マウスダイナシク
- ◆ 終了マクロ対応
- ◆ 接続機器にはBIOSレベルでのアクセスが可能

システム要件

リモートユーザー側で使用するコンピューター

リモートユーザー側で使用するコンピューター(クライアントコンピューター)とは、ユーザーがインターネット経由で離れた場所からCN800にログインする際に使用するコンピューターを指します。これらのコンピューターには下記のハードウェア環境が必要です。

- ◆ CN800へのアクセスには、Pentium III 1GHz以上のプロセッサが搭載されたコンピューターをお使いください。また、画面解像度は1024×768に設定してください。また、PCは、1Gb以上のRAMを搭載したPentium IV 2GHzの使用を推奨します。
- ◆ ブラウザーはTLS 1.2暗号化通信に対応したものをお使いください。
- ◆ 128kbps以上のネットワーク転送速度が必要です。
- ◆ ログサーバーを使用する場合は、Microsoft Jet OLEDB 4.0以降のドライバーをインストールしてください。

サーバー

サーバーとはKVMケーブルを使用して製品本体に接続されているコンピューターを指します。これらのサーバーには下記のハードウェア環境が必要です。

- ◆ VGA、SVGA、またはマルチスキャンポート
- ◆ USB KVMケーブル接続の場合: USB Type-AポートとUSBホストコントローラー
- ◆ バーチャルメディア接続の場合: 追加のUSB Type-AおよびUSBホストコントローラー

ケーブル

- ◆ CN800をLAN、WAN、またはインターネットに接続するには、Cat 5e/6以上のEthernetケーブルを使用する必要があります(ケーブルは製品パッケージには付属していません)。

サポートされるビデオ解像度

解像度	リフレッシュレート
1920×1200	60
1920×1080	60
1600×1200	60
1600×1050	60
1280×1024	60、70、75、85
1280×720	60
1152×864	60、70、75、85
1024×768	60、70、75、85、90、100
800×600	56、60、72、75、85、90、100、120
720×400	70
640×480	60、72、75、85、90、100、120

注意:

上記の表には、デフォルトでサポートされているデバイスのビデオ解像度が記載されています。その他の解像度のサポート状況については、販売店にお問い合わせください。

OS

- ◆ CN800にログインするリモートユーザーのコンピューターでサポートされるOSは、Windows 2000以降、およびJava Runtime Environment(JRE)6、Update 3以降(Linux、Mac、Sunなど)を実行できるその他のシステムが含まれます。
- ◆ CN800に接続するサーバーでサポートされるOSは、下表のとおりです。

オペレーションシステム		バージョン
Windows		2000以上
Linux	RedHat	9.0、Fedora以降 RHEL AS 4、RHEL 5
	SUSE	10 / 11.1以降
	Debian	3.1 / 4.0以降
	Ubuntu	7.04 / 7.10以降
Unix	IBM AIX	5L / V6以降
	FreeBSD	5.5 / 6.1 / 6.2以降
Sun	Solaris	8 / 9 / 10以降
Mac		OS 10.1以降

注意:

LinuxシステムでUSB 2.0をサポートするには、Linuxカーネルが2.6以降である必要があります。

ブラウザ

CN800へのログインに対応したブラウザは次のとおりです。

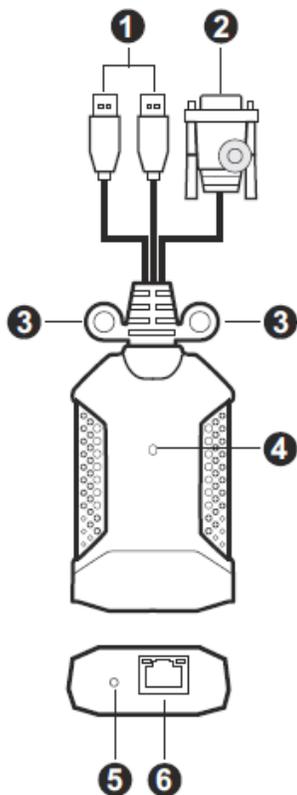
ブラウザ	バージョン
Chrome	45.0.2454.82、51.0.270.103以降
Firefox	33、45.2.0、47.0以降
Safari	9.1.3以降
Edge	25.10586.0.0以降

注意:

Safariの詳細については、p.139「Macシステム」を参照してください。

製品各部名称

CN800



番号	名称	説明
1	USB Type-Aポート	このUSB Type-AおよびVGAコネクタは、PC/サーバーに接続します。
2	VGA入力ポート	
3	SRマウントハンガー	CN800をラックに固定します。詳細はp.11「ラックへのマウント」を参照してください。
4	電源LED	CN800の電源がオンになると、緑色に点灯します。

番号	名称	説明
5	リセットボタン	リセットボタンを3秒以上押すと、製品本体を出荷時のデフォルト設定に戻します。
6	RJ-45ポート	アップリンク接続用にCat 5e/6ネットワークケーブルを接続します。

第2章 ハードウェアのセットアップ



1. 機器の設置に際し重要な情報をp.114に記載しています。作業の前に、必ず目を通してください。
2. 今から接続するすべてのデバイスの電源がオフになっているか確認してください。コンピューターにキーボード起動機能がついている場合は、ここからも電源ケーブルを抜いてください。
3. マニュアル内の指示に従わずにセットアップを行うと、危険な状況に陥ったり、デバイスが損傷したりするおそれがあります。
4. 環境温度が高い場合は、注意してデバイスを操作してください。このような条件下では、デバイスの表面が過熱する可能性があります。例えば、環境温度が50°Cに近づくと、デバイスの表面温度が70°C以上になる場合があります。

ラックへのマウント

次のいずれかの方法を使用して、CN800をラックに固定できます。

ケーブルタイを使用してCN800を固定する場合

ご自身で用意したケーブルタイのテール部分をSRマウントハンガーに通したら、テールをストラップチャンネルに接続し、ストラップをラックに締め付けます。

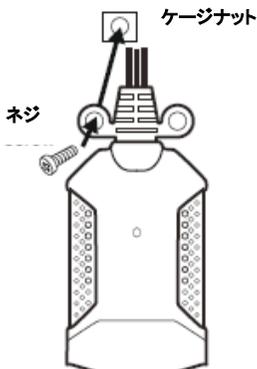
ケーブルタイでCN800を固定



ネジとケージナットを使用してCN800を固定する場合

ネジをSRマウントハンガーの穴を通してケージナットに締め込み、CN800をラックに固定します（ネジとケージナットは、ご自身で準備してください）。この作業を行う前に、ケージナットがラックにしっかりと固定されているか確認してください。

ネジとケージナットでCN800を固定



面ファスナーを使用してCN800を固定する場合

ご自身で用意した面ファスナーを使用して、CN800をラックに固定します。

面ファスナーでCN800を固定



セットアップ

以下の手順に従って、次ページの図(図内の番号は手順に対応)を参照しながら、取り付け作業を行ってください。

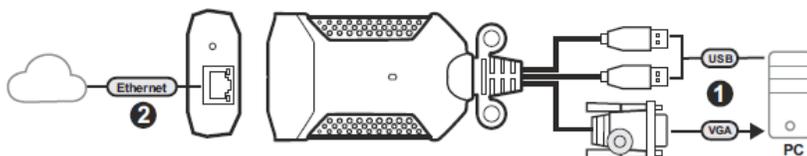
1. CN800のUSBとVGAの各コネクタを、取り付けるPCの対応するポートに接続します。

注意:

CN800はUSBコネクタから電源を供給できます。CN800に給電できるように、両方のUSBコネクタをPCのUSBポートに接続してください。

2. リモート制御が行えるように、Cat 5e/6ケーブルを使って、CN800のRJ-45ポートをLANに接続します。

接続図



第3章 ブラウザからのログイン

CN800には、インターネットブラウザまたは以下の方法でアクセスできます。

- ◆ WindowsClientまたはJavaClient (p.63「Windows/JavaClient ビューア」)
- ◆ WindowsまたはJavaアプリケーション (AP) プログラム (p.64「Windows ClientAP」またはp.68「JavaClient AP」)

以降の章ではブラウザベースの操作方法について説明します。

ログイン

ウェブブラウザからCN800を操作するには、次の手順を実行してください。

1. ブラウザーを開き、アクセス対象となるCN800のIPアドレスをURLバーに入力します。

DHCPを使用しない環境におけるデフォルトIPアドレスは、「192.168.0.60」です。

注意:

1. セキュリティー上の理由から、管理者がログイン文字列を設定している可能性があります。その場合、ログインの際に、IPアドレスの後スラッシュを入れてから文字列を入力してください。次に例を示します。

192.168.0.100/CN800

IPアドレスやログイン文字列がご不明な場合は、お使いのCN800の管理者にご相談ください。

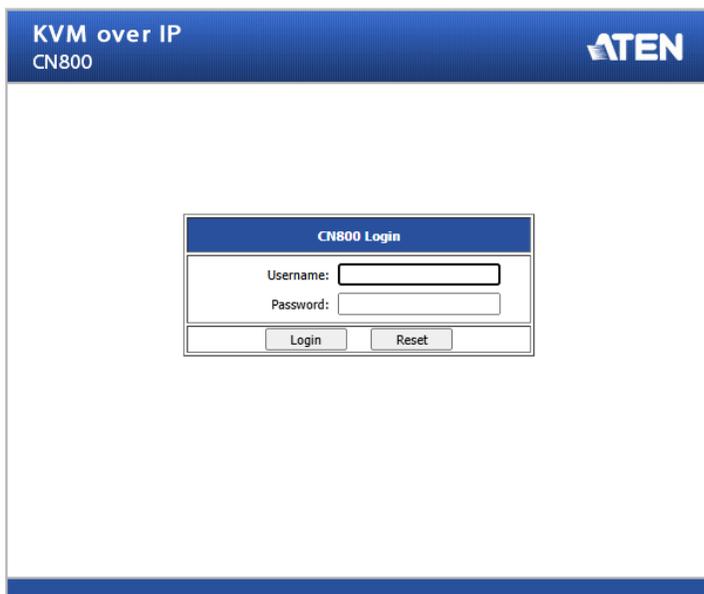
2. アドミニストレーターとして初回ログインを行う場合、複数の方法でCN800にIPアドレスを設定できます。詳細はp.114「付録」を参照してください。
-
2. 「**セキュリティの警告**」画面が表示されたら、「**このウェブサイトへ進む**」をクリックして証明書を受け入れます(詳細はp.125「信頼された証明書」参照)。別のセキュリティの警告に関するダイアログが表示されたら、その証明書

も受け入れます。

注意:

「**セキュリティの警告**」画面の外観は、ブラウザのバージョンによって異なります。

そうすると、CN800ログインページが表示されます。



3. CN800の管理者が設定した有効なユーザーネームとパスワードを入力し、「**ログイン**」をクリックして操作を続行します。

注意:

1. アドミニストレーターとして初回ログインを行う場合は、デフォルトのアカウントでログインしてください(ユーザーネーム: administrator、パスワード: password)。セキュリティ上の理由から、ログインパスワードの変更を求めるプロンプトが表示されます。このパスワードは、ログインパスワードとは異なるものに設定してください。
2. 無効なログインを指定した場合、認証ルーチンは「ユーザーネームまたはパスワードが無効です。再試行してください。」というメッセージを返します。このメッセージが表示された場合は、正しいユーザーネー

ムとパスワードで再度ログインしてください。

ログインに成功すると、メイン画面が表示されます。

メイン画面

ログインに成功すると、CN800のメイン画面が表示されます。

The screenshot shows the main configuration page for a KVM over IP device (CN800). The interface is divided into a left-hand navigation menu and a main content area. The navigation menu includes sections for Basic Setting (User Management, Sessions, Maintenance), Advanced Setting (Device Information, Network, ANMS, Security, Date/Time, Customization), and Preferences (User Preferences, Log, Remote Console, Download, About). The main content area features a 'Device Name' input field containing 'CN800zzzz'. Below this is a 'General' section displaying network parameters: MAC Address (00-10-74-dd-00-a2), Firmware Version (V1.0.063 Build20250115), IP Address (10.3.66.70), Subnet Mask (255.255.255.0), Gateway (10.3.66.254), Preferred DNS Server (10.0.1.6), Alternate DNS Server (10.0.1.7), IPv6 Address (FE80:0:0:0:210:74FF:FEDD:A2), and IPv6 Subnet Prefix Length (0). At the bottom right of the main area is a 'Save' button. At the bottom of the navigation menu, there are 'Viewer' and 'Logout' icons.

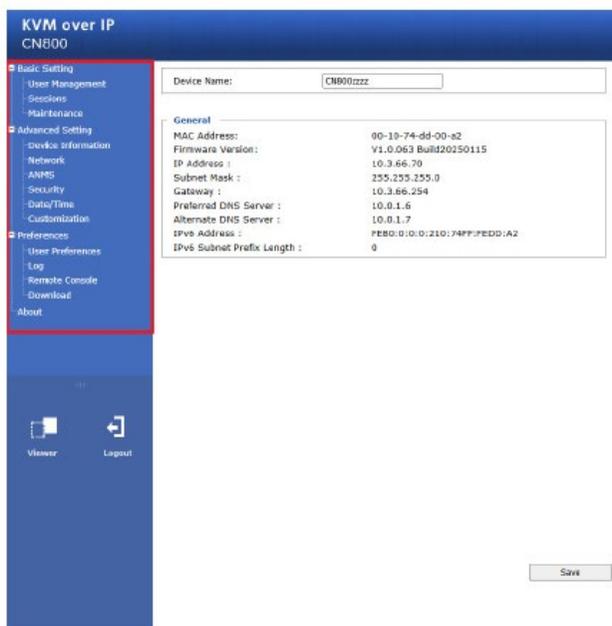
メイン画面の左パネルにはユーザーメニューが提供されています。このメニューの下部には、ビューアイコン(JavaまたはWinClientビューア起動用)と、ログアウトアイコンが表示されます。

注意:

ユーザーが操作権限を持っていない機能のメニューオプションは、表示されません。権限に関する詳細はp.18「ユーザー管理」を参照してください。

はじめに

デバイスの動作環境の設定が行えるCN800の管理ユーティリティは、ウェブ画面の左側のパネルにあるリンクとアイコンから利用できます。本章では、これらのリンクやアイコンについて順に説明します。



注意:

1. 各ダイアログボックスで設定内容を変更する場合は、最後に「**保存**」ボタンをクリックして設定を適用してください。
2. 一部の設定変更を有効にするには、CN800のリセットが必要です。変更を有効にするには、一旦ログアウトしてから再ログインしてください。
3. 設定権限がない場合、管理設定ダイアログはご利用いただけません(p.18「ユーザー管理」参照)。

基本設定

以下のセクションでは、基本設定の画面について説明します。左パネルメニューの「ユーザー管理」、「セッション」、および「メンテナンス」の各リンクをクリックすると、それぞれの画面を表示します。

ユーザー管理

ユーザー管理画面では、CN800にユーザーアカウントを追加・編集・削除したり、各アカウントの役割や権限を変更したりすることができます。

The screenshot displays the 'User Management' interface. On the left, a scrollable list shows existing users: administrator, tester, 123456, 123123, 222222, and test. The main area is a form for user management. It includes 'User Information' with fields for Username, Password, Confirm Password, and Description. Below this is a 'Role' section with radio buttons for Administrator, User, and Select (which is selected). The 'Permissions' section contains several checkboxes: Windows Client, Config, Enable Virtual Media, Java Client, System Log, View only, and Force to Grayscale. There is also a 'Read Only' dropdown menu. At the bottom of the form are four buttons: Reset, Add, Update, and Remove.

ユーザー情報

- ◆ **ユーザーネーム:**これはアカウントのユーザーネームです。
- ◆ **パスワード/パスワードの確認:**パスワードを変更する場合、新しいパスワードを入力した上で、確認用として新しいパスワードを再入力します。
- ◆ **説明:**アカウントの補足説明を入力します。

ロール

これにより、アドミニストレーターはアカウントに許可する権限を選択できます。

- ◆ **アドミニストレーター:**管理者レベルのアクセス権を付与します。「参照のみ」および「強制的にグレースケールにする」を除く、すべての操作権限が付与されます(操作権限は下記参照)。
- ◆ **ユーザー:**ユーザーレベルのアクセス権を付与します。WindowsClientおよびJavaClientの権限が付与されます(操作権限は下記参照)。
- ◆ **選択:**操作権限セクションからユーザーの操作権限を個別に選択できます。

許可

クリックすると、CN800の各操作に対するアクセスを許可・拒否する項目を、有効・無効にします。

- ◆ **WindowsClient**:この項目にチェックを入れると、ユーザーはWindowsClientソフトウェア経由でCN800にアクセスできます。
- ◆ **設定**:この項目にチェックを入れると、ユーザーはCN800の動作環境の設定を定義・変更できます。
- ◆ **バーチャルメディアを有効にする**:この項目にチェックを入れると、ユーザーはCN800のバーチャルメディア機能を使用できます(詳細はp.90「バーチャルメディア」参照)。ユーザーに**読み取り/書き込み権限と読み取り権限のみ**のどちらがあるかを、ドロップダウンメニューで選択します。
- ◆ **JavaClient**:この項目にチェックを入れると、ユーザーはJavaClientソフトウェア経由でCN800にアクセスできます。
- ◆ **システムログ**:この項目にチェックを入れると、ユーザーはログファイルの内容を参照できます。
- ◆ **参照のみ**:この項目にチェックを入れると、ユーザーはキーボードとマウスを操作できなくなります。
- ◆ **強制的にグレースケールにする**:この項目にチェックを入れると、リモート画面がグレースケールで表示されます。これにより、帯域幅が低い状況でI/O転送を高速化できます。

各項目への入力が完了したら、CN800に適用するアクションをクリックしてください。

- ◆ **リセット** - クリックすると、入力欄を消去します。
- ◆ **追加** - クリックすると、CN800に新規アカウントを追加します。
- ◆ **更新** - クリックすると、既存アカウントの設定を更新します。
- ◆ **削除** - クリックすると、選択したアカウントを削除します。

セッション

「セッション」画面において、アドミニストレーターは現在CN800にログインしているすべてのユーザーを表示し、各セッションに関する情報を提供します。

Username	IP	Login Time	Client	Category	Devices	Ports
administrator	10.3.66.66	2025/03/06 14:06:15	Browser	Administrator	None	

End Session

Refresh

各項目の詳細は下表のとおりです。

- ◆ 「IP」列には、ログインしているユーザーのIPアドレスが表示されます。
- ◆ 「クライアント」列は、CN800(ブラウザー、WinClient AP、JavaClient APなど)への接続に使用されるユーザーを表します。
- ◆ 「カテゴリー」列には、ログインユーザーのユーザータイプ(アドミニストレーター、ユーザー、選択)が表示されます。(ユーザータイプの詳細はp.60「ダウンロード」を参照)。

この画面では、アドミニストレーターが選択したユーザーを強制的にログアウトさせることもできます。これを実行するには、対象となるユーザーを選択し、「セッションの終了」ボタンをクリックしてください。

画面を更新するには、「**再読み込み**」をクリックしてください。

メンテナンス

「メンテナンス」画面では、アドミニストレーターが、CN800のファームウェアアップグレード、CN800の設定内容のバックアップやリストア、および、ターミナルを使用したユニットの設定を行うことができます。

メインファームウェアのアップグレード

CN800の新しいファームウェアがリリースされると、弊社ダウンロードサイトに公開されます。弊社ウェブサイト(<http://www.aten.com/jp/ja/>)にて、最新のファームウェアや関連情報を定期的にご確認ください。

ファームウェアのアップグレードは、下記の手順に従って操作を行ってください。

1. 弊社ウェブサイトからCN800の新しいファームウェアファイルをダウンロードし、お使いのコンピューターのハードディスクの適当な場所に保存します。
2. ブラウザーを開いてCN800にログインしたら、左パネルにある「メンテナンス」メニューをクリックします。そうすると、下図のような「ファームウェアファイル」画面が表示されます。

The screenshot shows a web interface for upgrading the main firmware. At the top, there are four tabs: 'Upgrade Main Firmware' (active), 'Update Display Info', 'Backup / Restore', and 'Ping Host'. Below the tabs, the 'Firmware File' section is visible. It includes a checked checkbox for 'Check Main Firmware Version', a 'Filename:' label, a 'Choose File' button, and the text 'No file chosen'. Below this is an 'Upload Progress:' label and a progress bar. At the bottom of the section is a large 'Upgrade Firmware' button.

3. 「ファイルを選択」をクリックしたら、新しいファームウェアが保存されているフォルダーに移動し、ファームウェアファイルを選択します。
4. 「ファームウェアのアップグレード」ボタンをクリックします。

「ファームウェアバージョンを確認する」の項目にチェックが入っている場合、アップグレードを実行すると、現在のファームウェアレベルとアップグレードファイルのファームウェアレベルを比較します。現在インストールされているバージョンの方が新しい場合、処理を中止するという内容のメッセージがダイアログに表示されます。

注意:

古いファームウェアをインストールする場合は、「ファームウェアのアップグレード」ボタンをクリックする前に「ファームウェアバージョンを確認する」の項目からチェックを外してください。

5. アップロードが完了すると、システムアップグレードの進捗状況を示すメッセージが画面に表示されます。
6. システムのアップグレードが完了すると、現在のユーザーは自動でログアウトします。また、システムの再起動がユーザーに通知されます。

注意:

再ログインする場合は、しばらく経ってから操作を行ってください。

ディスプレイ情報の更新

「ディスプレイ情報の更新」画面には、使用するビデオディスプレイやモニターの情報が表示されます。また、ユーザーはビデオ解像度を変更できます。



- ◆ **ディスプレイ情報:** クリックすると、ビデオディスプレイの情報が表示されます。
- ◆ **ディスプレイ情報の更新:** クリックすると、ビデオディスプレイの解像度を変更します。
- ◆ **保存:** クリックすると、変更を有効にします。

バックアップ/リストア

「バックアップ/リストア」画面では、CN800の設定とユーザープロフィール情報のバックアップを作成できます。バックアップされたユーザーアカウントと設定情報は「リストア」セクションに保存されます。リストアを実行すると、CN800で現在設定されている情報は、復元した情報に置き換わります。

The screenshot shows the 'Backup / Restore' tab selected. The 'Backup' section contains a 'Password:' field and a 'Backup' button. The 'Restore' section contains a 'Filename:' field with a 'Choose File' button and 'No file chosen' text, a 'Password:' field, three radio buttons ('Select All' is selected), and an 'Options' section with seven checked checkboxes: 'Device Information', 'ANMS', 'Date/Time', 'Customization', 'Network', 'Security', and 'Account'. A 'Restore' button is at the bottom.

バックアップを作成する場合は、以下の手順に従って操作を行ってください。

1. (オプション)「パスワード」の項目に、ファイルのパスワードを入力します。

注意:

パスワードを設定した場合、ファイルの復元の際にこのパスワードが必要になります。忘れないように記録しておいてください。

2. 「バックアップ」ボタンをクリックします。
3. ブラウザーからファイルの操作が要求された場合は、「保存」を選択し、お使いのコンピューターのドライブの適当な場所に保存します。

注意:

CN800は「sysconfig.cfg」という名前でバックアップファイルを作成します。複数のファイルにバックアップを作成したい場合は、保存の際に名前を変更してください。

バックアップの内容をリストアする場合は、以下の手順で操作してください。

1. バックアップの作成時にパスワードを設定している場合は、このパスワードと同じ文字列を「パスワード」欄に入力します。パスワードを設定していない場合は、空白のまま構いません。
2. 「**ファイルを選択**」ボタンをクリックして、ファイルを選択します。
3. 復元したいバックアップの内容を選択します。
 - ◆ すべての設定情報を復元する場合は、「すべて選択」を選択してください。
 - ◆ ユーザーアカウント情報のみを復元する場合は、「ユーザーアカウント」を選択してください。
 - ◆ バックアップファイルに保存された内容のうち、復元する対象となる部分を個別に選択したい場合は、「ユーザー選択」を選択し、対象項目を選択または選択解除してください。
4. 項目を選択したら、「**リストア**」ボタンをクリックします。

ファイルがリストアされると、処理に成功したという内容のメッセージが表示されません。

ホストへのPing

このセクションでは、デバイスのIPアドレスにpingコマンドを送信して、ネットワーク上で応答しているかどうかを確認できます。デバイスにpingを送信するには、IPアドレスを入力して「Ping」をクリックします。

Upgrade Main Firmware	Update Display Info	Backup / Restore	Ping Host
-----------------------	---------------------	------------------	------------------

Ping Host	
IP address/Host Name	<input type="text" value="10.3.66.70"/> <input type="button" value="Ping"/>
Result	
<pre>Ping 10.3.66.70 with 32 bytes of data: Reply from 10.3.66.70: bytes=32 time = 1 ms Reply from 10.3.66.70: bytes=32 time = 1 ms Reply from 10.3.66.70: bytes=32 time = 1 ms Reply from 10.3.66.70: bytes=32 time = 1 ms</pre>	

詳細設定

次のセクションでは、詳細設定の対象となる管理ユーティリティについて説明します。ここでは、**デバイス情報**、**ネットワーク**、**ANMS**、**セキュリティ**、**日付/時刻**、**カスタマイズ**といった画面が含まれます。

デバイス情報

「デバイス情報」画面には、CN800のステータスに関する情報が表示されます。この画面ではデバイス名を変更できます。

Device Name:	<input type="text" value="CN800"/>
General	
MAC Address:	00-10-74-dd-00-a2
Firmware Version:	V1.0.063 Build20250115
IP Address :	10.3.66.70
Subnet Mask :	255.255.255.0
Gateway :	10.3.66.254
Preferred DNS Server :	10.0.1.6
Alternate DNS Server :	10.0.1.7
IPv6 Address :	FE80:0:0:210:74FF:FEDD:A2
IPv6 Subnet Prefix Length :	0

全般

- ◆ **デバイス名**: 複数のCN800を導入している場合、システムの管理を容易にするため、個々のユニットに名前を付けることができます。この欄に名前(最大16文字)を入力したら「保存」ボタンをクリックしてください。
- ◆ **MAC(1、2)アドレス**: ここにはCN800のMACアドレスが表示されます。
- ◆ **ファームウェアバージョン/FPGA**: CN800の現在のファームウェアバージョンとビルドした日付を示します。CN800の新しいバージョンのファームウェアは、使用可能になると、弊社ウェブサイトからダウンロードできるようになります(p.21「メインファームウェアのアップグレード」参照)。この番号を参照すると、ウェブサイトで使用可能な新しいバージョンがあるかを確認できます。
- ◆ **IPアドレス**: CN800のIPv4(32ビット)アドレスを表示します(レガシー形式)。
- ◆ **サブネットマスク**: IP接続用のサブネットマスクです。
- ◆ **ゲートウェイ**: これはCN800のゲートウェイアドレスです。
- ◆ **IPv6アドレス/IPv6サブネットプレフィックス長**: CN800のIPv6(128ビット)アドレス(新フォーマット)を表示します。詳細はp.121「IPv6」を参照してください。

ネットワーク

「ネットワーク」画面では、CN800のネットワーク環境を設定できます。

IP Installer		
<input checked="" type="radio"/> Enabled	<input type="radio"/> View Only	<input type="radio"/> Disabled
Service Ports		
Program:	<input type="text" value="9000"/>	
HTTP:	<input type="text" value="80"/>	
HTTPS:	<input type="text" value="443"/>	
IPv4 Settings		
IP Address:		
<input checked="" type="radio"/> Obtain IP address automatically [DHCP]		
<input type="radio"/> Set IP address manually [Fixed IP]		
IP Address:	<input type="text" value="0.0.0.0"/>	
Subnet Mask:	<input type="text" value="0.0.0.0"/>	
Default Gateway:	<input type="text" value="0.0.0.0"/>	
DNS Server:		
<input checked="" type="radio"/> Obtain DNS server address automatically		
<input type="radio"/> Set DNS server address manually		
Preferred DNS server:	<input type="text" value="0.0.0.0"/>	
Alternate DNS server:	<input type="text" value="0.0.0.0"/>	
IPv6 Settings		
IP Address:		
<input checked="" type="radio"/> Obtain IPv6 address automatically [DHCP]		
<input type="radio"/> Set IPv6 address manually [Fixed IP]		
IPv6 Address:	<input type="text"/>	
Subnet Prefix Length:	<input type="text" value="64"/>	
Default Gateway:	<input type="text"/>	
DNS Server:		
<input checked="" type="radio"/> Obtain DNS server address automatically		
<input type="radio"/> Set DNS server address manually		
Preferred DNS server:	<input type="text"/>	
Alternate DNS server:	<input type="text"/>	
Network Transfer Rate:	<input type="text" value="99999"/>	KBps
DDNS		
<input type="checkbox"/> Enable		
Host Name:	<input type="text"/>	
DDNS:	<input type="text" value="dyndns.org"/>	
Username:	<input type="text"/>	
Password:	<input type="text"/>	
DDNS Retry Time:	<input type="text" value="1"/>	hour

IPインストーラー

IPインストーラーは、CN800に外部からIPアドレスを設定できるWindows用ソフトウェアです。IPインストーラーの用途に応じて、「有効」、「参照のみ」、「無効」のいずれかのラジオボタンをクリックしてください。IPインストーラーの詳細については、p.118を参照してください。

注意:

1. 「参照のみ」を選択すると、IPインストーラーのデバイスリストにCN800が表示されますが、IPアドレスを変更することはできません。
 2. セキュリティー上の理由から、IPインストーラーの使用後には、この項目を「参照のみ」または「無効にする」に設定することを強く推奨します。
-

サービスポート

CN800が各種ネットワークサービスで使用するポートを指定してください。

- ◆ **プログラム:**これは、WindowsClientとJavaClientの各APプログラムからCN800に接続するためのポート番号です。デフォルトでは9000に設定されています。
- ◆ **HTTP:**ブラウザーからのログインで使用するポート番号です。デフォルトでは80に設定されています。
- ◆ **HTTPS:**セキュリティで保護されたブラウザーによるログインで使用するポート番号です。デフォルトでは443に設定されています。

注意:

1. すべてのサービスポートで設定できる値の範囲は1~65535です。
 2. これらのポートはそれぞれ固有のポートを割り当て、項目間で値が重複しないように設定してください。
 3. イントラネットのようにファイアウォールがない環境では、これらの値がどのように設定されていても影響ありません。
-

ファイアウォールが使用されている場合、管理者はファイアウォールの設定で許可されたポート番号をCN800側でも設定する必要があります。デフォルト以外のポートが設定されている場合、ユーザーはログイン時にIPアドレスの一部としてポート番号を指定する必要があります。そうでない場合、無効なポート番号（またはポート番号なし）が指定されていると、CN800は見つかりません。

IPv4設定

CN800には、本体の起動時にDHCPでIPアドレスを動的に割り当てたり、固定IPアドレスを設定したりすることができます。

- ◆ 動的IPアドレスを割り当てる場合は、「**IPアドレスを自動的に取得する**」ラジオボタンを選択します(デフォルト設定です)。
- ◆ 固定IPアドレスを指定するには、「**IPアドレスを手動で設定する**」ラジオボタンを選択し、IPアドレスを入力してください。

注意:

1. 「IPアドレスを自動的に取得する」の項目を選択し、DHCPを使ってCN800のIPアドレスを自動的に取得する場合、CN800は本体起動後にDHCPサーバーからIPアドレスが割り当てられるのを待機します。1分経過してもアドレスが取得されない場合は、自動的に工場出荷時のデフォルトIPアドレス(192.168.0.60)に戻ります。
2. CN800がDHCPでIPアドレスを割り当てるネットワーク上にあり、そのIPアドレスを確認する必要がある場合は、IPインストーラーを使用できません。詳細についてはp.118「IPアドレスの設定」を参照してください。

CN800は、DNSサーバーアドレスを自動的に割り当てるか、固定アドレスを指定することができます。

- ◆ DNSサーバーのアドレスを自動的に割り当てる場合は、「**DNSサーバーアドレスを自動的に取得する**」のラジオボタンを選択してください。
- ◆ 固定アドレスを指定するには、「**DNSサーバーアドレスを手動で設定する**」のラジオボタンを選択し、必要な情報を入力してください。

注意:

代替DNSサーバーアドレスの指定はオプションです。

IPv6設定

CN800には、ブート時に動的IPv6アドレスを割り当てたり(DHCP)、固定IPv6アドレスを指定したりすることができます。

- ◆ 動的 IPv6アドレスを割り当てる場合は、「**IPv6アドレスを自動的に取得する**」のラジオボタンを選択してください(デフォルト設定です)。
- ◆ 固定IPアドレスを指定するには、「**IPv6アドレスを手動で設定する**」ラジオボタンを選択し、IPアドレスを入力してください。

CN800は、DNSサーバーアドレスを自動的に割り当てるか、固定アドレスを指定することができます。

- ◆ DNSサーバーのアドレスを自動的に割り当てる場合は、「**DNSサーバーのアドレスを自動的に取得する**」のラジオボタンを選択してください。
- ◆ 固定アドレスを指定するには、「**DNSサーバーアドレスを手動で設定する**」のラジオボタンを選択し、必要な情報を入力してください。

注意:

代替DNSサーバーアドレスの指定はオプションです。

ネットワーク転送速度

この項目でリモートコンピューターに対するCN800のデータ転送速度を設定することによって、ネットワークのトラフィック条件に合わせてデータ転送ストリーミングのサイズを調節できます。範囲は4~99999Kilobytes/秒(KBps)です。

DDNS

DDNSは、DHCPサーバーによって割り当てられた動的IPアドレスをホスト名にマッピングします。CN800は、特定の時間間隔でDDNSサーバーのIPアドレスを更新できます。CN800のDDNS機能を有効にするには、下記の手順で操作を行ってください。

1. 「有効にする」の項目にチェックを入れます。
2. DDNSサービスプロバイダーに登録したホスト名を入力します。
3. リストをドロップダウンして、登録するDDNSサービスを選択します。
4. DDNSサービスの認証に使うユーザーネームとパスワードを入力します。
5. 「DDNS再試行回数」欄にDDNSサーバーを更新するまでCN800が待機する時間を入力します。

ANMS

「ANMS」(Advanced Network Management Settings)画面では、外部システムからのログイン認証および権限管理に関する設定を行います。これは複数のセクションに分かれています。それぞれの内容については、後続のセクションで説明します。

イベントの通知先

このセクションでは、SMTP、ログサーバー、SNMPサーバー、およびSyslogサーバーの設定を行います。

The screenshot shows the 'Event Destination' configuration page with the following settings:

- SMTP Settings:**
 - Enable report from the following SMTP Server
 - SMTP Server: [Empty]
 - Service Port: 25
 - My server requires secure connection (SSL)
 - My server requires authentication
 - Account Name: [Empty]
 - Password: [Empty]
 - From: [Empty]
 - To: [Empty]
 - Report IP Address
 - Report system reboot
 - Report user login
 - Report user logout
- Log Server:**
 - Enable
 - MAC Address: 000000000000
 - Service Port: 9001
- SNMP Server:**
 - Enable SNMP Agent
 - Server IP: [Empty]
 - Service Port: 162
- Syslog Server:**
 - Enable
 - Server IP: [Empty]
 - Service Port: 514

■ SMTP設定

SMTPサーバーからCN800のレポートをユーザーにメール通知する場合は、以下の手順に従って操作を行ってください。

1. 「**次のSMTPサーバーからのレポートを有効にする**」の項目を有効にし、SMTPサーバーのIPアドレスとサービスポートをそれぞれ入力します。
2. お使いのSMTPサーバーにSSL接続が必要な場合は、「**サーバーはセキュアな接続(SSL)が必要**」の項目にチェックを入れます。
3. サーバーで認証が必要な場合は、「**サーバー認証が必要**」の項目にチェックを入れて、「**アカウント名**」と「**パスワード**」の各欄にお使いの環境に適した値を設定します。
4. レポートの差出人となるメールアドレスを「**From**」欄に入力します。

注意:

「From」欄に設定できるメールアドレスは1つだけです。また、アドレスは半角英字64文字以内で設定してください。

5. レポートの宛先となるメールアドレスを「**To**」欄に入力します。

注意:

複数の宛先にレポートを配信する場合は、アドレスをセミコロンで区切ってください。また、アドレス全体で半角英字256文字以内になるように設定してください。

6. レポートに含める情報にチェックマークを入れて選択します。
 - ◆ IPアドレスのレポート
 - ◆ システム再起動のレポート
 - ◆ ユーザーログインのレポート
 - ◆ ユーザーログアウトのレポート

■ ログサーバー

CN800で発生した重要な操作(ログインや内部ステータスメッセージなど)は、自動生成されたログファイルとしてログサーバーに保持されます。ログサーバーの設定については、p.104「ログサーバー」を参照してください。ログファイルについては、p.103で説明します。

ログサーバー機能を有効にする場合は「**有効にする**」にチェックを入れ、ログサーバーを実行するコンピューターの**MACアドレス**と**サービスポート**を指定してください。ログサーバーはログの詳細をリッスンします。

注意:

有効なポート範囲は1～65535です。デフォルトでは9001に設定されています。このポート番号は、プログラムポートで使用される番号とは異なるポートを指定してください(p.28「サービスポート」参照)。

■ SNMPサーバー

SNMPサーバーイベントを通知するには、次の手順に従って操作を行ってください。

1. 「**SNMPエージェントを有効にする**」の項目にチェックを入れます。
2. SNMPトラップイベントの通知先となるコンピューターの**サーバーIP**と**サービスポート**を入力します。ポート番号の有効な値の範囲は1～65535です。デフォルトは162です。

注意:

システムの電源投入、ログインエラー、システムリセットなどのSNMPサーバーイベントがサーバーに送信されます。

■ Syslogサーバー

CN800の内部で発生した全イベントを記録し、Syslogサーバーに書き込む場合は、下記の手順に従って設定を行ってください。

1. 「有効にする」の項目にチェックを入れます。
2. SyslogサーバーのサーバーIPとサービスポートを入力します。ポート番号の有効な値の範囲は1～65535です。デフォルトは514です。

認証

CN800では、外部プログラムによるログイン認証と権限設定が可能です。

この画面では、RADIUS、AD/LDAP、およびCCデバイス統合管理を設定できます。

Event Destination Authentication

Disable Device Authentication

RADIUS Settings

Enable

Preferred RADIUS Server IP:

Preferred RADIUS Service Port:

Alternate RADIUS Server IP:

Alternate RADIUS Service Port:

Timeout: sec

Retries:

Shared Secret (at least 6 characters):

AD/LDAP Settings

Enable

Type

LDAP LDAPS

LDAP Server: Port:

Admin DN: Timeout: sec

Admin Name:

Password:

Search DN:

CC Management

Enable

CC Server IP: CC Service Port:

CN800に組み込まれた認証ルーチンの代わりに、RADIUS、LDAP、CCの各認証を使用する場合は、「デバイス認証を無効にする」の項目にチェックを入れます。このオプションを選択すると、CN800のローカルにおけるログイン認証を無効にします。

■ RADIUS設定

CN800への認証と権限設定をRADIUSサーバー経由で行う場合は、以下の手順で操作してください。

RADIUS Settings

Enable

Preferred RADIUS Server IP:

Preferred RADIUS Service Port:

Alternate RADIUS Server IP:

Alternate RADIUS Service Port:

Timeout: sec

Retries:

Shared Secret (at least 6 characters):

1. 「有効にする」の項目にチェックを入れます。
2. 優先および代替RADIUSサーバーのIPアドレスとポート番号を入力します。
3. 「タイムアウト」欄に、CN800がRADIUSサーバーからの応答を待機する秒数を設定します。
4. 「再試行」の項目に、RADIUSサーバーを使ったログインの再試行可能回数を設定します。
5. 「共有シークレット」の項目で、CN800とRADIUSサーバー間の認証に使用する文字列を入力します。

■ AD/LDAP設定

LDAPまたはLDAPSによる認証・承認を可能にするには、Active DirectoryのLDAPスキーマを拡張し、CN800の属性名(iKVM50-userProfileまたはiKVM57-userProfile)を個人クラスのオプション属性として追加する必要があります。

ユーザーは、「ホストへのPing」ページでgetコマンドを実行することで、CN800の属性名を見つけることができます。p.25を参照してください。

LDAPサーバーを設定するにあたり、以下の手順を完了する必要があります。

- 1) Windowsサーバーサポートツールのインストール
- 2) Active Directoryスキーマスナップインのインストール
- 3) Active Directoryスキーマの拡張と更新

AD/LDAP Settings

Enable

Type

LDAP LDAPS

LDAP Server:

Admin DN:

Admin Name:

Password:

Search DN:

Port:

Timeout: sec

LDAP/LDAPS経由でCN800の認証や権限設定を行う場合は、下表の情報を参照してください。

項目	アクション
有効にする	LDAP/LDAPSによる認証や権限設定を行う場合は、この項目にチェックを入れます。
LDAP/LDAPS	ラジオボタンをクリックして、LDAPとLDAPSのどちらを使用するかを指定します。
サーバーIP ポート	サーバーのIPアドレスとポート番号を入力します。デフォルトのポート番号は、LDAPでは389、LDAPSでは636にそれぞれ設定されています。
タイムアウト(秒)	CN800がLDAPまたはLDAPSサーバーからの応答を待機する時間(秒数)を設定します。

項目	アクション
アドミニストレーターDN	この項目は、LDAPまたはLDAPSサーバーの管理者にご確認の上、設定してください。以下、設定例です。 cn=LDAPAdmin,ou=cn800,dc=aten,dc=com
アドミニストレーター名	CN800管理者ユーザーのグループ名を入力します。
パスワード	LDAPアドミニストレーターのパスワードを入力します。
サーチDN	検索ベースの識別名を設定します。これはユーザーネームの検索を開始するDNS名です。 「認証を有効にする」がチェックされていない場合、この項目には、CN800のAdmin Groupが作成されるエントリーを含める必要があります。設定する値についてはLDAP/LDAPSサーバー管理者までご相談ください。

- ◆ RADIUSおよびLDAP設定には、次のキーワードを使用します。

su/[ユーザーネーム] - ユーザーネームはローカルアカウントに存在する実際のユーザーアカウントでなければなりません。
- ◆ CN800では、iKVM50-userProfileとiKVM57-userProfileをLDAP属性として、また、su/[username]を属性値として、それぞれ使用します。

■ CC管理の設定

CN800の認証をCC(コントロールセンター)サーバー経由で行う場合は、「有効にする」の項目にチェックを入れて、CCサーバーのIPアドレスと、通信をリッスンするポート番号を各項目に入力します。

CC Management	
<input checked="" type="checkbox"/> Enable	
CC Server IP: <input type="text"/>	CC Service Port: <input type="text"/>

注意:

「authentication」(認証)とはログインユーザーの信頼性を判断することを、また、「authorization」(認可)とはユーザーに対してデバイスの各種機能の使用権限を定義することを、それぞれ指しています。

セキュリティ

「セキュリティ」画面では、CN800へのアクセスを制御し、ログインエラー・ポリシー、フィルター設定、アカウントポリシー、暗号化設定、動作モード、プライベート証明書および証明書署名要求を設定できます。

ログイン失敗

「ログイン失敗」のセクションでは、ユーザーのログインエラーの処理に適用されるポリシーを設定することで、セキュリティを強化できます。

The screenshot shows the 'Login Failures' configuration window. It contains the following elements:

- Enable:** An unchecked checkbox.
- Allowed:** A text input field containing the number '5'.
- Timeout:** A text input field containing the number '3', followed by the unit 'min'.
- Lock Client PC:** A checked checkbox.
- Lock Account:** An unchecked checkbox.

各項目の意味は以下のとおりです。

- ◆ **ログイン失敗ポリシー:** CN800が適用するログイン失敗ポリシーを選択します。
クライアントPCのロック - この項目を有効にしていると、ログインを試みるコンピューターが許容された失敗回数を超えた場合に、このコンピューターを自動的にロックアウトし、このコンピューターからのログインを拒否します。デフォルトではこの項目が無効になっています。この機能はクライアントコンピューターのIPアドレスに基づいて処理されます。IPアドレスが変更されると、そのコンピューターはロックされなくなります。
アカウントのロック - この項目にチェックが入っていると、ログイン連続試行回数を超えてしまった場合に、そのアカウントは自動的に締め出され、失敗したユーザーネームとパスワードからのログインが拒否されます。デフォルトではこの項目が無効になっています。
- ◆ **許可** - リモートコンピューターからのログイン連続試行可能回数を設定します。デフォルトでは5回に設定されています。
- ◆ **タイムアウト** - ログイン連続試行回数を超えてしまった場合、次のログインを行うのに待機しなければならない時間(分)を設定します。デフォルトでは3分に設定されています。

注意:

「ログイン失敗」の項目を設定していないと、ユーザーは無制限で何度でもログインを試行することが可能になってしまいます。セキュリティ上の理由から、この機能を有効にし、ロックアウトポリシーを有効にすることを推奨します。

フィルター

IPとMACのフィルター機能は、CN800への接続を試みるコンピューターのIPアドレスやMACアドレスに基づいて、このユニットへのアクセスを制御するものです。フィルターはIPとMACの各フィルターとも、それぞれ最大で100項目作成できます。フィルターの設定が行われると、IPフィルターは上部のリストボックスに、MACフィルターは下部のリストボックスにそれぞれ表示されます。

The screenshot shows a configuration window titled "Filter". It is divided into two main sections: "IP Filter" and "MAC Filter".

- IP Filter Section:**
 - Checkbox: Enable IP Filter (checked)
 - Radio buttons: Include, Exclude
 - List box: 192.168.0.100-192.168.0.101
 - Buttons: Add, Modify, Delete
- MAC Filter Section:**
 - Checkbox: Enable MAC Filter
 - Radio buttons: Include, Exclude
 - List box: 00-00-00-00-12-34
 - Buttons: Add, Modify, Delete

Below the IP Filter section, there is a "Login String:" label followed by an empty text input field.

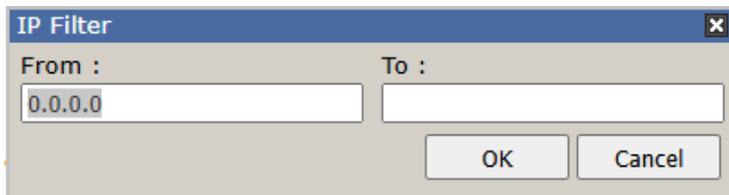
IPによるフィルタリングを有効にする場合は、「**IPフィルターを有効にする**」の項目に、また、MACによるフィルタリングを有効にする場合は「**MACフィルターを有効にする**」の項目に、それぞれチェックを入れてください。

- ◆ 「含む」ボタンを選択すると、フィルター範囲内のすべてのアドレスがアクセスを許可され、それ以外のアドレスはすべて拒否されます。
- ◆ 「除く」ボタンを選択すると、フィルター範囲内におけるすべてのアドレスからのアクセスが拒否されますが、その他のアドレスはすべて許可されます。

■ フィルター項目の追加

IPアドレスのフィルター項目は以下の手順で追加してください。

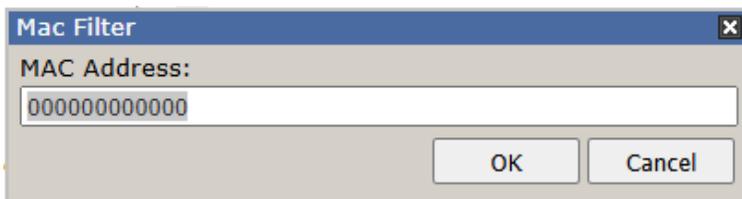
1. 「追加」ボタンをクリックし、フィルタリングの対象となるIPアドレスの範囲を入力したら「OK」をクリックします。



2. 他にもフィルター項目がある場合は、上記の手順を繰り返して設定します。

MACアドレスのフィルター項目は以下の手順で追加してください。

1. 「追加」ボタンをクリックします。そうすると、次のようなダイアログボックスが表示されます。



2. ダイアログボックスでMACアドレスを入力したら、「OK」ボタンをクリックします。
3. フィルタリングする追加のMACアドレスに対して、これらの手順を繰り返します。

注意:

IPフィルターとMACフィルターの間で競合がある場合(例:コンピュータのIPアドレスがIPフィルターによって許可されている一方で、MACアドレスがMACフィルターによって除外されている場合など)、そのコンピュータのアクセスはブロックされます。つまり、どちらかのフィルターがブロックされていると、設定内容にかかわらず、そのコンピュータからのアクセスがブロックされるということになります。

■ フィルターの変更

フィルターを変更する場合は、対象となる項目をフィルターリストボックスから選択して、「**変更**」ボタンをクリックしてください。そうすると、フィルター追加時に表示されるものと同様のダイアログボックスが表示されますので、古いアドレスを削除して新しいアドレスに変更してください。

■ フィルターの削除

フィルターを削除する場合は、対象となる項目をフィルターリストボックスから選択して、「**削除**」ボタンをクリックしてください。

また、フィルターセクションでは、管理者がブラウザでCN800にアクセスする際に（IPアドレスに加えて）ユーザーが含める必要があるログイン文字列を指定することもできます。次に例を示します。

192.168.0.126/CN800

➤ 次の文字が使用できます。

0-9 a-z A-Z ~ !@ \$ ^ & * () _ + ' - = [] { } ; ' < > , . |

➤ 以下の文字は使用できません。

- ◆ % " : / ? # ¥ スペース
- ◆ 複合文字(É Ç Ì...など)

注意:

1. IPアドレスと文字列の間にはスラッシュが必要です。
 2. ここでログイン文字列が指定されていない場合、誰でもIPアドレスのみを使用してCN800のログインページにアクセスできてしまいます。これにより、お使いのシステムの安全性が低下することになります。
-

セキュリティ上の理由から、この文字列を定期的に変更することを推奨します。

アカウントポリシー

システム管理者はこのセクションでユーザーネームやパスワードの管理ポリシーを設定できます。

Account Policy

Minimum Username Length:

Minimum Password Length:

Password Must Contain At Least

- One Upper Case
- One Lower Case
- One Number

Disable Duplicate Login

Enforce Password History

このセクションにおける各項目の内容は下表のとおりです。

項目	説明
ユーザーネーム最小文字数	ユーザーネームの設定に最低限入力が必要な文字数を設定します。設定できる値は1～16です。デフォルトでは6に設定されています。
パスワード最小文字数	パスワードの設定に最低限入力が必要な文字数を設定します。許容値は0～16です。0を設定した場合は、パスワードの入力が不要です。デフォルトでは6に設定されています。
パスワードには以下が必須	これらの項目のいずれかをチェックするには、パスワードに少なくとも1つの大文字、1つの小文字、または1つの数字を含める必要があります。 注意: このポリシーは、既存のユーザーアカウントには影響しません。このポリシーが有効になった後に作成された新しいユーザーアカウントのみが影響を受けます。また、パスワードの変更が必要なユーザーも影響を受けます。
重複ログインの無効化	これをオンにすると、ユーザーが同一アカウントで同時にログインできなくなります。
パスワード履歴を実行する	チェックボックスをオンにして、パスワード履歴ポリシーを適用する回数を入力してください。この数字は、パスワード履歴要件を適用するためにシステムが記憶するパスワードの数を表します。

暗号化

本製品では、キーボード/マウス、ビデオ、バーチャルメディアデータの各信号を柔軟に暗号化できるオプションを提供しています。各信号は、それぞれDES、3DES、AES、RC4、ランダムを自由に組み合わせて設定できます。

Encryption				
Keyboard/Mouse				
<input type="checkbox"/> DES	<input type="checkbox"/> 3DES	<input type="checkbox"/> AES	<input type="checkbox"/> RC4	<input type="checkbox"/> Random
Video				
<input type="checkbox"/> DES	<input type="checkbox"/> 3DES	<input type="checkbox"/> AES	<input type="checkbox"/> RC4	<input type="checkbox"/> Random
Virtual Media				
<input type="checkbox"/> DES	<input type="checkbox"/> 3DES	<input type="checkbox"/> AES	<input type="checkbox"/> RC4	<input type="checkbox"/> Random

暗号化を有効にすると、システムのパフォーマンスに影響します。一方、暗号化を有効にしない場合は最高のパフォーマンスが得られますが、悪影響が大きくなります。暗号化を有効にする場合は、パフォーマンスに与える影響をご一読の上、お使いの環境に最適な設定を行ってください。注意点は下記のとおりです。

- ◆ パフォーマンスに与える影響が最も少ない暗号化はRC4で、その後はDES、3DES、またはAESの順に影響が大きくなります。
- ◆ 複数の暗号化を組み合わせて使う場合、最もシステムに与える影響が小さい組み合わせはRC4とDESです。

動作モード

このセクションでは動作モードのパラメーターを設定します。

Working Mode

- Enable ICMP
- Enable Multiuser Operation
- Enable Virtual Media Write
- Browser Service : Disable Browser
- Disable Authentication

- ◆ **ICMPを有効にすると**、CN800にpingを実行できるようになります。有効になっていないと、デバイスはpingを実行できません。デフォルトでは**有効**に設定されています。
- ◆ **マルチユーザーオペレーションを有効にすると**、複数のユーザーが同一のCN800にログインできるようになります。デフォルトでは**有効**に設定されています。
- ◆ **バーチャルメディアへの書き込みを有効にすると**、ユーザーシステムにおけるリダイレクトされたバーチャルメディアデバイスから、リモートサーバーにデータを送信できるだけでなく、リモートサーバーからデータを書き込むこともできます。デフォルトでは**有効**に設定されています。
- ◆ 「**ブラウザーサービス**」の項目を使用すると、アドミニストレーターはCN800へのブラウザーアクセスの範囲を制限できます。この機能を有効にするには、この項目のチェックボックスを選択し、ドロップダウンメニューでブラウザー制限を設定してください。各項目の詳細は下表のとおりです。

項目	説明
ブラウザーを無効にする	これを選択すると、CN800にはブラウザー経由でアクセスできなくなります。APプログラムからのみアクセス可能です。
HTTPを無効にする	これを選択すると、CN800にはブラウザー経由でアクセスできますが、通常の(HTTP)ログイン接続からはアクセスできません。セキュアなHTTPS(SSL)接続経由でのみアクセス可能です。
HTTPS(SSL)を無効にする	これを選択すると、CN800には通常の(HTTP)ログイン接続経由でブラウザーからアクセスできますが、セキュアなHTTPS(SSL)接続経由ではアクセスできません。

- ◆ 「**認証を無効にする**」にチェックを入れると、ユーザーのログイン認証を行いません。ユーザーは、ユーザーネームとパスワードを入力するだけで、アドミニストレーターとしてアクセスできます。デフォルトでは**無効**に設定されています。

注意:

この設定を有効にすると、セキュリティ面において極めて危険な影響を及ぼすおそれがあります。特別な環境以外では設定しないようにしてください。

プライベート証明書

SSL接続でログインすると、ユーザーが意図するサイトにログインしようとしているかを検証するために署名済み証明書を使用します。デフォルトのATEN証明書を使うのではなく、このセクションで自分のプライベート暗号キーと署名済み証明書を使うように設定することで、セキュリティを強化できます。

Private Certificate

Private Key : No file chosen

Certificate : No file chosen

プライベート証明書を発行するには、自己署名された証明書を作成する方法と、サードパーティーの証明局(CA)によって署名された証明書をインポートする方法の2つの方法があります。

自己署名済み証明書の作成

独自の自己署名証明書を作成する場合は、無料のユーティリティー「openssl.exe」をウェブ経由でダウンロードできます。OpenSSLを使って独自のプライベートキーとSSL証明書を作成する方法の詳細については、p.130「自己署名(プライベート)証明書」を参照してください。

CA署名済みSSLサーバー証明書の取得

セキュリティを強化するために、サードパーティーの認証局(CA)によって署名された証明書を使うことを推奨します。サードパーティーによって署名された証明書を取得する場合は、認証局のウェブサイトにアクセスし、SSL証明書を申請してく

ださい。認証局から証明書が送られて来たら、この証明書をお使いのコンピューターの適当なフォルダーに保存してください。

プライベート証明書のインポート

プライベート証明書をインポートする場合は、下記の手順に従って操作してください。

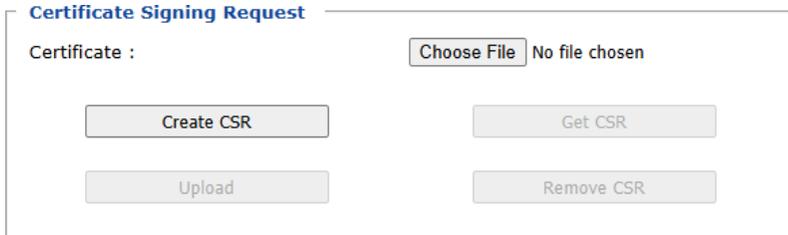
1. 「**プライベートキー**」の右側にある「**ファイルを選択**」をクリックし、プライベート暗号キーのファイルがある場所に移動して、ファイルを選択します。
2. 「**証明書**」の右側にある「**ファイルを選択**」をクリックし、証明書ファイルがある場所に移動して、ファイルを選択します。
3. 「**アップロード**」ボタンをクリックして操作を完了します。

注意:

プライベート暗号キーと署名済み証明書は同時にインポートしてください。

証明書署名要求

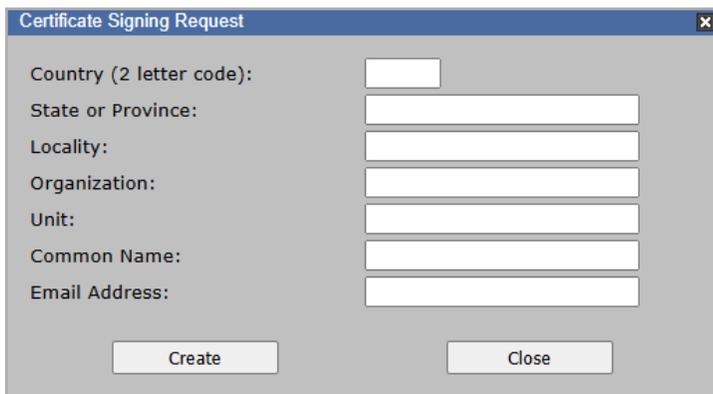
証明書署名要求のセクションでは、CA署名済みSSLサーバー証明書の取得とインストールを自動的に行います。



The screenshot shows a web interface titled "Certificate Signing Request". It features a "Certificate:" label followed by a "Choose File" button and the text "No file chosen". Below this are four buttons: "Create CSR", "Get CSR", "Upload", and "Remove CSR".

この操作を実行するには、次の手順に従って操作を行ってください。

1. 「CSRの作成」をクリックします。そうすると、下図のようなダイアログボックスが表示されます。



The screenshot shows a dialog box titled "Certificate Signing Request" with a close button (X) in the top right corner. It contains several input fields for personal and organizational information:

- Country (2 letter code):
- State or Province:
- Locality:
- Organization:
- Unit:
- Common Name:
- Email Address:

At the bottom of the dialog box, there are two buttons: "Create" and "Close".

2. お使いの環境で有効な値を項目に入力します。下記は入力例です。

情報	例
国(2文字のコード)	TW
州または都道府県	Taiwan
市区町村	Taipei
組織	Your Company, Ltd.
部門	Techdoc Department

情報	例
コモンネーム	mycompany.com ここに証明書を有効にしたいサイトのドメイン名を正確に入力する必要があります。例えば、サイトのドメイン名が「www.mycompany.com」で、「mycompany.com」だけしか入力しなかった場合、この証明書は有効にはなりません。
メールアドレス	administrator@yourcompany.com

3. フォームへの入力完了したら(全項目への入力必須)、「**作成**」をクリックします。そうすると、入力した情報に基づく自己署名証明書がCN800に保存されます。
4. 「**CSRを取得する**」をクリックし、証明書ファイル(csr.cer)をお使いのコンピューターの適当なフォルダーに保存します。
これは、署名済みSSL証明書の申請の際にサードパーティーの認証局へ提出が必要となるファイルです。
5. 認証局から証明書が送られて来たら、この証明書をお使いのコンピューターの適当なフォルダーに保存します。そうしたら、「**ファイルを選択**」をクリックしてファイルを指定し、「**アップロード**」をクリックして、これをCN800に保存します。

注意:

ファイルをアップロードすると、CN800でファイルのチェックを行い、特定の情報が一致しているかどうかを確認します。もし、一致しているのであれば、このファイルを受け入れます。一致しなければ、このファイルを拒否します。

ドメイン名の変更などにより新しい証明書に置き換える必要があるなど、証明書を削除する場合は、「**CSRの削除**」をクリックしてください。

日付/時刻

「日付/時刻」ダイアログ画面では、CN800の時刻パラメーターを設定します。

Time Zone

(GMT-12:00) Eniwetok Kwajalein ▼

Daylight Savings Time

Date

March ▼ < 2025 >

March 2025

Su	Mo	Tu	We	Th	Fr	Sa
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

Time

21 : 27 : 06

Set

Network Time

Enable auto adjustment

Preferred time server

AU | ntp1.cs.mu.OZ.AU ▼

Preferred custom server IP

Alternate time server

AU | ntp1.cs.mu.OZ.AU ▼

Alternate custom server IP

Adjust time every 1 days

Adjust Time Now

パラメーターは下記を参考にしながら設定してください。

タイムゾーン

- ◆ 現在地に最も近い都市を、ドロップダウンメニューから選択してください。
- ◆ この場所が属している国または地域がサマータイムを導入している場合は、「サマータイム」の項目にチェックを入れてください。

日付/時刻

- ◆ ドロップダウンリストから適切な月を選択してください。
- ◆ 前の年に移動する場合は「<」を、また、次の年に移動する場合は「>」を、それぞれクリックしてください。
- ◆ カレンダーから適切な日をクリックしてください。
- ◆ 時刻は24時間制で「HH:MM:SS」のフォーマットで入力してください。
- ◆ 設定内容を保存する場合は「**設定**」ボタンをクリックしてください。

ネットワークタイム

時刻をネットワークタイムサーバーに自動同期させる場合は、下記の手順に従って操作を行ってください。

1. 「**自動調整を有効にする**」の項目にチェックを入れます。
2. ドロップダウンメニューをクリックして、希望のタイムサーバーをタイムサーバーリストから選択します。

– または –

「**優先カスタムサーバーIP**」を有効にして、チェックしたタイムサーバーのIPアドレスを入力します。

注意:

選択した優先タイムサーバーが使用できなくなることによって時刻の問題が発生しないよう、優先タイムサーバーIPの設定を推奨します。

3. 代替タイムサーバーを設定する場合は、「**代替タイムサーバー**」の項目にチェックを入れて、手順2の要領で代替タイムサーバーに関するパラメーターを設定します。

注意:

選択した代替タイムサーバーが使用できなくなると時刻の問題が発生するおそれがあるため、代替タイムサーバーIPの設定を推奨します。

4. 時刻同期を行う間隔となる日数を、「**n日おきに調整する**」の項目に入力して

ください。

- 時刻調整をすぐ実行する場合は、「**今すぐ時刻調整**」ボタンをクリックしてください。

カスタマイズ

このセクションでは、さらにカスタマイズ可能なオプションについて説明します。

Mode	
<input type="checkbox"/> Force All to Grayscale	
<input checked="" type="checkbox"/> Enable Client AP Device List	
USB IO Settings	
OS:	Win
Language:	US English
Multuser Mode	
Multuser Mode:	Share
Occupy Timeout:	3 sec (0-255)
Reset	
<input type="checkbox"/> Reset on exit	Reset Default Values

モード

「**すべてグレースケールに強制表示する**」の項目にチェックを入れると、この機能を有効にします。有効にすると、CN800に接続されているすべてのクライアントのリモート表示がグレースケールに変更されます。これにより、帯域幅が低い状況でI/O転送を高速化することができます。

「**APデバイス一覧を有効にする**」の項目にチェックを入れると、この機能を有効にします。有効にすると、WinClient APまたはJavaClient APを使用するときサーバー一覧でユニットを検出できるようになります(p.64「起動」参照)。この機能を無効にすると、サーバーリストでユニットが検出不能になりますが、接続は可能です。

USB IO設定

OS: 接続ポートのサーバーが使用しているOSを設定します。オプションはWin、Mac、Sun、その他です。デフォルトはWinです。

言語: 接続ポートのサーバーが使用しているOSの言語を設定します。利用可能な項目を参照するにはリストをドロップダウンしてください。デフォルトは英語(US)です。

マルチユーザーモード

マルチユーザーモード:複数のユーザーがログインした際にどのようにポートがアクセスされるかを設定します。設定できる項目は次のとおりです。

- ◆ **排他:**ポートに最初に切り替えたユーザーは、そのポートに対して排他的に制御できます。他のユーザーはこのポートを参照できません。
- ◆ **占有:**最初にポートに切り替えたユーザーが操作を独占しますが、他のユーザーもそのポートのビデオ出力を参照できます。
- ◆ **共有:**複数のユーザーで同時にポートを共有して操作できます。ユーザーからの入力はキューに格納され、古いものから順に実行されます。この設定でお使いの場合、ユーザーはメッセージボード機能を使うことで、共有ポートにおけるキーボードとマウス、またはキーボード・マウス・ビデオ操作の競合を回避できます (p.87「メッセージボード」参照)。

占有タイムアウト:ここで指定した時間内にユーザー入力がない場合、制御権は解放され、次にマウスまたはキーボードを使用したユーザーに転送されます。

リセット

「**デフォルト値のリセット**」をクリックして、CN800をデフォルトのシステム設定にリセットします。ログアウト後にデバイスを再起動する場合は、「**終了時にリセット**」の項目にチェックを入れてください。

設定

次のセクションでは、**ユーザー設定**、**ログ情報**、**リモートコンソール**、**ダウンロード**など、このセクションで説明する管理ユーティリティについて説明します。

ユーザー環境設定

「ユーザー設定」画面では、デバイスのパスワードおよび各種パラメーター（言語、OSD、ログアウトタイムアウト、ビューアなど）を設定できます。

The screenshot shows a 'Settings' window with the following fields and controls:

- Language:** A dropdown menu currently set to 'English'.
- OSD Hotkey:** A dropdown menu currently set to '[Scroll Lock] [Scroll Lock]'.
- Logout Timeout:** A text input field containing '0' followed by 'min'.
- Launch viewer after login:** An unchecked checkbox.
- Viewer:** A list box containing two items: '#1 Win Client' (highlighted) and '#2 Java Client'. To the right of the list are green up and down arrow icons.
- Save:** A button located below the viewer list.
- Old Password:** A text input field.
- New Password:** A text input field.
- Confirm Password:** A text input field.
- Change Password...:** A button located below the password fields.

■ 言語

ドロップダウンメニューをクリックして、インターフェースの表示言語を選択してください。

■ OSDホットキー

OSD機能呼び出すキーボードの組み合わせを選択してください。

注意:

このOSDホットキーは、ローカルコンソール、WindowsClient、およびJavaClientでのみサポートされます。

■ ログアウトタイムアウト

セッションがアイドル状態の場合、ここで設定した時間によって、CN800がセッションを終了するまでの待ち時間が決まります。

■ ログイン後にビューアを起動

このチェックボックスをオンにすると、ユーザーがCN800にログインした後にビューアアプリケーションが自動的に起動します。

■ ビューア

リモートサーバーのディスプレイを参照するときに使用するビューアの検出順序を選択してください。

◆ 変更を有効にするには、「**保存**」をクリックしてください。

■ パスワード

以下の欄を使用して、パスワードを変更してください。

◆ **旧パスワード**: 旧パスワードを入力してください。

◆ **新パスワード**: 新パスワードを入力してください。

◆ **確認用パスワード**: 新パスワードをもう一度入力してください。

設定内容を適用するには、「**パスワードの変更**」をクリックしてください。

ログ

CN800で発生したイベントは、すべて製品本体内部でログとして記録されます。リセットすると、すべてのログが消去されます。ログを参照するには「**ログ情報**」をクリックしてください。

Time	Severity	User	Log Information
2025/03/07 10:20:30	Least	222	OP: User 222 changes to [01] .
2025/03/07 10:20:30	Most	222	OP: User 222 logged in.
2025/03/07 10:20:30	Most	System	OP: User 222 (10.3.66.151) attempting to login.
2025/03/07 10:20:30	Most	System	SYS: Access via windows client 10.3.66.151.
2025/03/07 10:20:30	Most	System	SYS: Connected to 10.3.66.151 (D8-D0-90-01-F8-63).
2025/03/07 10:17:58	Most	System	OP: User 222 from 10.3.66.151 (D8-D0-90-01-F8-63) attempting to login via browser.
2025/03/07 10:13:57	Most	System	OP: User administrator from 10.3.66.66 (94-C6-91-57-EB-D9) attempting to login via browser.
2025/03/07 09:36:56	Most	System	SYS: Accept new IP address 10.3.66.70 for network interface
2025/03/07 09:36:51	Least	System	SYS: System startup.
2025/03/07 09:36:51	Most	System	SYS: Loading system setting. Firmware Version=V1.0.063.20250115

Clear Log

ログファイルには、最大1024件のイベントが保持されます。新しいイベントが記録されると、リストの一番下に書き込まれます。ログファイルに1024件のイベントが記録された後に新しいイベントが記録されると、リスト内の最も古いイベントは破棄されます。

注意:

(直近の1024件だけでなく)発生したすべてのイベントの記録を保持して参照するには、ログサーバーAPプログラムを設定してください。詳細はp.104「ログサーバー」を参照してください。

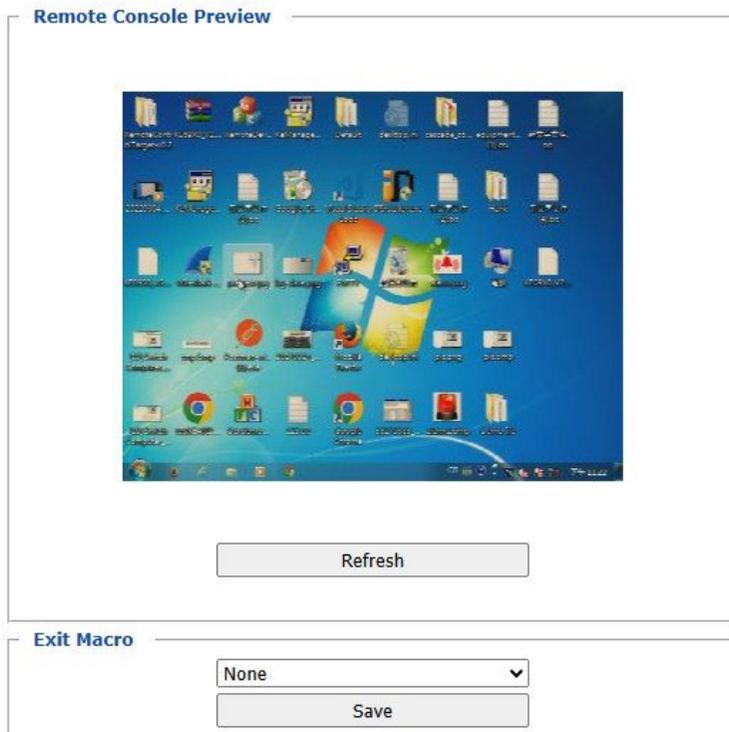
ログファイルを消去するには、画面の右下にある「**ログの消去**」アイコンをクリックしてください。

リモートコンソール

このセクションでは、リモートコンソール関連の設定オプションについて説明します。

リモートコンソールプレビュー

この画面のプレビューには、サーバーの表示のスナップショットが次のように表示されます。



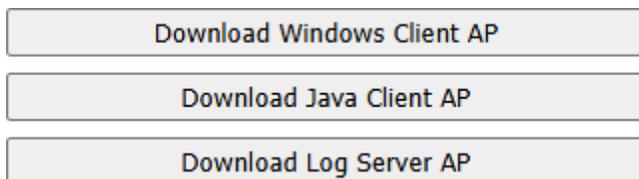
リモートディスプレイのスナップショットを更新するには、「更新」をクリックしてください。

終了マクロ

「終了マクロ」パネルには、ユーザー作成のシステムマクロのドロップダウンリストボックスが含まれています。使用する終了マクロを選択し、「保存」をクリックしてください。終了マクロの作成の詳細については、p.81「システムマクロ」を参照してください。

ダウンロード

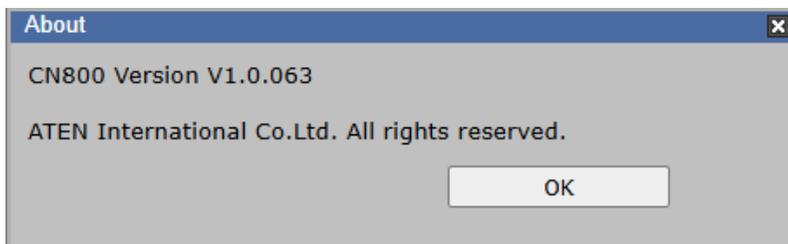
ダウンロード画面では、スタンドアロン版のWindowsClient AP、JavaClient APおよびログサーバーAPをダウンロードできます。



1. ダウンロードしたいAPのボタンをクリックします。
2. 画面の指示に従ってインストールを完了し、デスクトップにプログラムのアイコンを配置します。
 - ◆ WindowsClient APおよびJavaClient APに関する詳細は、p.62「第5章 リモートサーバーへのアクセス」を参照してください。
 - ◆ ログサーバーAPに関する詳細は、p.104「第8章 ログサーバー」を参照してください。

バージョン情報

「バージョン情報」をクリックすると、CN800の現在のファームウェアバージョンと著作権情報が表示されます。



ビューア

「ビューア」アイコンをクリックすると、リモートクライアント(WinClient、またはJavaClient)が呼び出され、リモートサーバーが別のウィンドウに表示されます。

「ビューア」アイコンをクリックしてから1～2秒経つと、リモートサーバーのデスクトップがPC上のウィンドウとして表示されます。表示されるビューアのタイプは、環境設定と使用しているブラウザのタイプによって異なります。

ログアウト

CN800の動作環境の設定が終了したら、「ログアウト」アイコンをクリックしてください。そうすると、CN800のGUIからログアウトします。

第5章

リモートサーバーへのアクセス

はじめに

リモートサーバーには、ローカルシステムと同じようにアクセスできます。ウィンドウが表示されると、リモートサーバーがこのウィンドウ内に表示されます。

- ◆ ウィンドウは、最大化したり、枠をドラッグしてウィンドウのサイズを変更したり、スクロールバーを使用して画面内を移動したりすることができます。
- ◆ ローカルプログラムとリモートプログラムは[Alt] + [Tab]キーで切り替えることができます。

注意:

1. ネットワークの遅延により、キー入力の表示が少し遅れることがあります。また、クリックする前に、リモートマウスがローカルマウスに追いつくまで少し時間がかかる場合があります。
 2. ネットワークの遅延、あるいはローカルマシンの処理能力不足により、画像（特に動画）の画質が劣化する場合があります。
-

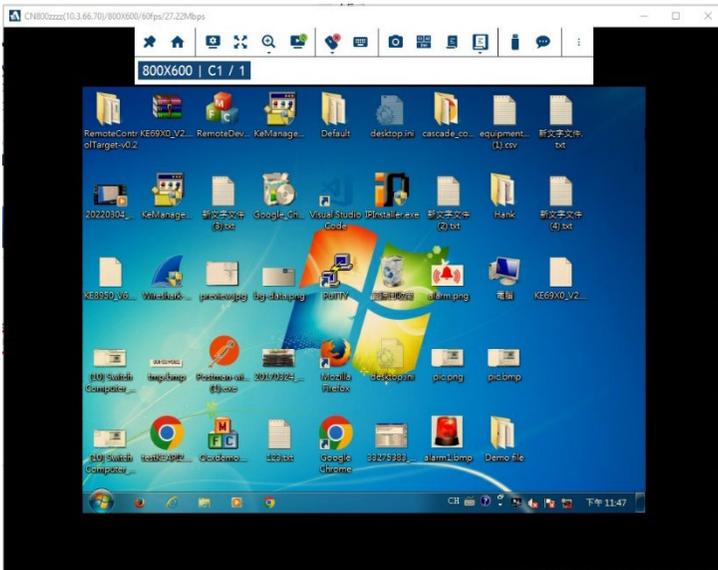
リモートサーバーには複数の方法でアクセス可能です。以下に一覧を示します。

1. ウェブブラウザGUIから直接アクセスする**Windowsビューア**。詳細については、p.63「Windows/JavaClient ビューア」を参照してください。
2. ウェブブラウザGUIから直接アクセスする**Javaビューア**。詳細については、p.63「Windows/JavaClient ビューア」を参照してください。
3. **WindowsClientビューアAP**(ブラウザ不使用)。リモートサーバーへのアクセス方法とビューアの使用方法については、p.64「WindowsClient AP」およびp.69「WindowsClientビューア」をそれぞれ参照してください。
4. **JavaClientビューアAP**(ブラウザ不使用)。リモートサーバーへのアクセス方法については、p.68「JavaClient AP」を参照してください。操作方法はWindowsClientビューアと同じであるため、ビューアのインターフェースの操作については、p.69「WindowsClientビューア」を参照してください。

WindowsClient APおよびJavaClient APをウェブ GUIからダウンロードする方法の詳細については、p.60「ダウンロード」を参照してください。

Windows/JavaClient ビューア

Windows/JavaClient ビューアは、ウェブブラウザからアクセスできます。ウェブ設定画面にログインしたら(p.14参照)、左パネルメニューのビューアイコンをクリックしてください。1～2秒経つと、リモートサーバーのデスクトップがデスクトップ上のウィンドウとして表示されます。



リモートサーバーの操作やアクセスは、コントロールパネルから行います。アクセス/コントロール情報については、p.69「Win/JavaClient のコントロールパネル」を参照してください。デフォルトでは、WinClient ビューアが使用されます。

環境設定の順序を変更すると(p.56「ユーザー環境設定」参照)、異なるクライアントビューアが使用される場合があります。

WindowsClient AP

WindowsClient APIは、ブラウザの設定画面を使わずにWindowsClientにアクセスできるプログラムです。

ダウンロード

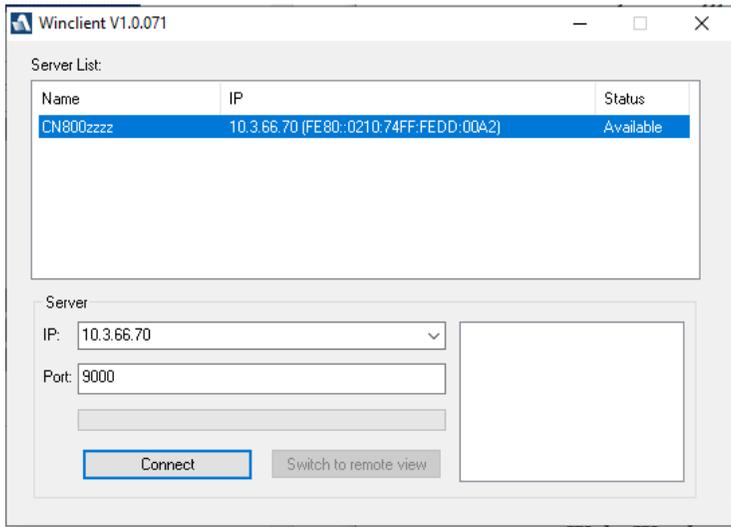
スタンドアロンのWindowsClientプログラムをダウンロードするには、次の手順で操作を行ってください。

1. ウェブ GUIで、ダウンロード画面に移動します。詳細については、p.60「ダウンロード」を参照してください。
2. 「WindowsClient APをダウンロード」ボタンをクリックします。
3. ファイルを使い勝手の良い場所に保存するか、デスクトップにショートカットを作成します。

起動

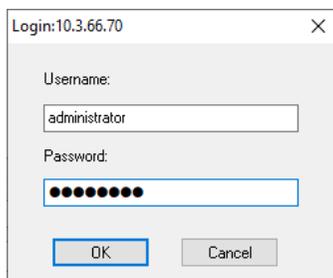
初回実行時には、WindowsClient APを右クリックし、「アドミニストレーターとして実行」をクリックして起動してください。

WindowsClientの接続画面は下図のとおりです。また、各コンポーネントについては次の表で説明します。



項目	説明
サーバーリスト	CN800のWindowsClientプログラムを実行すると、ユーザーのローカルLANセグメントでCN800ユニットを自動検索した結果をこのボックスに一覧表示します。ユニットにアクセスするには、対象となるデバイスをダブルクリックして接続してください。
サーバー	接続したいCN800が離れた場所にある場合は、LAN上では見つかりません。このような場合は、ご自身でIPアドレスとポートを入力してください。 ポート番号がご不明な場合は、CN800の管理者にご確認ください。 接続対象となるユニットのIPアドレスとポート番号を指定したら、「 接続 」をクリックして接続を開始してください。
接続	CN800への接続を開始します。
切断	これらのボタンは、CN800にログインするとアクティブになります。
リモート表示に切り替え	詳細はp.67を参照してください。
メッセージパネル	「サーバー」セクションの右側にある空白のボックスには、サーバー接続の現在の状態が表示されます。

1. ユニットをダブルクリックします。CN800に接続すると、ログイン画面が表示されます。



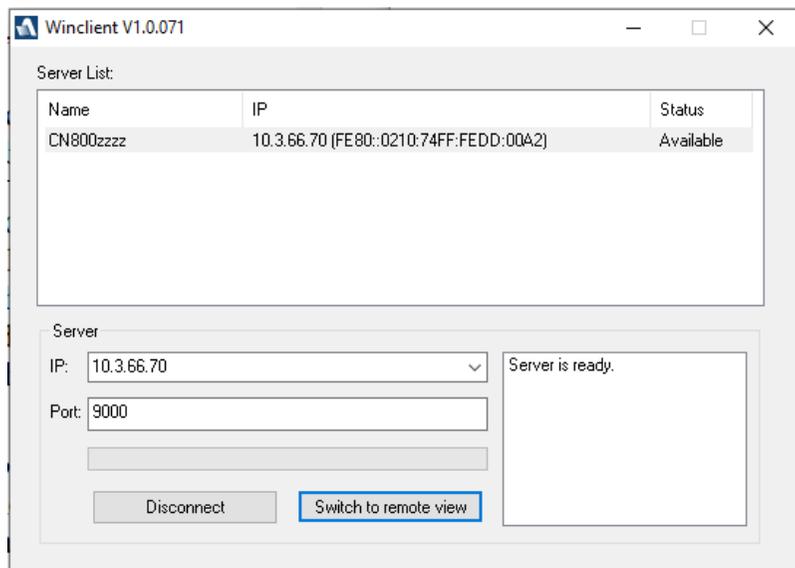
A login dialog box titled "Login:10.3.66.70" with a close button (X). It contains a "Username:" label and a text input field containing "administrator". Below it is a "Password:" label and a password input field with 10 black dots. At the bottom are "OK" and "Cancel" buttons.

2. 操作を続行するには、有効なユーザーネームとパスワードを入力し、「OK」をクリックします。

注意:

デフォルトのユーザーネームは「administrator」、パスワードは「password」です。

ログインに成功すると、接続画面に戻ります。



The main window of Winclient V1.0.071. It features a "Server List" table with one entry: CN800zzzz, IP 10.3.66.70 (FE80::0210:74FF:FEDD:00A2), and Status Available. Below the table is a "Server" section with a dropdown menu set to 10.3.66.70, a port input field set to 9000, and a "Server is ready." status box. At the bottom are "Disconnect" and "Switch to remote view" buttons.

Name	IP	Status
CN800zzzz	10.3.66.70 (FE80::0210:74FF:FEDD:00A2)	Available

このとき、2つのボタンがアクティブになります。説明は下表のとおりです。

ボタン	アクション
切断	CN800への接続を切断します。
リモート表示に切り替え	管理者がユーザーに対して、ブラウザー経由によるCN800への接続を制限する場合があります。リモートビューに切り替えると、ブラウザーベースのWindowsClientで表示されるものと同じリモートサーバーのデスクトップを含むウィンドウがユーザーのデスクトップで開くため、この問題が解消されます。操作の詳細については、「第6章 WindowsClientビューア」を参照してください。

3. 「**リモート表示に切り替え**」をクリックして、リモートサーバーにアクセスします。

リモートアクセスのインターフェースについては、p.69「Win/JavaClientのコントロールパネル」を参照してください。

JavaClient AP

JavaClient APは、すべてのプラットフォームからCN800に対するアクセスを可能にするプログラムです。これは、WindowsClient APと同様に、ブラウザの設定画面を経由せずにJavaClientにアクセスできます。

JRE 6 Update 3以降がインストールされているシステムであれば接続可能です。Javaは、Java ウェブサイト(<https://www.java.com/ja/download/>)から無償でダウンロードできます。

JavaClientの接続画面とその操作手順は、WindowsClient APと同じです。詳細はp.64「WindowsClient AP」を参照してください。

JavaClient APによるリモートサーバーの制御やアクセスもWindowsClientと同じであるため、アクセス・制御情報については、p.69「Win/JavaClientのコントロールパネル」を参照してください。

第6章 WindowsClientビューア

Win/JavaClientのコントロールパネル

WinClientとJavaClientのコントロールパネルは基本的には同じですが、次のような違いがあります。

- ◆ 「マクロ」ダイアログボックスにある「マウスの表示切替」は、WinClientでのみ使用できます。
- ◆ ドットタイプのマウスポインターは、WinClientでのみ使用できます。
- ◆ JavaClientビューアのメッセージボード機能には、ユーザーリストとメッセージパネルの表示と非表示を切り替えるボタンがあります。この機能は、ユーザーリストパネルとメインパネルを分離するバー上部にある矢印ボタンをクリックすることでお使いいただけます。
- ◆ JavaClientでサポートされるバーチャルメディアは、ISOとフォルダーのみです。

コントロールパネルは、画面の上部または下部中央で非表示になっている場合があります（デフォルトは上部）。これはマウスポインターを重ねると表示されます。



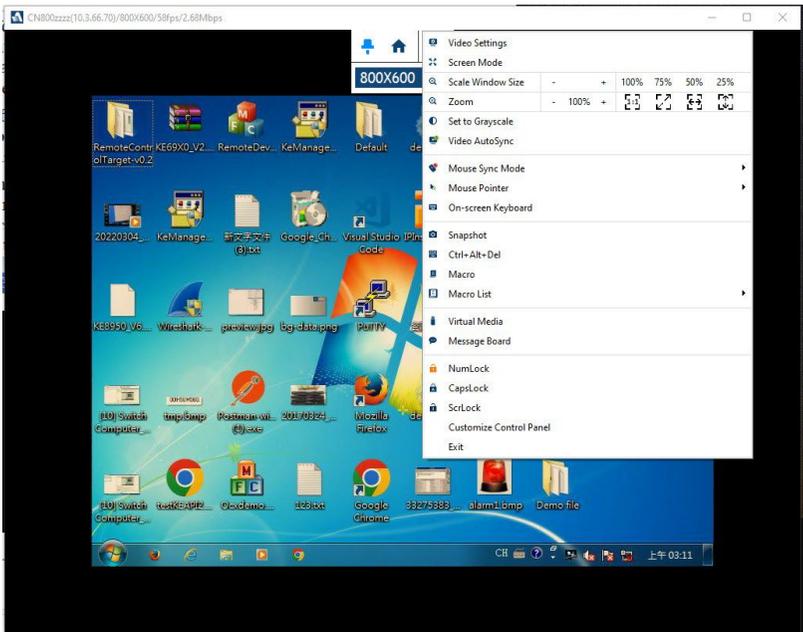
注意:

1. 上のイメージはコントロールパネル全体を示しています。表示するアイコンはカスタマイズできます。詳細については、p.100「コントロールパネル設定のカスタマイズ」を参照してください。
2. コントロールパネルを画面上の別の場所に移動するには、テキストバーの領域上にマウスポインターを重ね、クリックしてドラッグしてください。

-
- ◆ パネルは2行で構成されます。
 - ◆ 2行目には、リモートデスクトップのビデオ解像度、ユーザーが使用中のパス、および情報ボタンが表示されます。このボタンをクリックすると、コントロ

ールパネルにおけるツールバーのメニュー形式バージョンが表示されます（下記参照）。

- ◆ メニュー形式のコントロールパネルは、2行目の領域を右クリックすることでも表示できます。このメニューでは、スクリーンモード、ズーム、マウスポインターの種類、およびマウス同期モードのオプションを選択できます。下のイメージはメニュー形式のコントロールパネル全体を示しており、機能については以降のセクションで説明します。



コントロールパネルの機能

コントロールパネルの機能を以下の表に示します。

アイコン	機能
	これはトグルボタンです。クリックすると、コントロールパネルを常に他の画面要素の上に表示します。もう一度クリックすると、通常の状態に戻します。
	アクセスしているポートでクリックすると、GUIを呼び出します。
	クリックすると、「ビデオオプション」ダイアログボックスを表示します。(詳細は p.84「ビデオ設定」参照)。
	フルスクリーンモードとウィンドウモードを交互に切り替えます。
	クリックすると、リモートディスプレイウィンドウの表示倍率やウィンドウサイズを調整できます。 注意: この機能はウィンドウモード(フルスクリーンモードがオフ)でのみ使用できます。詳細については、p.94「ウィンドウサイズの拡大・縮小」をご参照ください。
	クリックすると、リモート画面の表示をカラー表示とグレースケール表示で交互に切り替えます。
	ビデオとマウスの自動同期を実行します。
	クリックすると、マウスの自動同期と手動同期を交互に切り替えます。 ◆「自動」を選択すると、アイコンに緑色のマークが表示されます。 ◆「手動」を選択すると、アイコンに赤色のマークが表示されます。 この機能に関する詳細については、p.98「マウスダイナミックモード」を参照してください。
	クリックすると、マウスポインターの種類を選択します。 注意: このアイコンは、選択したマウスポインターの種類に応じて変わります (p.97「マウスポインターの種類」参照)。

アイコン	機能
	クリックすると、オンスクリーンキーボード(p.95参照)を起動します。
	クリックすると、リモート画面のスナップショット(画面キャプチャー)を取得します。スナップショットに関するパラメーターの設定方法についてはp.102「スナップショット」を参照してください。
	クリックすると、[Ctrl] + [Alt] + [Delete] の信号がリモートシステムに送信されます。
	クリックすると、「マクロ」ダイアログボックスを表示します(詳細はp.73「マクロ」を参照)。
	ユーザーマクロのドロップダウンリストを表示します(上記の表におけるマクロアイコンと、p.73「マクロ」セクションを参照)。この機能を使うと、「マクロ」ダイアログボックスよりも、マクロへのアクセスや実行がやりやすくなります。
	<p>クリックすると、「バーチャルメディア」ダイアログボックスを表示します。ポートでバーチャルメディアのデバイスをマウントすると、アイコンが変わります。詳細については、p.90「バーチャルメディア」を参照してください。</p> <p>注意:この機能が無効、または利用不可の状態になると、このアイコンはグレーで表示されます。</p>
	クリックすると、メッセージボード(p.87参照)を起動します。
	<p>これらのアイコンは、リモートコンピューターにおける[Num Lock]、[Caps Lock]、[Scroll Lock]の各キーの状態を表します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ ロック状態がオンの場合、LEDは明るいオレンジ色に点灯します。
	<ul style="list-style-type: none"> ◆ ロック状態がオフの場合、LEDは青色になります。アイコンをクリックすると、状態を切り替えます。
	<p>注意:これらのアイコンとローカルキーボードのアイコンは同期しています。アイコンをクリックすると、それに応じてキーボードの対応LEDが変化します。同様に、キーボードのロックキーを押すと、アイコンの色がそれに応じて変化します。</p>
	<p>クリックすると、「コントロールパネルの設定」ダイアログを表示します。コントロールパネルの設定の詳細については、p.100を参照してください。</p>



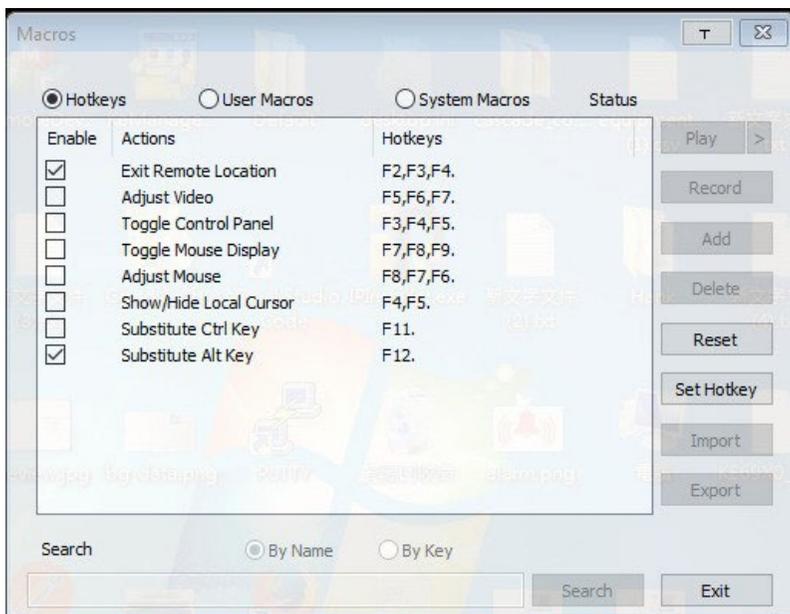
マクロ

マクロアイコンは、マクロダイアログボックスの3つの機能(ホットキー、ユーザーマクロ、システムマクロ)にアクセスできます。

これらの機能については、以下のセクションで説明します。

ホットキー

コントロールパネルのアイコンをクリックして実行されるアクションは、キーボードから入力したホットキーで直接実行できます。「ホットキー」ラジオボタンを選択すると、アクションを実行するホットキーを設定できます。アクションは左側に、また、そのアクションを行うホットキーはその右側に、それぞれ表示されます。アクション名の左側のチェックボックスを使用してホットキーの有効・無効を設定してください。



デフォルトのホットキーの組み合わせで不都合が生じる場合は、下記の手順でホットキーを変更できます。

1. 対象となるアクションをリストから選択し、「**ホットキーの設定**」をクリックします。
2. 選択したファンクションキーを1つずつ押します。そうすると、押したキーの名前が「**ホットキー**」欄に表示されます。
 - ◆ キー入力の順番が同じでなければ、同一ファンクションキーを複数のアクションに使用できます。
 - ◆ ホットキーの設定を取り消す場合は「**キャンセル**」ボタンをクリックしてください。また、アクションの「ホットキー」欄を消去するには「**消去**」ボタンをクリックしてください。
3. マクロキーの順番を入力し終わったら、「**保存**」ボタンをクリックします。

ホットキーの設定をすべてデフォルト値にリセットするには、「**リセット**」ボタンをクリックします。

ホットキーアクションの内容は下表のとおりです。

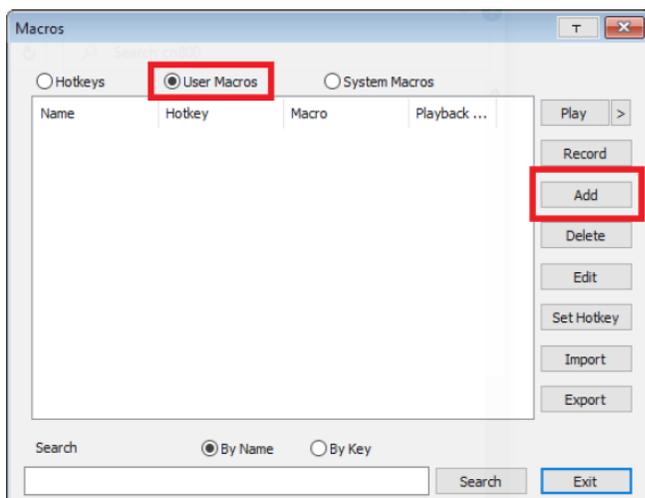
アクション	説明
リモート操作の終了	リモートビューを終了します。これは、コントロールパネルの「終了」アイコンをクリックするのと同じです。デフォルトでは、[F2][F3][F4]に設定されています。
ビデオの調整	「ビデオ設定」ダイアログボックスを表示します。これは、コントロールパネルの「ビデオ設定」アイコンをクリックする操作と同じです。デフォルトでは[F5][F6][F7]に設定されています。
コントロールパネルの切り替え	コントロールパネルの オン と オフ を切り替えます。デフォルトでは[F3][F4][F5]に設定されています。

アクション	説明
マウス表示の切り替え	<p>ローカルとリモートの2つのマウスポインターが表示されて操作しづらい場合は、この機能を使用して、機能しない方のマウスポインターを最小化することで見やすくすることができます。この機能はトグル式であるため、同じホットキーを再度入力するとマウス表示を元の設定に戻します。これは、コントロールパネルの「マウスポインター」アイコンをクリックし、「ドット」ポインターの種類を選択するのと同じです。デフォルトでは[F7][F8][F9]に設定されています。</p> <p>注意: Javaコントロールパネルにはこの機能がありません。</p>
マウスの調整	<p>ローカルとリモートのマウスの動きを同期します。デフォルトでは[F8][F7][F6]に設定されています。</p>
ローカルカーソルの表示・非表示	<p>ローカルマウスのポインターの表示のオンとオフを切り替えます。これは、コントロールパネルにある「マウスポインター」アイコンから「Null」ポインタータイプを選択する操作と同じです。デフォルトでは[F4][F5]に設定されています。</p>
代替Ctrlキー	<p>ローカルコンピューターが[Ctrl]キーの組み合わせをキャプチャーし、ホットキーがリモートシステムに送信されない場合は、[Ctrl]キーの代わりとして使用するファンクションキーを指定することでリモートシステムに送信できます。例えば、[F11]キーを[Ctrl]キーの代わりに使用する場合、[F11] + [5]と入力すると、リモートシステムでは[Ctrl] + [5]キーが押されたこととなります。デフォルトでは[F11]に設定されています。</p>
代替Altキー	<p>基本的にキーボードの入力はキャプチャーされ、リモートシステムへ送られますが、[Alt] + [Tab]と[Ctrl] + [Alt] + [Del]はローカルコンピューターでのみ動作します。リモートシステムに対して[Alt] + [Tab]と[Ctrl] + [Alt] + [Del]の機能を実行したい場合には、任意のファンクションキーを[Alt]キーの代わりに設定できます。例えば、[F12]を代替キーにした場合、[F12] + [Tab]と[Ctrl] + [F12] + [Del]と入力します。デフォルトのキーは[F12]です。</p>

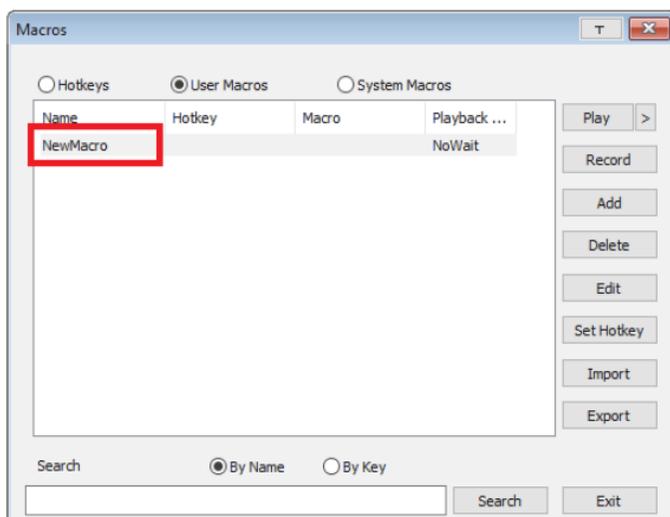
ユーザーマクロ

ユーザーマクロは、リモートサーバーで特定のアクションを実行するのに使われます。マクロを作成するには以下の手順に従って操作を行ってください。

1. 「ユーザーマクロ」ラジオボタンを選択し、「追加」ボタンをクリックします。

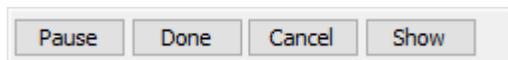


2. 新規マクロはデフォルトで「New Macro」という名前で作成されます。必要に応じて、ダイアログボックスでこの名前を変更します。



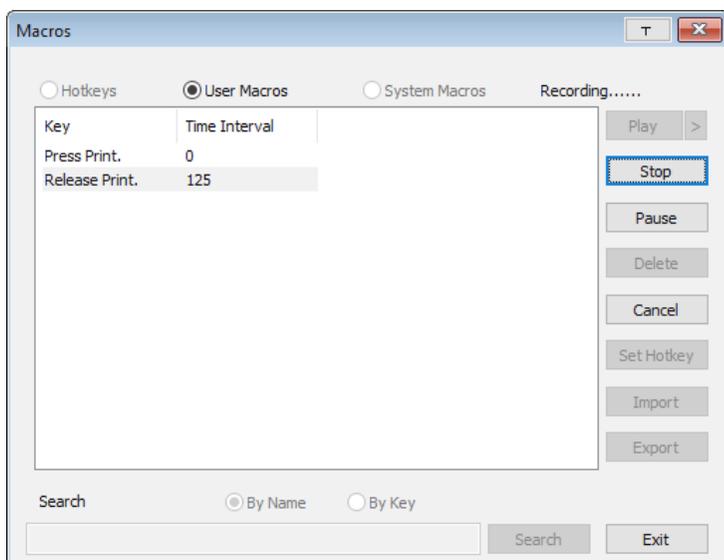
3. 「記録」をクリックします。

ダイアログボックスが終了すると、下図のような小さいパネルが画面左上に表示されます。



4. マクロのキーを押します。

- ◆ マクロの記録を一時停止する場合は、「一時停止」ボタンをクリックします。再開するには、もう一度「一時停止」をクリックします。
- ◆ 「表示」をクリックするとダイアログが立ち上がり、作成したすべてのキー入力と、それぞれに要した時間が一覧表示されます。

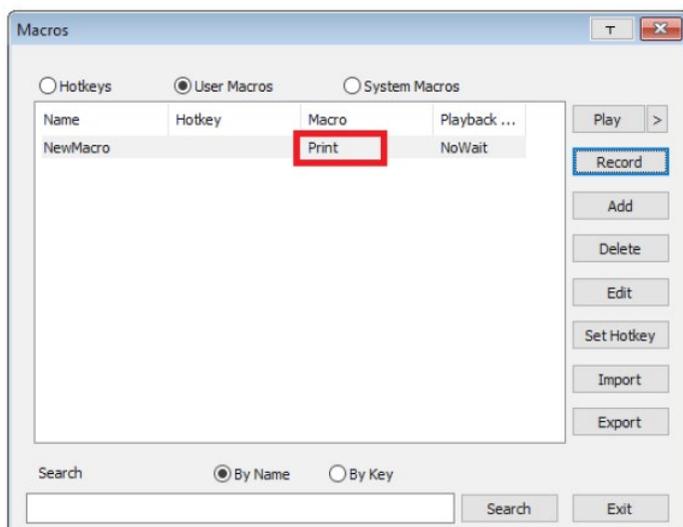


- ◆ 「キャンセル」をクリックすると、すべてのキー入力を取り消します。
- ◆ 入力が完了したら「停止」をクリックしてください。これは、手順5の「完了」をクリックするのと同じです。

注意:

- ◆ 大文字や小文字は区別されません。**[A]**と**[a]**のどちらを入力しても同じ結果となります。
- ◆ マクロを記録する場合は、リモート画面を選択しておいてください。マクロダイアログボックスを選択した状態では記録できません。
- ◆ マクロとして記録できるのは直接入力の子のみで、代替文字は使用できません。例えば、キーボードが中国語(繁体字)でデフォルト文字が**A**の場合、キーボードの切り替えで取得した漢字は記録されません。

-
5. 「表示」ダイアログを立ち上げていない場合は、「完了」をクリックしてマクロの記録を終了します。そうすると、手順1で示した「マクロ」ダイアログに戻ります。

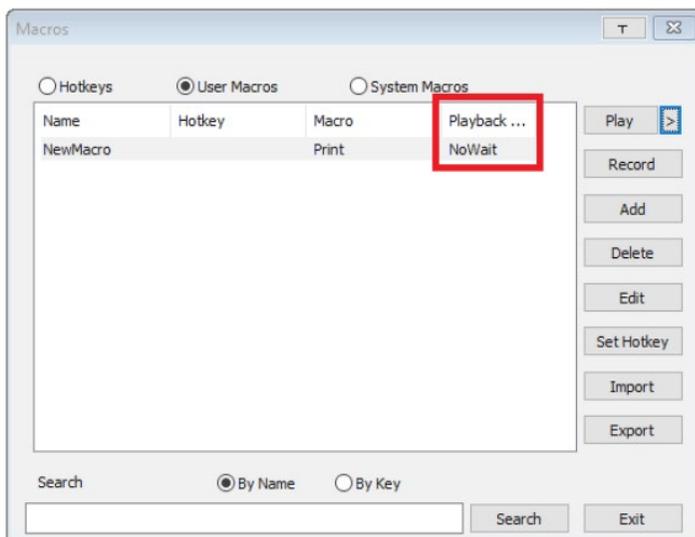


6. p.73「ホットキー」で示したように、各マクロに対して、ホットキーを設定できます。
7. また、再生モードを割り当て、「すぐに再生」または「タイムコントロール再生」のいずれかを選択することもできます。

このダイアログボックスからマクロを実行する場合、マクロの実行方法を指定するオプションがあります。



- ◆ 「すぐに再生」を選択した場合、入力キーの遅延時間なしでマクロを実行します。
 - ◆ 「タイムコントロール再生」を選択した場合、マクロを記録した際のキー入力とその時のキー入力時間の間隔を再現しながら実行します。オプションを選択する場合は「再生」ボタンの隣にある矢印ボタンをクリックしてください。
 - ◆ 一覧を開かずに「再生」ボタンをクリックすると、マクロをデフォルトの方法で実行します。デフォルトの選択内容(「すぐに実行」または「タイムコントロール」)が「再生」列に表示されます。
8. 入力キーを変更する場合は、対象となるマクロを選択し、「編集」ボタンをクリックします。これにより、「表示」を押した時と同様のダイアログボックスが表示されるため、入力キーの種類や順番を変更できます。
 9. 他のマクロを作成する場合も、上記の手順を繰り返してください。作成したマクロは、下記3つの方法のいずれかで実行できます。



1. ホットキーを使用する(ホットキーを割り当てている場合)。
2. コントロールパネルのマクロリストを開き、必要なマクロをクリックする (p.72参照)。
3. このダイアログボックスを開いて、「再生」ボタンをクリックする。

注意:

ユーザーマクロは、各ユーザーのローカルクライアントコンピューターに保存されます。

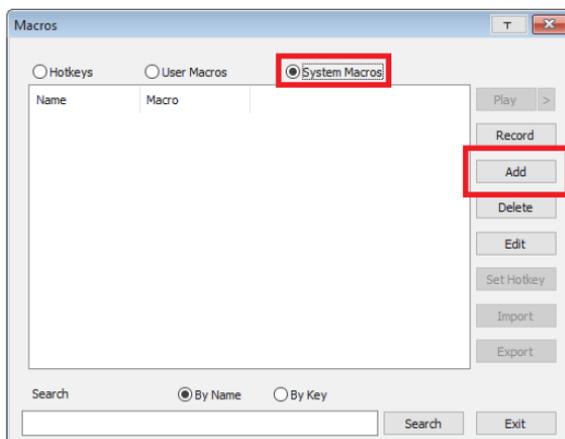
したがって、マクロの数、マクロ名のサイズ、またはそれら呼び出すホットキーの組み合わせに制限はありません。

「検索」ボタンを使うと、上部の大きいパネルに表示されるマクロ一覧の内容をフィルタリングして再生や編集を行うことができます。フィルタリングの条件を名前にするかキーにするかをラジオボタンで選択し、検索に使用する文字列をテキストボックスに入力したら、「検索」ボタンをクリックしてください。そうすると、この文字列に合致するものが、すべて上部パネルに表示されます。

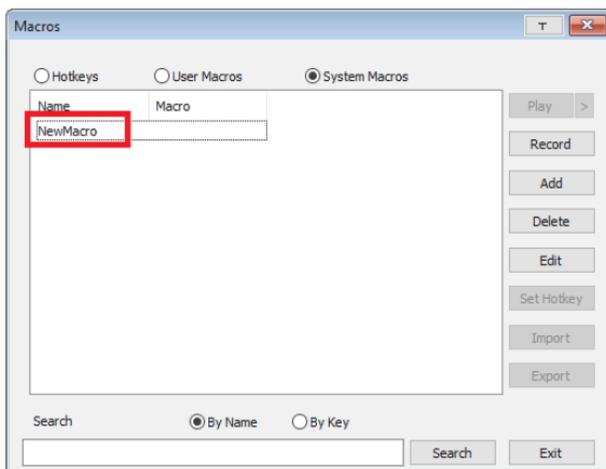
システムマクロ

システムマクロはセッション終了時に実行される終了マクロを作成する際に使用します。例えば、[Windows] + [L]キーをログアウト時に実行するマクロを作成しておくと、ユーザーがその後にデバイスにアクセスした際には必ずリモートデバイスのログイン画面を表示することができるため、セキュリティの強化につながります。マクロを作成するには以下の手順に従って操作を行ってください。

1. 「システムマクロ」ラジオボタンを選択し、「追加」ボタンをクリックします。

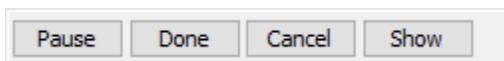


2. 新規マクロはデフォルトで「New Macro」という名前で作成されます。必要であれば、ダイアログボックスでこの名前を変更します。



3. 「記録」をクリックします。

ダイアログボックスが終了すると、下図のような小さいパネルが画面左上に表示されます。



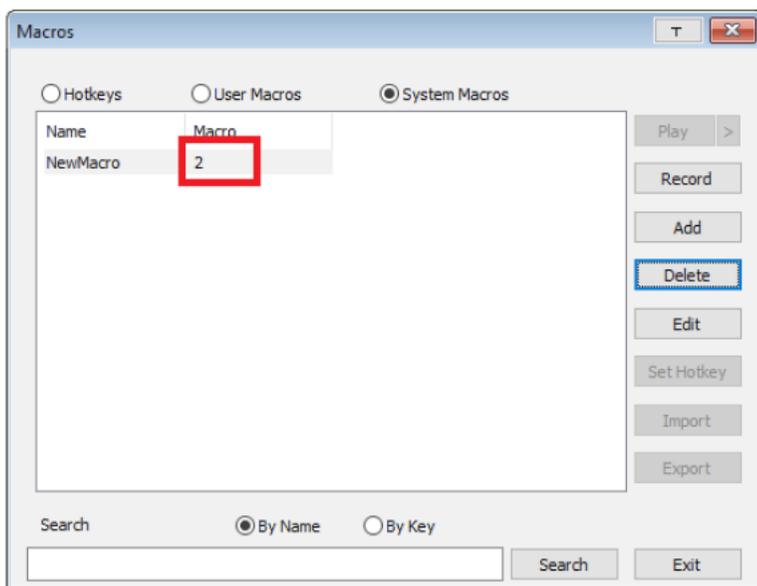
4. マクロのキーを押します。

- ◆ マクロの記録を一時停止する場合は、「一時停止」ボタンをクリックします。再開するには、もう一度「一時停止」をクリックします。
- ◆ 「表示」をクリックすると、作成した各キー入力と各入力に要した時間がダイアログボックスに表示されます。

注意:

- ◆ 大文字や小文字は区別されません。[A]と[a]のどちらを入力しても同じ結果となります。
- ◆ マクロを記録する場合は、リモート画面を選択しておいてください。マクロダイアログボックスを選択した状態では記録できません。
- ◆ マクロとして記録できるのは直接入力のキーのみで、代替文字は使用できません。例えば、キーボードが中国語(繁体字)でデフォルト文字がAの場合、キーボード切替で取得した漢字は記録されません。

5. 「表示」ダイアログを立ち上げていない場合は、「完了」をクリックしてマクロの記録を終了します。「マクロ」ダイアログボックスに戻ると、リストには先程入力したシステムマクロキーが表示されます。



6. 入力キーを変更する場合は、対象となるマクロを選択し、「編集」ボタンをクリックします。この操作で「表示」を押した時と同様のダイアログボックスが表示され、入力キーの種類や順番を変更できます。
7. 他のマクロを作成する場合も、上記の手順を繰り返してください。

システムマクロを作成したら、CN800からログアウトしたときに、そのいずれかを実行するように選択できます（詳細については、p.54「カスタマイズ」を参照してください）。

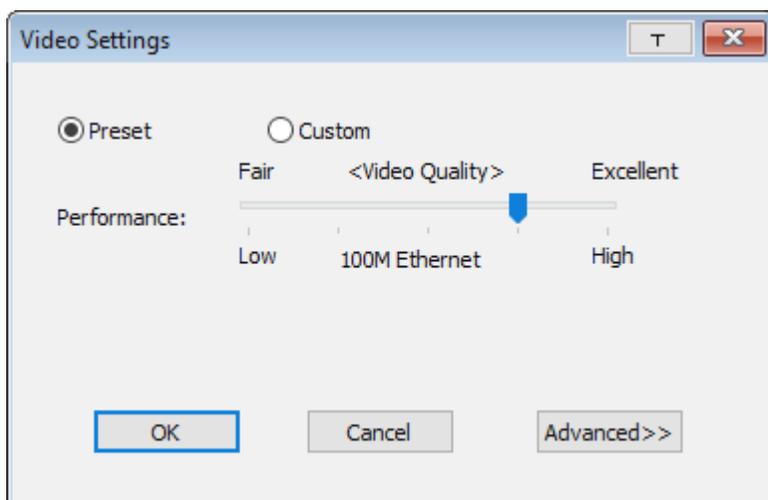
注意：

1. 検索機能については、p.80を参照してください。
 2. システムマクロはCN800の内部に保存されるため、マクロ名は半角英数字64文字以内で、ホットキーの組み合わせは256バイト以内（キー1つの入力で通常3～5バイト使用）でそれぞれ設定してください。
-



ビデオ設定

「ビデオ設定」ダイアログボックスでは、モニター上のリモート画面における表示位置および画質の調節を行います。

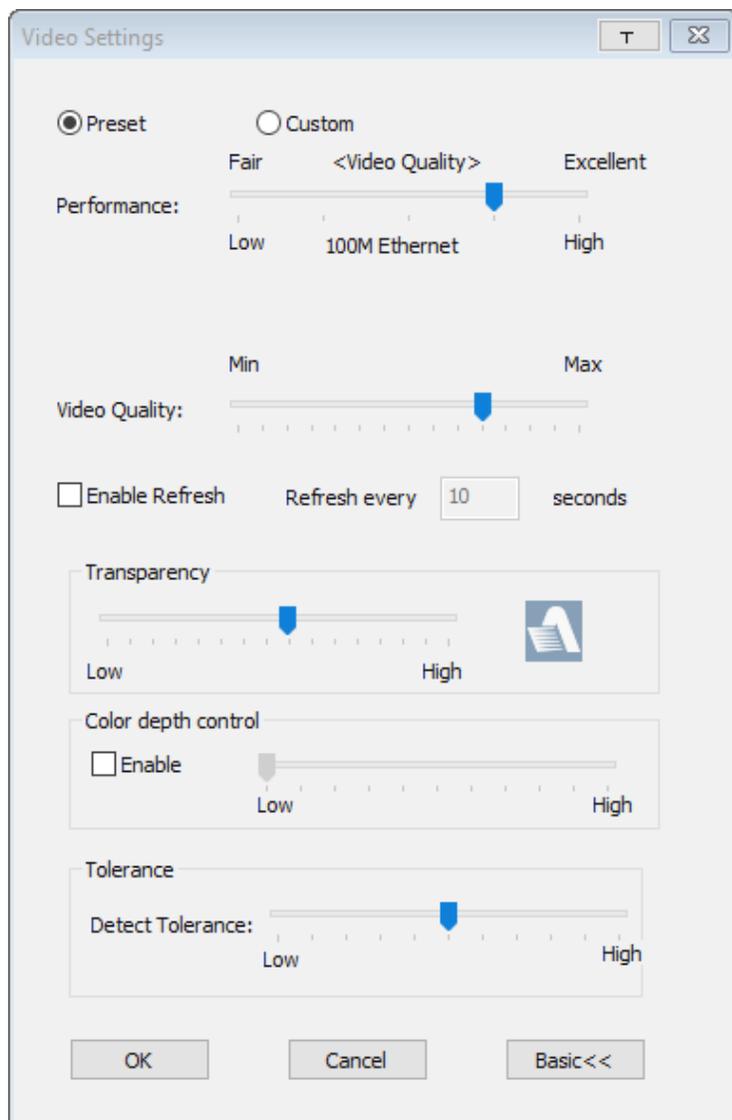


調節オプションは次のとおりです。

オプション	使用方法
	クリックすると、ビデオ設定ダイアログボックスの透明度を調節します。
パフォーマンス	ローカルクライアントコンピューターとCN800の間で使用されているインターネット接続のタイプを選択します。CN800はここで選択した項目によって、ビデオ画質と検出許容値の各項目を自動的に調整し、ビデオの表示画質を最適化します。 ネットワークの状態が異なるため、プリセットのオプションでは不都合が生じるかもしれません。そのような場合には、「カスタマイズ」を選択し、「ビデオ画質」と「検出許容値」のスライダーを使って、お使いの環境に適した値に調節してください。
詳細設定	詳しくはp.85を参照してください。

ビデオ詳細設定

操作を強化したり、リモート表示画面のガンマレベルを調整したりする必要がある場合は、「詳細」ボタンをクリックして、ビデオ詳細設定のガンマ機能を使用してください。



詳細設定画面の追加オプションは次のとおりです。

オプション	使用方法
ビデオ品質	<p>スライダーバーをドラッグしてビデオ全体の画質を調節します。値が大きくなるにつれて、画像はより鮮明に、また、ネットワークに転送されるビデオデータの量はより大きくなります。ネットワークのバンド幅によっては、高い値を設定すると逆にレスポンス時間に影響を与える可能性があります。</p>
再読込を有効にする	<p>CN800は、1～99秒毎に画面を再描画し、ブロックノイズなどの歪みを除去します。「再読込を有効にする」の項目にチェックを入れて、再描画の時間間隔を1～99の整数で入力してください。CN800はここで設定された時間間隔で、画面を再描画します。この機能はデフォルトでは無効になっています。この機能を有効にするには、「再読込を有効にする」の項目にチェックを入れてください。</p> <p>注意:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. CN800は、マウスの動作が止まったタイミングでインターバル時間の計測を開始します。 2. この機能を有効にすると、ネットワーク経由で送信されるビデオデータの音量が増加します。設定するインターバル時間の値が小さくなるに従って、ビデオデータの転送頻度が高くなります。この値を小さくすぎると処理全体のレスポンスに影響を与える可能性がありますので、ご注意ください。
透明度	<p>スライダーバーをドラッグして、コントロールパネルの透明度を調整します。</p>
色深度コントロール	<p>この設定は、色情報の量を調節することによって、ビデオ表示の豊かさを決定します。</p>
許容差	<p>この設定も、ビデオ品質に関係します。ピクセルの変化を検出するか無視するかを制御します。設定値を高くすると、データ転送量が少なくなるため、表示品質が低下する場合があります。設定値を低くするとビデオ品質は向上しますが、しきい値を低く設定しすぎると、転送されるデータが多すぎてネットワークパフォーマンスに悪影響を及ぼす可能性があります。</p>

変更内容を保存し、ダイアログボックスを終了する場合は「OK」をクリックしてください。

変更内容を破棄し、ダイアログボックスを終了する場合は「キャンセル」をクリックしてください。

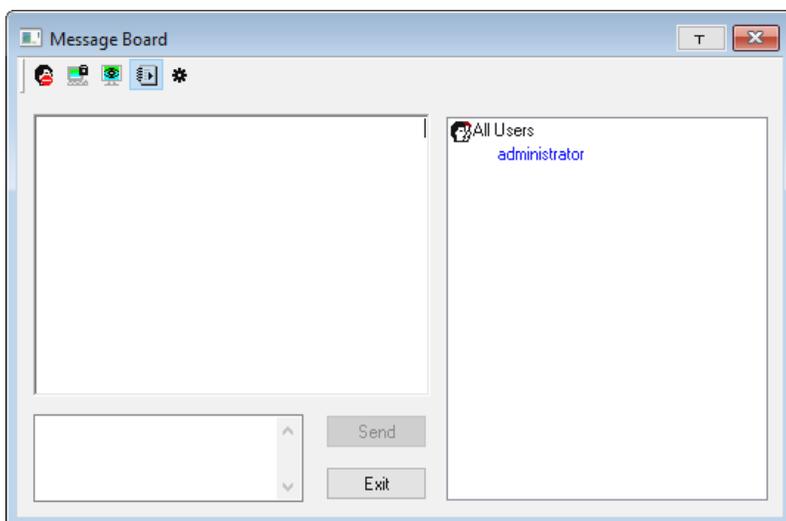
注意:

最適な結果を得るには、リモートコンピューターの画面を見ながら設定値の変更を行ってください。



メッセージボード

複数のユーザーログインによるアクセス競合の可能性を軽減するために、CN800はユーザーの相互通信を実現するメッセージボードを提供します。この機能を使うことで、ユーザー同士で意思疎通を図ることができます。



ボタンバー

ボタンバーにあるボタンはトグルボタンです。各ボタンとその機能は下表のとおりです。

ボタン	アクション
	チャット機能を有効・無効にします。 チャット機能が無効になっている場合、メッセージボードに投稿されたメッセージは表示されず、このボタンは網がけの表示になります。ユーザーがチャット機能を無効にすると、ユーザーリストパネルのユーザーネームの横にこのアイコンが表示されます。
	キーボード/ビデオ/マウスを占有・解放します。 このボタンを使用して、KVMを占有できます。あるユーザーがKVMを占有している場合、他のユーザーは画面の参照およびキーボード/マウスからの入力ができなくなり、このボタンは網がけの表示になります。ユーザーがKVMを占有している場合、ユーザーリストパネルのユーザーネームの横にこのアイコンが表示されます。
	キーボード/マウスを占有・解放します。 ポートが共有モード(p.47「動作モード」参照)に設定されている場合、このボタンを使用してKMを占有できます。あるユーザーがKMを占有している場合、他のユーザーは画面の参照は可能ですが、キーボードやマウスからの入力ができなくなります。また、このボタンは網がけの表示になります。ユーザーがキーボード/マウスを占有していると、ユーザーリストパネルのユーザーネームの横にこのアイコンが表示されます。
	ユーザーリストを表示・非表示にします。 ユーザーリストを非表示にすると、ユーザーリストパネルが終了します。また、ユーザーリストが表示されている時、このボタンは網がけの表示になります。
	メッセージボードのポップアップ設定です。 メッセージを受信したときにメッセージをポップアップ表示するかを有効または無効にするチェックボックスがあります。

メッセージ表示パネル

ユーザーがメッセージボードに投稿したメッセージ(およびシステムメッセージ)は、このパネルに表示されます。ただし、チャットを無効にすると、ボードに投稿されたメッセージは表示されません。

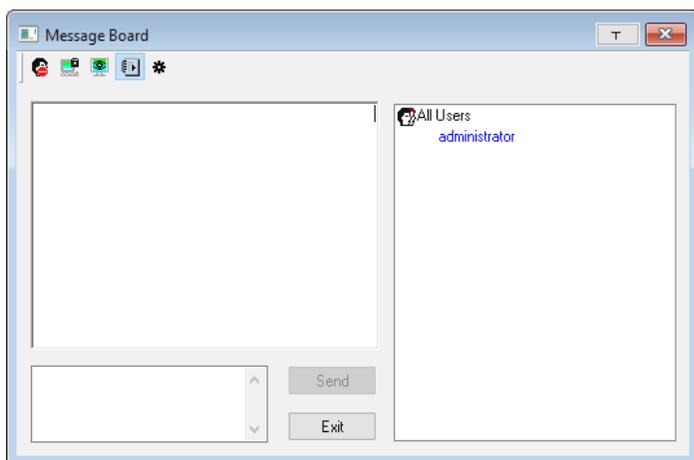
メッセージ編集パネル

メッセージボードに送信したいメッセージをこのパネルで編集してください。「送信」をクリックするか[Enter]キーを押すと、メッセージをボードに投稿します。

ユーザーリストパネル

このパネルには、ログインしているすべてのユーザーの名前が表示されます。

- ◆ 自身の名前は青色で、その他のユーザーの名前は黒色でそれぞれ表示されま
す。
- ◆ デフォルトでは、メッセージはすべてのユーザーに宛に投稿されます。特定のユ
ーザー宛にメッセージを送信したい場合は、宛先となるユーザーを選択してから
メッセージを送信してください。
- ◆ 一旦、ユーザーの名前が選択された状態で再び全員宛にメッセージを送信した
い場合は、「すべてのユーザー」を選択してからメッセージを送信してください。
- ◆ ユーザーがチャットを無効にした場合は、無効を示すアイコンがユーザーの名
前の前に表示されます。
- ◆ ユーザーがKVMまたはKMを占有している場合は、ユーザーの名前の前に占有
を示すアイコンが表示されます。





バーチャルメディア

バーチャルメディア機能を使用すると、ローカルクライアントコンピューター上のドライブ、フォルダー、イメージファイル、またはリムーバブルディスクが、リモートサーバーに接続されているように表示され、動作します。この機能を有効にするには、あらかじめ「USB IO設定」(p.54参照)にて、モードを「バーチャルメディア」に設定しておいてください。

バーチャルメディアは、スマートカードリーダー機能もサポートしており、クライアントPCに接続されたリーダーを、リモートサーバーに接続されているかのように見せることができます。

バーチャルメディアのアイコン

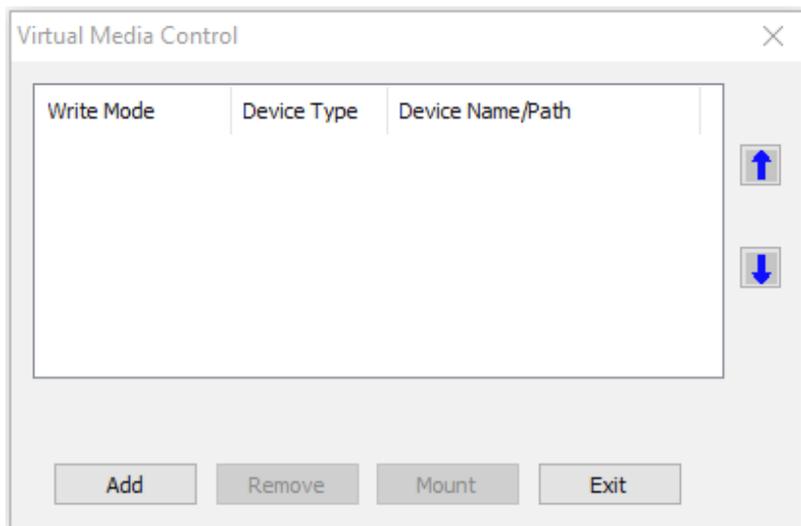
コントロールパネルのバーチャルメディアアイコンは、バーチャルメディア機能が利用可能かどうか、また、バーチャルメディアデバイスがリモートサーバーにマウントされたかどうかを表します。各アイコンが示す機能の詳細は下表のとおりです。

アイコン	機能
	バーチャルメディア機能が無効または利用できない場合、このアイコンが表示されます。
	バーチャルメディア機能が利用可能である場合、このアイコンが表示されます。このアイコンをクリックするとバーチャルメディアのダイアログボックスを表示します。
	バーチャルメディアデバイスがリモートサーバー側にマウントされていると、このアイコンが表示されます。このアイコンをクリックすると、リダイレクトされているデバイスはすべてマウントが解除されます。

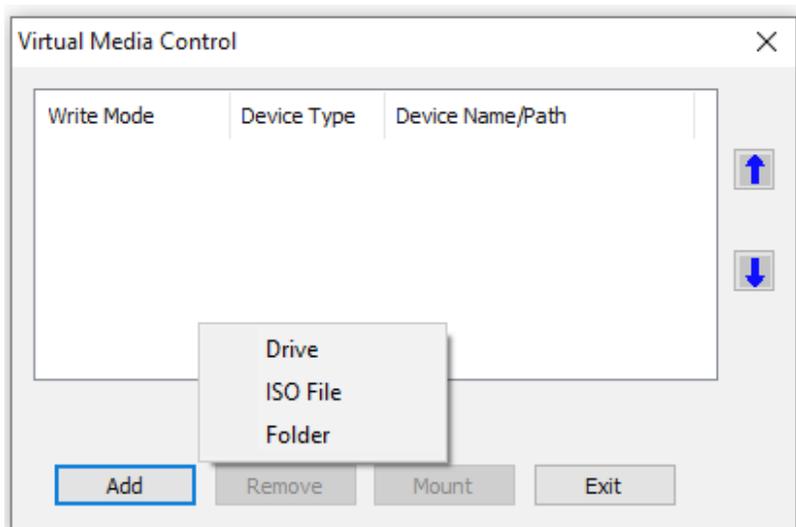
バーチャルメディアのリダイレクト

バーチャルメディアのリダイレクト機能を実行する場合は、次の手順に従って操作を行ってください。

1. バーチャルメディアのアイコンをクリックして、「バーチャルメディア操作」ダイアログボックスを表示します。



2. 「追加」ボタンをクリックし、ソースメディアを選択します。



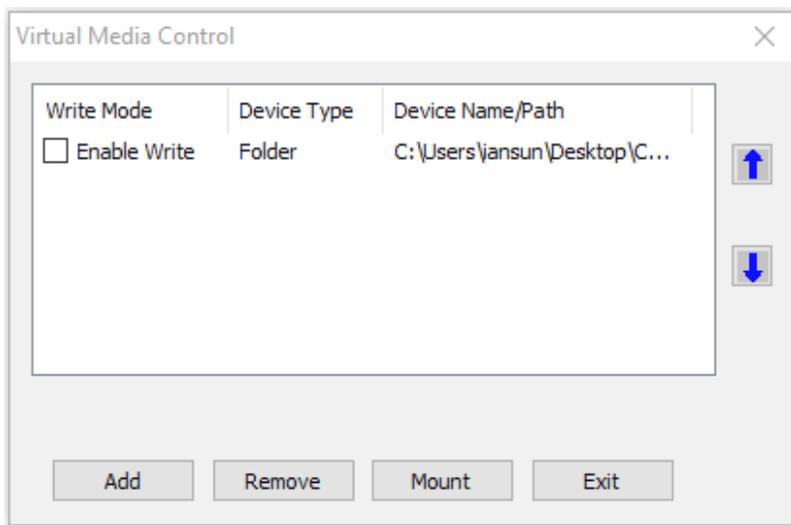
選択した項目によっては、ドライブ、ファイル、フォルダー、リムーバブルディスクを選択するダイアログボックスが追加で表示されます。各メディアのマウント方法の詳細については、p.143「サポートされるバーチャルメディア」を参照してください。

3. ソースメディアを追加する場合は、「追加」ボタンをクリックして必要となるメディア

をすべて選択します。

最大3種類のバーチャルメディアをマウントできます。リストの上位3つの項目は、選択済みのもので、選択された項目の順番を入れ替える場合は、移動対象となるデバイスを選択し、上下の矢印ボタンをクリックしてリスト内で位置を移動させます。

- 「読み込み」は、リモートサーバーにデータを送信することのできるリダイレクトされたデバイスを表します。また、「書き込み」は、リモートサーバーからのデータが書き込み可能な状態になっているリダイレクトされたデバイスを指しています。デフォルトでは、「書き込み」は有効になっていません(読み取り専用)。リダイレクトされたデバイスの読み取りと書き込みを同時に許可する場合は、「書き込みを有効にする」の項目にチェックを入れてください。

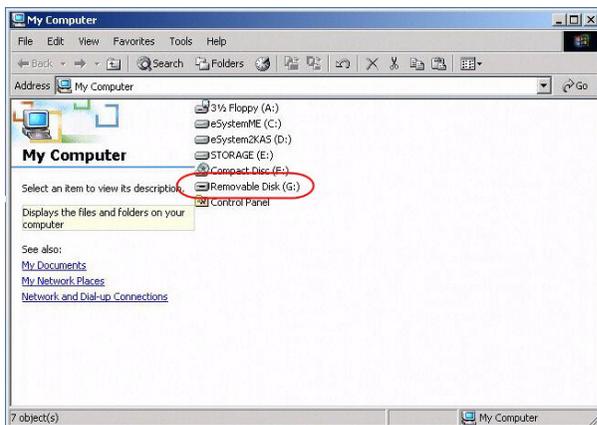


注意:

- リダイレクトされたデバイスに書き込みができない場合、またはユーザーに書き込みの操作権限がない場合、リスト中ではグレーで表示され、選択不可になります。
- サポートされるバーチャルメディアタイプの一覧については、p.143を参照してください。

- リストから項目を削除する場合は、対象となる項目を選択してから、「削除」ボタンをクリックします。

6. ソースメディアの選択後に「マウント」ボタンをクリックすると、ダイアログボックスは終了します。選択されたバーチャルメディアのデバイスはリモートシステムにリダイレクトされ、リモートシステムのドライブ、ファイル、およびフォルダーとして表示されます。



バーチャルメディアをマウントすると、実際にリモートサーバー上にあるメディアと同様の操作感で扱うことができるため、ファイルをリモートシステム上でドラッグ&ドロップしたり、編集用にファイルを開き、リダイレクトされたメディアなどに保存したりすることができます。

リダイレクトされたメディアに保存したファイルは、実際にはローカル側のファイルシステムに保存されます。また、リダイレクトされたメディアからドラッグしたファイルは、実際にローカルシステム側から取得することになります。

7. リダイレクトを終了するには、コントロールパネルを表示してバーチャルメディアのアイコンをクリックします。マウントされたデバイスはすべて自動的にマウントが解除されます。



ウィンドウサイズの拡大・縮小

ズームアイコンは、以下で説明するように、リモートビューウィンドウの表示倍率とそのサイズを制御します。

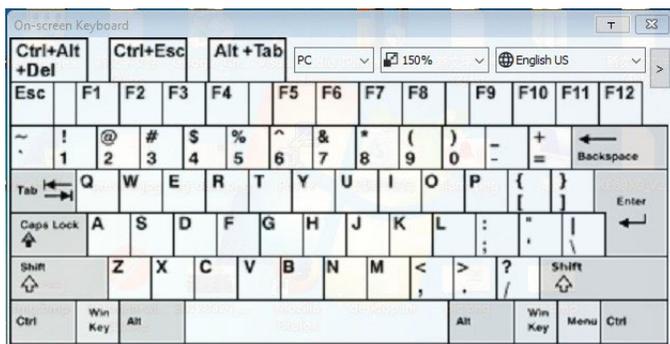
設定	オプション	説明
ウィンドウ サイズの調整	100%	ウィンドウを設定された倍率で表示します。
	75%	
	50%	
	25%	
ズーム		サーバーのビデオ解像度に従って表示されるコンテンツの表示倍率を設定します。
		表示されるコンテンツの表示倍率を、ウィンドウのサイズに合わせて設定します。
		表示されるコンテンツの表示倍率を、ウィンドウの幅に合わせて設定します。
		表示されるコンテンツの表示倍率を、ウィンドウの高さに合わせて設定します。



オンスクリーンキーボード

CN800は、サポートされている各言語のすべての標準キーとともに、複数の言語で使用可能なオンスクリーンキーボードをサポートしています。

このアイコンをクリックすると、オンスクリーンキーボードがポップアップ表示されます。



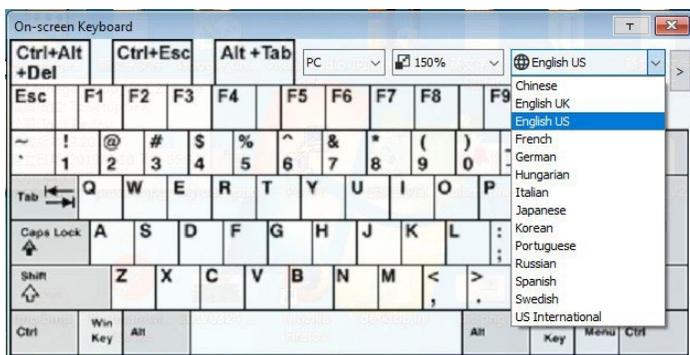
オンスクリーンキーボードの主な利点の1つは、リモートシステムとローカルシステムのキーボード言語が違っていても、システム設定を変更する必要がないことです。ユーザーは画面上のキーボードを呼び出すだけで、アクセスしているポートでコンピューターが使用している言語を選択し、画面上のキーボードで通信できます。

注意:

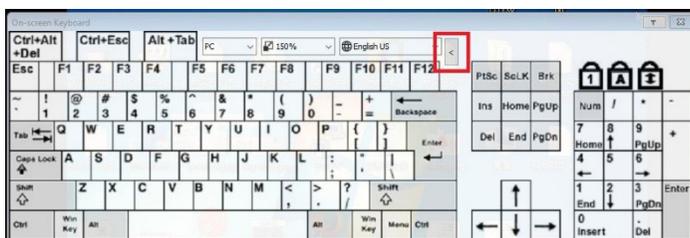
オンスクリーンキーボードの操作はマウスで行ってください。実際のキーボードで操作することはできません。

言語を変更するには、以下の手順で操作を行ってください。

1. 現在選択されている言語の隣にある三角ボタンをクリックし、リストを展開します。



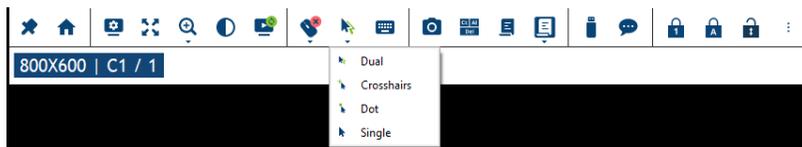
2. リストから新しい言語を選択します。
展開したオンスクリーンキーボードのキーの表示・非表示を切り替えるには、言語選択リストの右隣にある矢印ボタンをクリックします。





マウスポインターの種類

CN800は、リモート画面で使用するマウスカーソルのポインターを数種類提供しています。このアイコンをクリックすると、使用するタイプを選択できます。



注意:

1. ポートにアクセスする前にWindowsビューアで利用できるポインターは、デュアルと十字のみです。ポートにアクセスすると、3種類のポインターが使用可能になります。
 2. シングルポインターは、JavaClientビューアやJavaClientAPでは使用できません。
 3. シングルポインターを選択すると、マウスポインターは「マウス表示の切り替え」のホットキーを実行した時と同じ状態になります (p.75参照)。
 4. コントロールパネルのアイコンは、現在使用しているポインターの種類に応じて変わります。
-



マウスダイナシクモード

このアイコンをクリックすると、ローカルとリモートのマウスポインターの同期を自動と手動のどちらで行うかを選択できます。

ツールバーのアイコンは、同期モードの状態を次のように示します。

アイコン	機能
	このアイコンの緑色のマークは、マウスダイナシク機能が使用可能で、かつ 有効 であることを示します。これは、マウスダイナシクが使用可能な場合のデフォルト設定です。
	このアイコンの赤いマークは、マウスダイナシク機能は使用可能ではあるものの、 無効 であることを示します。

マウスダイナシクが使用可能な場合、アイコンをクリックすると有効または無効に切り替わります。マウスのダイナシクモードを無効にする場合は、次のセクションで説明する手動同期の手順を実行する必要があります。

マウスの自動同期(ダイナシク)

マウスダイナシクは、リモートとローカルのマウスポインターを自動同期します。これにより、2つの動きを頻繁に再同期する必要がなくなります。

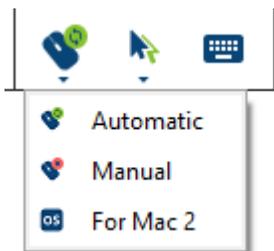
手動設定によるマウス同期

自動同期のマウスダイナシクではなく、手動のマウス同期を行い、かつローカルとリモートのマウスポインターが同期を失った場合、いくつかの方法で再同期できます。

1. マウス調整のホットキーを使用して、**マウス調整機能**を呼び出します(詳細は p.75参照)。
2. 画面の四隅にマウスポインターを動かします(動かす順序は問いません)。
3. 画面上のコントロールパネルをドラッグして別の位置に移動させます。
4. 本体に接続されているコンピューターのうち、マウスの同期に問題あるものを対象に、マウスポインターのオプション(速度、精度)の設定を行います。手順の詳細はp.140「その他のマウス同期方法」を参照してください。

Mac/Linuxの環境における注意事項

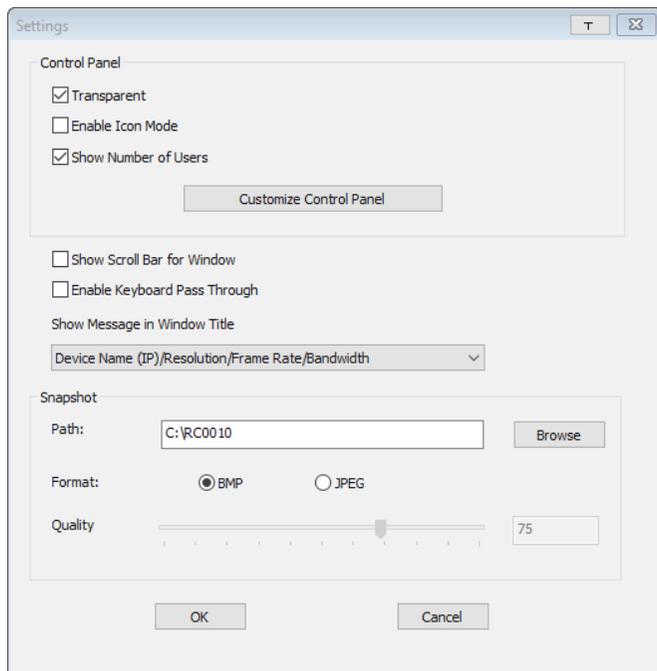
- ◆ Mac OS バージョン10.4.11以降をお使いの場合、マウスダイナシク機能が有効であれば、別の方法でダイナシク機能の設定を行うことができます。デフォルト設定の同期方法で十分な結果が得られなかった場合は、「Mac 2」の設定をお試しください。「Mac 2」の項目を選択する場合は、コントロールパネルのテキスト部分を右クリックし、「マウス同期モード」→「Mac2用に自動同期」を選択してください。



Linuxをお使いの場合、ダイナシクモードはサポートされませんが、マウス同期モードメニュー (Red hat AS 3.0) の設定を行うことで同期が可能です。AS 3.0の環境でUSBタイプのコンピューターモジュール (前頁の注意書き参照) を使用し、デフォルトのマウス同期の方法では十分な結果が得られなかった場合は、Red hat AS3.0の設定をお試しください。ただし、上記のいずれの場合においても、次のセクション記載の手動によるマウス同期の方法で設定を行う必要があります。

コントロールパネル設定のカスタマイズ

コントロールパネルのカスタマイズアイコンをクリックすると、グラフィカル設定とともに、次のようなコントロールパネルに表示される項目を設定できるダイアログボックスが表示されます。



ダイアログボックスは次のセクションから構成されています。各部分の詳細は下表のとおりです。

項目	説明
コントロールパネルのスタイル	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 「透明」の項目にチェックを入れると、コントロールパネルが半透明になり、下にあるオブジェクトを確認できます。 ◆ 「アイコン」の項目にチェックを入れると、コントロールパネルの上にマウスを置くまでコントロールパネルがアイコンとして表示されます。マウスをアイコンの上に置くと、パネル全体が表示されます。 ◆ 「ユーザー数の表示」を有効にすると、使用しているバス番号とそのバスにおけるユーザーの総数が、コントロールパネルの下段中央に「バス番号 / ユーザーの総数」の形式で表示されます。(例については、p.69におけるコントロールパネルの図を参照してください)。
コントロールパネルのカスタマイズ	コントロールパネルに表示するアイコンを選択できます。表示したいものにはチェックを入れ、不要なものからはチェックを外してください。
ウィンドウのスクロールバーを表示	リモート画面の表示がモニターよりも大きい場合、画面外の領域にスクロールする方法を選択できます。これを有効にすると、ウィンドウのスクロールバーが画面の境界線の周りに表示され、画面外の領域にスクロールできるようになります。
キーボードパススルーを有効にする	これを有効にすると、[Alt]+[Tab]キーの押下がリモートサーバーに送られ、そのサーバーに影響します。この項目が有効になっていない場合は、[Alt] + [Tab]のキー操作がローカルクライアントコンピューター上で実行されます。
ウィンドウタイトルにメッセージを表示	ウィンドウのタイトルに表示させるリモートサーバー情報を、ドロップダウンメニューから選択してください。

項目	説明
スナップショット	<p>これらの設定により、ユーザーはCN800の画面キャプチャーにおけるパラメーターを設定できます (p.69「Win/JavaClientのコントロールパネル」のスナップショットの説明を参照)。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 「パス」は、キャプチャーした画面が自動的に保存されるディレクトリーを選択できます。「参照」ボタンをクリックし、対象となるフォルダーを「フォルダーの選択」ダイアログから選択して「OK」ボタンをクリックしてください。ここでディレクトリーを指定しない場合、スナップショットはデスクトップに保存されません。 ◆ キャプチャーした画面のイメージの保存形式 (BMP、JPEG) をラジオボタンで選択してください。 ◆ JPEGを選択した場合は、キャプチャーした画像の画質をスライダーバーで調整できます。画質を上げるとより鮮明な画像になりますが、ファイルサイズが大きくなります。

第8章 ログサーバー

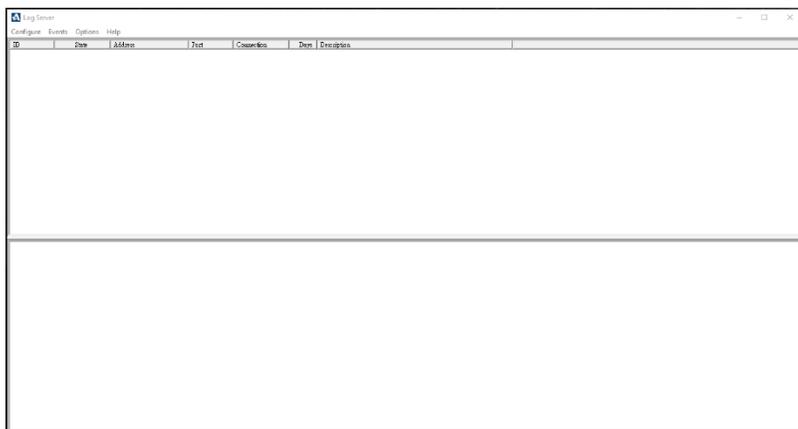
ログサーバーは、選択したCN800で発生したすべてのイベントを記録し、検索可能なデータベースに書き込むWindowsベースの管理ユーティリティです。

セットアップ

1. ウェブGUIで、ダウンロード画面に移動します。詳細については、p.60「ダウンロード」を参照してください。
2. 「ログサーバーAPのダウンロード」ボタンをクリックします。
3. 画面の指示に従ってインストールを完了し、ログサーバープログラムのアイコンをデスクトップに表示します。

起動

ログサーバーのメイン画面を表示するには、プログラムアイコンをダブルクリックするか、コマンドラインからこのプログラムのフルパスを入力して実行してください。プログラムの初回起動時には、次のような画面が表示されます。



注意:

1. ログサーバーとして使用するコンピューターのMACアドレスは、ANMS設定で指定する必要があります。詳細については、p.34「ログサーバー」を参照してください。
 2. ログサーバーにはMicrosoft Jet OLEDB 4.0ドライバーが必要です。プログラムが起動しない場合は、p.139「ログサーバー」を参照してください。
-

画面は3つのコンポーネントに分かれています。

- ◆ 上部のメニューバー
- ◆ 中央にCN800リストが含まれるパネル(詳細はp.111「ログサーバーのメイン画面」参照)
- ◆ 下部のイベントリストパネル

各コンポーネントについては、以降のセクションで説明します。

メニューバー

メニューバーには4つの項目があります。

- ◆ 設定
- ◆ イベント
- ◆ オプション
- ◆ ヘルプ

これらについては、以降のセクションで説明します。

注意:

メニューバーが無効になっている場合は、CN800リストのウィンドウをクリックして有効にしてください。

設定

「設定」メニューには、「追加」、「編集」、および「削除」の3つの項目があります。これらは、CN800リストに新規ユニットを追加したり、すでにリストにあるユニットの情報を編集したり、リストからユニットを削除したりするために使用されます。

- ◆ 新規のCN800ユニットをリストに追加するには、「追加」をクリックします。
- ◆ リストからCN800ユニットを編集する場合は、リストから対象となる項目を選択し、このメニューから「編集」をクリックします。ユニットをリストから削除するときも同じ要領で、リストから対象となる項目を選択し、メニューから「削除」をクリックします。

「追加」または「編集」をクリックすると、下図のようなダイアログボックスが表示されます。

The screenshot shows a dialog box titled "Add a Server" with a close button (X) in the top right corner. The dialog contains the following fields and options:

- Address:** A text input field containing "Server Address".
- Port:** A text input field containing "9001".
- Enable username/password authentication**
- Username:** An empty text input field.
- Password:** An empty text input field.
- Description:** A text input field containing "Server Description".
- Limit:** A text input field containing "100" followed by the label "Days".
- Enable automatic export for every** **Days**
- Save to:** An empty text input field with a "Browse..." button to its right.
- At the bottom, there are two buttons: "OK" and "Cancel".

各項目の説明は下表のとおりです。

項目	説明
アドレス	これは、CN800のIPアドレスまたはDNS名(ネットワーク管理者がDNS名を割り当てている場合)のいずれかになります。ANMS設定でCN800に指定された値を入力します(p.32「ANMS」参照)。
ポート	ANMS設定でログサーバーのサービスポート番号として指定されたポート番号を入力します(p.104「ログサーバー」参照)。
ユーザーネームとパスワードの認証を有効にする	この項目にチェックを入れると、ユーザーネームとパスワードの認証が有効になります。
ユーザーネーム	認証のためのユーザーネームを入力します。
パスワード	認証のためのパスワードを入力します。
説明	ユニットの識別に役立つ説明を入力します。
期限	ここには、イベントが失効して消去される前に、イベントをログサーバーのデータベースに保持する日数を指定します。
*日おきに自動エクスポートを実行する	この項目にチェックを入れると、サーバーは一定間隔(の日数)でログファイルを作成し、指定した場所に保存します。 「参照...」ボタンをクリックして、ログファイルを保存したいファイルフォルダーを指定します。

項目への入力や変更が完了したら、「OK」ボタンをクリックしてください。

イベント

「イベント」メニューは「検索」と「メンテナンス」の2つのサブメニューから構成されています。

検索

「検索」メニューでは、特定の単語や文字列を含むイベントを検索できます。この機能にアクセスすると、次のような画面が表示されます。

Search Dialog

Search Options

- New search
- Search last results
- Search excluding last results

Server List

Priority List

- Least
- Less
- Most

Start date: 3/11/2025 Start time: 2:34:48 PM End date: 3/12/2025 End time: 2:34:48 PM Pattern:

Result:

Search Print Export Exit

各項目の説明を下表に示します。

項目	説明
新規検索	これは、検索範囲を定義する3つのラジオボタンのうちの1つです。この項目を選択すると、選択したCN800のデータベースにおけるすべてのイベントを対象に検索を実行します。
前回の結果から検索	この項目を選択すると、前回の検索の結果として得られたイベントに対して二次検索を実行します。
前回の結果以外から検索	これは、選択したCN800のデータベースにおけるすべてのイベントから最後の検索結果のイベントを除いたものに対して二次検索を実行します。

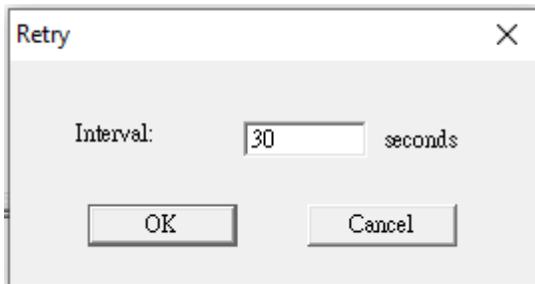
項目	説明
サーバーリスト	CN800がIPアドレス順に一覧表示されます。ログの検索対象となるユニットをリストから選択してください。複数のユニットを検索対象として選択できます。ユニットが選択されていない場合は、すべてのユニットに対して検索が実行されます。
優先度リスト	検索結果をどの程度詳細に表示するかを設定します。「Least」を選択すると簡易版表示を、「Most」を選択すると詳細表示をそれぞれ行います。またレベルが「Least」の検索結果は黒色で、「Less」の結果は青色で、「Most」の結果は赤色でそれぞれ表示されます。
開始日	検索を開始する日付を選択します。「YYYY/MM/DD」の形式で入力してください。 2009/11/04
開始時刻	検索を開始する時刻を選択します。
終了日	検索を終了する日付を選択します。
終了時刻	検索を終了する時刻を選択します。
パターン	パターン検索を行う場合の文字列を入力してください。この部分には、任意の文字列を表すワイルドカード(*)が使用できます。 例:「h*ds」という検索条件を指定すると、「hands」と「hoods」という文字列にヒットします。
結果	検索条件に一致したイベントが一覧表示されます。
検索	このボタンをクリックすると、検索を開始します。
印刷	このボタンをクリックすると、検索結果を印刷します。
エクスポート	このボタンをクリックすると、検索結果がtxtファイルに書き込まれます。
終了	このボタンをクリックすると、「検索」ダイアログボックスを終了します。

メンテナンス

この機能を使うことで、ユニットの管理者は「編集」機能の「期限」の項目で設定した保管期限を過ぎていないログの内容を手動で削除することができます (p.107参照)。

オプション

「ネットワークの再試行」では、前回の接続試行が失敗した場合に、ログサーバーが接続を試行するまでに待機する秒数を設定できます。この項目をクリックすると、次のようなダイアログボックスが表示されます。



待機秒数を入力したら「OK」ボタンをクリックし、操作を完了してください。

ヘルプ

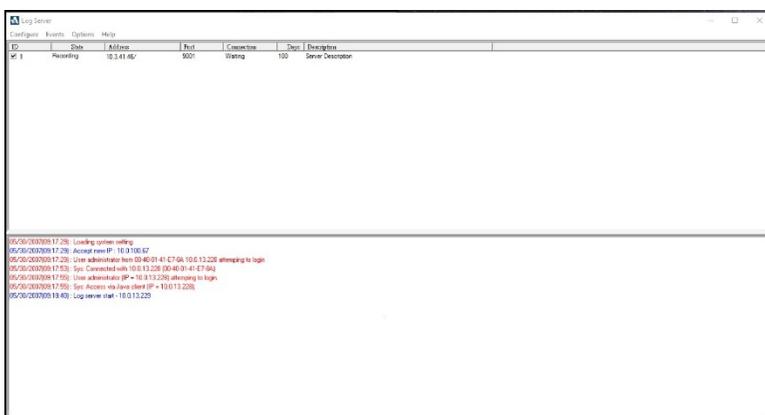
オンラインのWindowsヘルプファイルにアクセスするには、このメニューから「コンテンツ」をクリックしてください。ヘルプファイルには、ログサーバーのセットアップ、操作、およびトラブルシューティングの各方法が記載されています。「ログサーバーについて」をクリックすると、ログサーバーのバージョン情報が表示されます。

ログサーバーのメイン画面

概要

ログサーバーのメイン画面は大まかに次の2つのパネルから構成されています。

- ◆ 上部(リスト)パネルには、ログサーバーが追跡するために選択されているCN800ユニットが一覧表示されます (p.106「設定」参照)。
- ◆ 下部(イベント)パネルには、現在選択されているCN800(複数ある場合は強調表示されているもの)のログイベントが表示されます。リストからCN800を選択するには、対象となるユニットをクリックしてください。



リストパネル

リストパネルには6つの項目があります。

項目	説明
ID/状態	デバイスのID番号を表示し、ログサーバーがこのユニットを記録するかどうかをチェックボックスで決定します。「ID」ボックスにチェックを入れると、「状態」欄に「記録中」と表示され、チェックマークが付きます。「ID」ボックスがチェックされていない場合、「状態」欄に「一時停止」と表示され、チェックマークが外れます。 注意: 現在選択されているユニットでなくても、「記録」ボックスにチェックを入れると、ログサーバーはそのユニットを記録します。
アドレス	CN800がログサーバーに追加されたときに設定されたIPアドレスまたはDNS名です(p.106「設定」参照)。
ポート	CN800がログサーバーに追加されたときに割り当てられたポート番号です(p.106「設定」参照)。
接続	ログサーバーがCN800に接続されている場合、このフィールドには「接続」と表示されます。 接続していない場合は、この欄に「待機中」と表示されます。これはログサーバーのMACアドレスまたはポート番号が正しく設定されていないことを表しています。ANMSメニュー(p.32参照)および設定ダイアログボックス(p.106参照)で正しい値を設定する必要があります。
日数	この項目には、CN800のイベントの保存期限が切れるまでログサーバーのデータベースに保持される日数が表示されます(p.106「設定」参照)。
説明	この項目には、CN800がログサーバーに追加されたときに指定された説明が表示されます(p.106「設定」参照)。

選択ユニットのログ表示パネル

下部のパネルには現在選択されているCN800のログ情報が表示されます。お使いの環境で複数のユニットを使用している場合、そのユニットが現在選択されていなくても、「記録中」のチェックボックスにチェックが入っていれば、ログサーバーはログ情報を記録し、データベースに保持します。

安全にお使いいただくために

全般

- ◆ 本製品は、屋内での使用に限ります。
- ◆ 製品パッケージに同梱のすべてのドキュメントに目を通してください。またドキュメント類は後で見返せるように、すべて保存しておいてください。
- ◆ 機器に記載されているすべての警告・指示に従ってください。
- ◆ 製品本体は、落下による事故・製品の破損を防ぐため、不安定な面(台車、簡易的なスタンドやテーブルなど)を避けて設置してください。製品本体が落下すると、深刻な損傷が生じます。
- ◆ 製品を水の近くで使用しないでください。
- ◆ 製品は、冷却装置や加熱機器の近く、またはその上に置かないでください。
- ◆ 廃熱機構のない機器を、組み込みエンクロージャーに置かないでください。
- ◆ 製品にいかなる液体もかからないようにしてください。
- ◆ 本体のお手入れの際には、あらかじめプラグを壁のコンセントから抜いてください。液体やスプレー式のクリーナーは使用しないでください。お手入れには、湿らせて固く絞った布を使用してください。
- ◆ ラベルに記載したタイプの電源に製品本体を接続して運用してください。電源タイプについて不明な場合は、購入された販売店もしくは電気事業者にお問い合わせください。
- ◆ 設置場所への損傷を防ぐために、すべての機器を適切にアース接続してください。
- ◆ 電源コードやケーブルの上に物を置かないでください。電源ケーブルは、人が通行するような場所を避けて設置してください。
- ◆ 映像・ネットワーク・電源用のケーブルは、丁寧に取り扱いってください。ケーブルの上には何も置かないでください。

- ◆ ホットプラグ対応パワーサプライの取り付け、または取り外しを行う場合は、以下の注意事項に従ってください。
- ◆ 電源ケーブルを接続する前に、パワーサプライのセットアップを行ってください。
 - パワーサプライを取り外す前に電源ケーブルを抜いてください。
 - お使いのシステムが複数のパワーサプライをお使いである場合、パワーサプライからすべての電源ケーブルを抜いてお使いのシステムから切り離してください。
- ◆ 製品本体の端子に物を押し込まないでください。危険な電源ポイントへの接触や、部品のショート、また、火災や感電の危険性があります。
- ◆ 装置をご自身で修理せず、ご不明な点がございましたら技術サポートまでご相談ください。すべての保守については、適格な保守担当者に問い合わせてください。
- ◆ 下記の現象が発生した場合、コンセントから外して技術サポートに修理を依頼してください。
 - 電源コードが破損した。
 - 装置の上に液体をこぼした。
 - 装置が雨や水に濡れた。
 - 装置を誤って落下させた、ないしはキャビネットが破損した。
 - 装置の動作に異変が見られる。(修理が必要です)
 - 製品マニュアルに従って操作しているにもかかわらず、正常に動作しない。
- ◆ 製品マニュアルに従って操作や設定を行ってください。調整が不適切だと、正常に動作しなくなり、修理資格のある技術者による広範な作業が必要になるおそれがあります。
- ◆ コンセントは装置の近くに設置され、容易にアクセスできるものをお使いください。
- ◆ インレット電源コードの選択: 取り外し可能、長さ最大2.0m、18AWG、フレキシブルコード(125V、10A、3C、NEMA5-15P)。または、0.75mm²、3G、フレキシブルコード(例: H05VV-F、250V10A)。

ラックへのマウント

- ◆ ラックでの作業を行う前に、スタビライザーがラックと床に固定していること、また、ラックの重心が安定していることを確認してください。
- ◆ ラックへの機器搭載は必ず下から上に向かって行ってください。また、最も重いアイテムを下から搭載してください。
- ◆ デバイスを拡張する前にラックが水平で安定しているか確認してください。
- ◆ ラックに供給する電源が過負荷にならないよう、ご注意ください。ラック全体の電源負荷は最大でも80%を越えないように設定する必要があります。
- ◆ ラックにマウントされたデバイスは、電源タップも含め、すべて正しく接地されているか確認してください。
- ◆ ラックへの廃熱・通気を十分に確保してください。
- ◆ 本製品で定められている保管温度を超えないように、ラックの設置場所の室温を調節してください。
- ◆ ラックに設置されているデバイスの稼働中に、デバイスを踏んだり、デバイスによじ登ったりしないでください。

技術サポート

インターナショナル

- ◆ トラブルシューティング、マニュアル、およびソフトウェアアップデートを含むオンラインテクニカルサポートの場合：<http://eservice.aten.com>
- ◆ 電話によるサポートについては、p.iiiを参照してください。

北米

Eメールサポート		support@aten-usa.com
オンライン テクニカルサポート	ドキュメント ソフトウェア更新 トラブルシューティング	http://eservice.aten.com/
電話によるサポート		1-888-999-ATEN ext 4988 1-949-428-1111

お問い合わせの際には、あらかじめ以下の情報をご用意ください。

- ◆ 製品型番、シリアル番号、購入日。
- ◆ オペレーティング・システム、リビジョン・レベル、拡張カード、およびソフトウェアを含むコンピューター構成。
- ◆ エラー発生時に表示されるエラーメッセージ。
- ◆ エラーに至るまでの操作の順序。
- ◆ 他にも役立つと思われる情報。

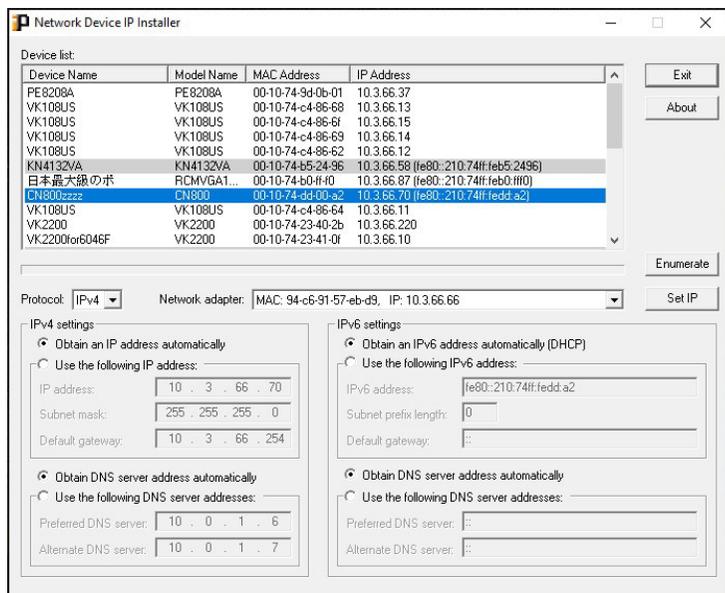
IPアドレスの設定

管理者として初めてログインする場合は、CN800にアクセスして、ユーザーが接続できるIPアドレスを設定する必要があります。設定方法はいくつかありますが、いずれの場合も、お使いのコンピューターがCN800と同一セグメントにあるか確認してください。CN800に接続してログインすると、固定ネットワークアドレスを設定できます (p.27「ネットワーク」参照)。

IPインストーラー

Windowsがインストールされているコンピューターであれば、IPインストーラーというツールを使用してIPアドレスを割り当てることができます。

1. ATENのウェブサイトにおけるCN800の製品ページで、「サポートとダウンロード」タブにある**IPインストーラー**をダウンロードします。
2. ダウンロードしたファイル (IPInstaller.exe) を実行します。次のようなダイアログボックスが表示されます。



3. 「デバイスリスト」からCN800を選択します。

注意:

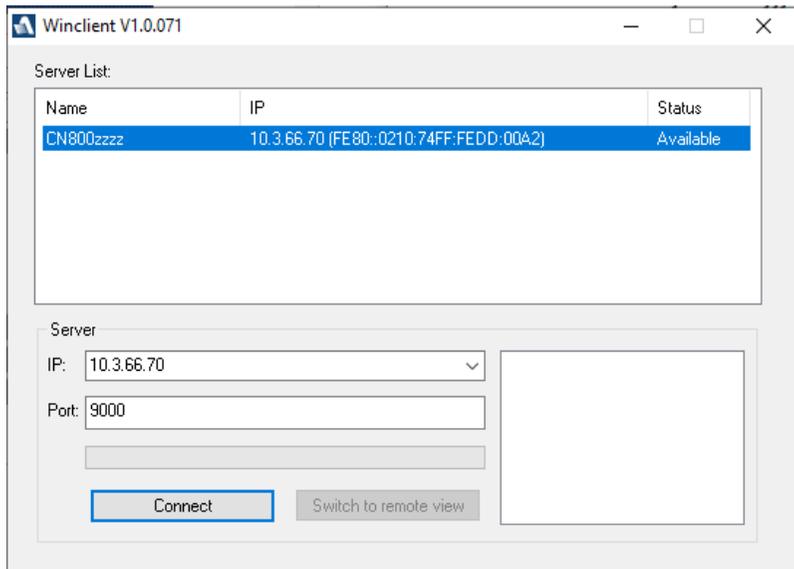
1. リストに何も表示されない、また、対象となるユニットが表示されない場合は、「**一覧表示**」をクリックして、デバイスリストを更新してください。
 2. リストに複数のデバイスがある場合は、MACアドレスを使用して必要なデバイスを選択します。CN800のMACアドレスは製品本体の底面にあります。
-
4. DHCPを使ってIPアドレスを自動的に取得する場合は「IPアドレスを自動取得する」を、固定IPアドレスを設定する場合は「IPアドレスを指定する」をそれぞれ選択します。後者を選択した場合は、製品がセットアップされているネットワークで有効なIPアドレス、サブネットマスク、ゲートウェイをそれぞれ該当欄に入力します。
 5. 「**IPを設定**」ボタンをクリックします。
 6. IPアドレスが「**デバイス一覧**」に表示されたら、「**終了**」ボタンをクリックします。

ブラウザ

1. お使いのコンピューターのIPアドレスを「192.168.0.XXX」に設定します。
XXXの部分には60以外で0～255の間の任意の値を使用してください（「192.168.0.60」は、CN800のデフォルトのIPアドレスであるため）。
2. ウェブブラウザのアドレスバーに、ユニットのデフォルトIPアドレス（192.168.0.60）を指定すると、接続できるようになります。
3. CN800がセットアップされているネットワークで有効な固定IPアドレスを設定します。
4. ログアウトしたら、手順1で設定を変更したコンピューターのIPアドレスを元の値に戻します。

WindowsClient AP

Windowsを実行しているコンピューターでは、Windows APプログラムを使用してCN800のIPアドレスを設定できます (p.64「WindowsClient AP」参照)。このプログラムを実行すると、CN800デバイスのネットワークセグメントが検索され、次のようなダイアログボックスに結果が表示されます。



これで、このネットワークアドレスを使用できるようになります。このアドレスは、「ネットワーク」メニューで変更することもできます。詳細はp.27を参照してください。

IPv6

現在、CN800は、IPv6アドレスの「リンクローカルアドレス」と「ステートレスオートコンフィグレーション」の2つのプロトコルをサポートしています。

リンクローカルIPv6アドレス

CN800に電源を入れると、自動的にIPv6のリンクローカルアドレスが設定されます(例: fe80::210:74ff:fe61:1ef)。リンクローカルIPv6アドレスの内容を確認するには、CN800にIPv4のアドレスでログインし、「基本設定」アイコンをクリックしてください。アドレスは「基本設定」メニュー(p.18参照)の下部に表示されます。

IPv6アドレスの内容が確定すると、ブラウザやWindows、Javaの各クライアントソフトウェアからログインする際にこのアドレスを使うことができます。

次に例を示します。

ブラウザからログインする場合には、URLバーにアドレスを次のように入力します。
http://[fe80::2001:74ff:fe6e:59%5]

また、クライアントソフトウェアからログインする場合には、「サーバー」パネルの「IP」欄(p.65参照)にアドレスを次のように入力します。

fe80::2001:74ff:fe6e:59%5

注意:

1. リンクローカルIPv6アドレスでログインするには、クライアントコンピューターがCN800と同じローカルネットワークセグメントに存在する必要があります。
 2. 「%5」は、クライアントコンピューターで使用される「%interface」です。クライアントコンピューターのIPv6アドレスを確認する場合は、コマンドラインから下記のコマンドを実行してください。ipconfig /all「%」値はIPv6アドレスの最後に現れます。
-

IPv6ステートレス自動設定

CN800のネットワーク環境で、IPv6ステートレスオートコンフィグレーション機能に対応したデバイス(例:ルーター)を使用している場合、CN800はIPv6アドレスを生成するために、このデバイスからプレフィックス情報を取得できます(例えば、2001::74ff:fe6e:59)。

先に述べたように、アドレスは「基本設定」メニューの下部に表示されます。

IPv6アドレスの内容が確定すると、ブラウザやWindows、Javaの各クライアントソフトウェアからログインする際に、このアドレスを使うことができます。

次に例を示します。

ブラウザからログインする場合には、URLバーにアドレスを次のように入力してください。http://[2001::74ff:fe6e:59]

また、クライアントソフトウェアからログインする場合には、「サーバー」パネルの「IP」欄(p.参照)にアドレスを次のように入力します。

2001::74ff:fe6e:59

「サーバー」パネルのIP項目については(「WindowsClient 接続画面」を参照)、以下に示します。各コンポーネントについては、p.65の表を参照してください。

ポート転送

デバイスがルーターの内側にセットアップされている場合、特定のポート経由で特定のデバイス宛に送信されたデータをルーターが転送できるように、ルーター側でポート転送の設定をする必要があります。ポート転送に必要なパラメーターを設定することで、ルーターが特定のポートに送信されたデータを、どのデバイスに転送するかを定義します。

例えば、特定のルーターに接続されているCN800のIPアドレスが「192.168.1.180」の場合、ルーターのセットアッププログラムにログインし、ポート転送（バーチャルサーバー）設定画面にアクセスします。先ほどのIPアドレス「192.168.1.180」および開放したいポートを設定します（例えばインターネットアクセスでは9000番を使用）。

ルーターの設定方法は、製品ごとに異なりますので、ポート転送の詳細についてはお使いのルーターのユーザーマニュアルを参照してください。

キーボードエミュレーション

PC互換(101/104キー)キーボードは、SunおよびMacキーボードの機能をエミュレートできます。エミュレーションマッピングは下表のとおりです。

PCキーボード	Sunキーボード	PCキーボード	Macキーボード
[Ctrl] [T]	Stop	[Shift]	Shift
[Ctrl] [F2]	Again	[Ctrl]	Ctrl
[Ctrl] [F3]	Props		
[Ctrl] [F4]	Undo	[Ctrl] [1]	
[Ctrl] [F5]	Front	[Ctrl] [2]	
[Ctrl] [F6]	Copy	[Ctrl] [3]	
[Ctrl] [F7]	Open	[Ctrl] [4]	
[Ctrl] [F8]	Paste	[Alt]	Alt
[Ctrl] [F9]	Find	[Print Screen]	F13
[Ctrl] [F10]	Cut	[Scroll Lock]	F14
[Ctrl] [1]			=
[Ctrl] [2]		[Enter]	Return
[Ctrl] [3]		[Backspace]	Delete
[Ctrl] [4]		[Insert]	Help
[Ctrl] [H]	Help	[Ctrl] 	F15
	Compose		
			

注意:

キーの組み合わせを使用する場合は、最初のキー(Ctrl)を押して指を離し、次にアクティベーションキーを押して指を離してください。

信頼された証明書

概要

ブラウザ経由でデバイスにログインすると、以下のような「セキュリティーの警告」ダイアログが表示され、デバイスの証明書が信頼できるものではないため、操作を続行するかどうかを問うメッセージが表示されます。



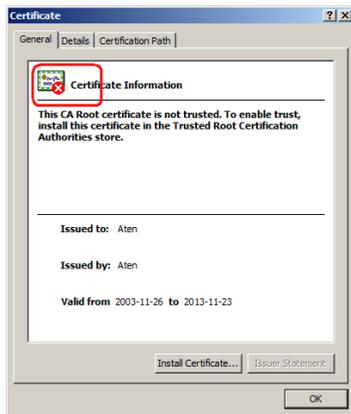
この証明書は信頼できるものですが、証明者の名前がMicrosoftの信頼された認証局のリストに存在しないため、このようなダイアログボックスが表示されます。これに対応するには、次の2つの方法があります。1) 警告を無視して、「はい」をクリックして続行します。2) 証明書をインストールすると、証明書が信頼できるものとして認識されます。

- ◆ 別の場所のコンピューターで作業している場合は、「はい」をクリックして、このセッションのみの証明書を受け入れます。
- ◆ 自分のコンピューターで作業している場合は、証明書をコンピューターにインストールしてください(詳細は以下を参照)。証明書がインストールされると、信頼できる証明書として認識されます。

証明書のインストール

証明書のインストールは下記の手順に従ってください。

1. 「セキュリティの警告」ダイアログボックスで、「**証明書の表示**」ボタンをクリックします。そうすると、「証明書」ダイアログボックスが表示されます。



注意:

証明書の上に赤い枠で囲まれている「×」の印は、この証明書が信頼できないものだとして認識されていることを表しています。

2. 「**証明書のインストール**」をクリックします。
3. インストールウィザードの指示に従って、インストールを進めます。特に不都合がない場合は、デフォルト値でインストールしてください。
4. ウィザードに警告ダイアログが表示されたら、「**はい**」をクリックします。



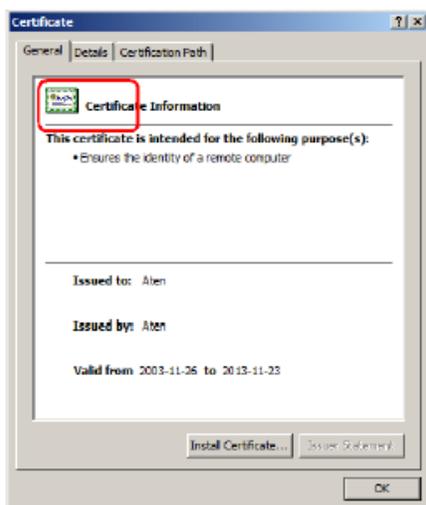
5. 「**完了**」ボタンを押してインストール作業を完了します。「**OK**」ボタンを押すとダイアログボックスが終了します。

証明書のインストール完了

証明書は信頼できるものに変更されました。



「証明書の表示」ボタンをクリックすると、赤と白色の「×」の印が消え、証明書が信頼できるものであるというメッセージが表示されます。



アドレス不整合に関する注意事項

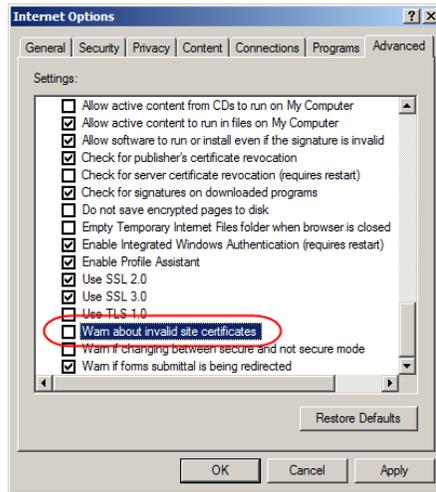
証明書の生成に使用されたサイト名またはIPアドレスがCN800の現在のアドレスと一致なくなると、不一致の警告が発生します。



「はい」ボタンをクリックして継続することもできますし、不整合のチェックを無効にすることもできます。

不整合のチェックを無効にする場合は、下記の手順に従って操作を行ってください。

1. ログイン画面が表示されたら、ブラウザーのツールメニューを開き、「インターネットオプション」>「詳細設定」を選択します。
2. リストの下部にスクロールして、「証明書のアドレスの不一致について警告する」の項目についているチェックを外します。



3. 「OK」ボタンをクリックします。ここで変更された設定は、ブラウザの再起動後に有効になります。

自己署名(プライベート)証明書

独自の自己署名暗号化キーと証明書を作成したい場合は、www.openssl.orgで、ウェブ上でダウンロードできる無料ユーティリティ「openssl.exe」を利用できます。独自のプライベートキーや証明書を作成する場合は、下記の手順に従って操作を行ってください。

1. ダウンロードして解凍したopenssl.exeのディレクトリーに移動します。
2. 以下のパラメーターを指定して「openssl.exe」を実行します。

```
openssl req -new -newkey rsa:1024 -days 3653 -nodes -x509  
-keyout CA.key -out CA.cer -config openssl.cnf
```

注意:

1. 上記のコマンドは1行で入力してください。パラメーターの入力途中で[Enter]キーを押さないでください。
2. 入力値にスペースが含まれている場合は、その値をダブルクォートで囲んでください(例: "ATEN International")。

以下のパラメーターを使用して、作成時に入力するキーを少なくすることも可能です。

```
/C /ST /L /O /OU /CN /emailAddress.
```

例

```
openssl req -new -newkey rsa:1024 -days 3653 -nodes -x509  
-keyout CA.key -out CA.cer -config openssl.cnf -subj  
/C=yourcountry/ST=yourstateorprovince/L=yourlocationor  
city/O=yourorganization/OU=yourorganizationalunit/  
CN=yourcommonname/emailAddress=name@yourcompany.com
```

```
openssl req -new -newkey rsa:1024 -days 3653 -nodes -x509  
-keyout CA.key -out CA.cer -config openssl.cnf -subj  
/C=CA/ST=BC/L=Richmond/O="ATEN International"/OU=ATEN
```

ファイルのインポート

openssl.exeのプログラムが終了すると、プログラムを実行したディレクトリーに「CA.key」(プライベートキー)と「CA.cer」(自己署名SSL証明書)の2つのファイルが作成されます。これらは、「セキュリティ」画面の「プライベート証明書」パネルでアップロードするファイルです(p.49参照)。

トラブルシューティング

操作全般

問題	解像度
動作が不安定である。	<p>CN800にはKVMスイッチより前に電源を入れる必要があります。</p> <ol style="list-style-type: none">1. CN800をKVMスイッチに接続している場合は、まずCN800に電源を入れます。2. CN800に電源を入れる前にKVMスイッチに電源を入れてしまった場合は、そのKVMスイッチをリセットまたは再起動します。 <p>CN800をリセットする必要があります (p.144「アドミニストレーターでログインできない場合」参照)。</p>
IPアドレスおよびポート番号を正しく設定したにもかかわらず、CN800にアクセスできない。	<p>お使いのCN800がルーターの内側にセットアップされている場合、ルーターのポート転送(またはバーチャルサーバー)の設定を行う必要があります。詳細はp.123「ポート転送」を参照してください。</p>
マウスポインターの表示で混乱する。	<p>2つのマウスポインター(ローカルポインターとリモートポインター)の表示が分かりにくい場合は、マウス表示の切替機能を使用して、機能していないポインターを縮小できます。詳細はp.75を参照してください。</p>

問題	映像度
マウスの動きが同期しない。	<p>PS/2制御(CN9000)を使用して接続したPC/サーバーのマウスポインターの動きが、リモートマウス操作と同期していない場合は、次の操作を実行できます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 接続したPC/サーバーで、マウス設定の「ポインターの精度を高める」をオフにしてください。問題が解決しない場合は、手順2に進みます。 2. CN9000のウェブブラウザで、マウス遅延時間をnミリ秒単位で設定するには、ターミナルコマンド「setportatt 1 <n>」を実行してください。n = 10から始めて、必要に応じて調整できます。詳細はp.25「ホストへのPing」を参照してください。 <ol style="list-style-type: none"> 1. この問題は、製品に接続されたPC/サーバーで、絶対座標がサポートされていないUSBマウス制御を使用した場合でも発生する可能性があります。 2. マウス遅延時間をデフォルトにリセットするには、ターミナルコマンド「setportatt10」を実行します。
マウスの動作が極端に遅い。	<p>転送されるデータ量が多いため、マウスの表示が動作に追いつかないことが考えられます。ビデオ品質を下げて、ビデオ転送に使用されるデータを減らしてください(p.84「ビデオ設定」参照)。</p>
マウス同期モードを手動に変更すると、CN800がクラッシュする。	<p>CN800はクラッシュしていません。5分程待機すると、通常の操作に戻ります。すぐに再開させたい場合は、CN800をリセットしてください(p.144「アドミニストレーターでログインできない場合」参照)。</p>
ウェブブラウザのセッションで設定を変更している時にタイムアウトになると、その時に設定していた内容が破棄されている。	<p>「適用」をクリックしない場合、CN800は作業中であることを認識せずタイムアウトしてしまい、変更内容も反映されません。CN800に設定を保存するには、実行中に「適用」をクリックする必要があります。</p>
Firefoxを使ってログインすると、リモートコンソールディスプレイにWindowsClientと起動用のリンクが表示されない。	<p>WindowsClientをご利用いただくにはInternet Explorerと専用のActive Xコントロールをインストールすることが必須条件です。FirefoxはActive Xに対応していませんので、Javaアプレットをお使いください。</p>

問題	映像度
<p>Fedoraがインストールされているリモートサーバーにアクセスすると、アクセス元が、リモートコンソールであるか、ローカルクライアントコンピューターであるかにかかわらず、リモートサーバー側のマウスが動かなくなる。</p>	<p>リモートサーバーがPS/2ケーブルで接続されている場合、ブラウザからCN800にログインした後でビューアを起動して、コントロールパネルでマウス同期機能を「手動」に設定してください。詳細はp.98を参照してください。</p>
<p>IPインストーラーのデバイスリストに、ATEN over IPのユニットが一覧表示されない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 自動検出を正常に機能させるには、ブロードキャスト機能が有効になっていることをCN800またはルーターから確認してください。 ◆ オーディオ検出が正常に機能するように、ファイアウォールやウイルス対策ソフトウェアを一時的に無効にしてください。 ◆ CN800とPCが同じネットワークセグメントにセットアップされているか確認してください。

Windows

問題	解像度
ログインすると、ブラウザからCAルート証明書が信頼できないという内容のメッセージが表示されたり、証明書エラーの応答が返ってきたりする。	<ol style="list-style-type: none">1. これは証明書の名前がMicrosoftの信頼された認証局のリストに存在しないことに起因します。この証明書は信頼できるものですので、受け入れても問題ありません。 詳細はp.125「信頼された証明書」を参照してください。2. このメッセージは、認識されているサードパーティー認証局によって発行された証明書をインポートすることによって非表示にできます (p.48「CA署名済みSSLサーバー証明書の取得」参照)。
証明書をインポートしても、ログインサイトに関する警告メッセージが表示される。	証明書セキュリティチェックで証明書アドレスの不一致が検出されたとしても、証明書は信頼できます。ウェブサイトで「続行する」をクリックして操作を進める(非推奨)か、不整合のチェック機能を無効にできます。この操作に関する詳細はp.128「アドレス不整合に関する注意事項」を参照してください。
リモートとローカルのマウスポインターが同期していない。	<ol style="list-style-type: none">1. マウスダイナシクモードの設定内容を確認してください (p.98参照)。自動設定の場合は、手動設定に変更します。2. 手動モードの場合は、自動同期機能 (p.84「ビデオ設定」参照)を使用して、ローカルモニターとリモートモニターを同期します。3. 上記の方法で解決しない場合、マウス調整機能 (p.75参照)を使用します。4. 上記の手順で問題が解決しない場合は、追加のマウス同期手順 (p.140)を参照して、実行する手順を確認します。
リモートモニターでローカルディスプレイの一部分しか表示されない。	自動同期機能 (p.84「ビデオ設定」参照)を使ってローカルとリモートのモニターの同期を取ってください。
バーチャルメディア機能が使用できない。	製品本体に古いコンピューターを接続してお使いの際に、この現象が見られる場合があります。この場合は、お使いのマザーボードの製造元から最新ファームウェアバージョンを入手し、マザーボードのアップグレードを行ってください。

問題	映像度
<p>ブラウザでCN800にアクセスし、WindowsClientビューアを開いた後、アンチウイルスソフトがトロイの木馬に感染していると報告される。</p>	<p>WindowsClientビューアはActive Xプラグイン (windows.ocx) を使用しており、アンチウイルスソフトの中にはこれをウイルスまたはトロイの木馬に感染していると誤認するものがあります。弊社ではファームウェアを広範囲にわたって検査し、ウイルスやトロイの木馬に感染していないことを確認済みです。プラグインをご使用のアンチウイルスプログラムのホワイトリストに追加すれば、ビューアを安全に使用できますが、WindowsClientビューアの使用をためらう場合は、代わりにJavaClientビューアをご使用ください。</p>

Java

マウス同期に関する問題についてはp.73「マクロ」、p.98「マウスダイナシクモード」、p.142「Sun/Linux」の内容を参照してください。その他の問題については下表を参照してください。

問題	解像度
JavaアプレットがCN800に接続できない。	<ol style="list-style-type: none">1. お使いのコンピューターにJava 6 Update 3以降がインストールされている必要があります。2. CN800のIPアドレスを指定する際、ページ名(ログイン文字列)が含まれているか確認してください。3. Javaアプレットを一度終了させて、再実行してください。
最新のJREをインストールしたにもかかわらず、パフォーマンスと安定性に問題がある。	本製品のJavaClientビューアの開発以降にリリースされたバージョン(特に最新版など)のJavaをお使いの場合、Java側の新機能に対応していないなどの理由でパフォーマンスが悪いことが考えられます。最新版よりも1~2つほど古いバージョンのJREを使用してみてください。
JavaClientビューアのパフォーマンスに問題がある。	プログラムを一度終了して、再起動してください。
英語以外の言語の文字が表示されない。	CN800のオンスクリーンキーボードを使用して、ローカルコンピューターとリモートコンピューターが同じ言語に設定されているか確認してください(p.95「オンスクリーンキーボード」参照)。
ログインすると、ブラウザからCAルート証明書が信頼できないという内容のメッセージが表示されたり、証明書エラーの応答が返ってきたりする。	これは証明書の名前がMicrosoftの信頼された認証局のリストに存在しないことに起因します。この証明書は信頼できるものですので、受け入れても問題ありません。詳細はp.125「信頼された証明書」を参照してください。

Sunシステム

問題	解像度
D-sub15ピンのコネクターのシステム(例: Sun Blade 1000 Server)で、ビデオ表示の問題が発生する。	ディスプレイの解像度は1024×768に設定する必要があります。 テキストモードの場合： <ol style="list-style-type: none">1. OKモードに移行し、次のコマンドを実行します。 <pre>setenv output-device screen:r1024x768x60 reset-all</pre> XWindowの場合： <ol style="list-style-type: none">1. コンソールを開き、以下のコマンドを実行します。 <pre>m64config -res 1024x768x60</pre>2. ログアウトします。3. ログインします。
13W3インターフェースシステム(例: Sun Ultra Server)を使用すると、ビデオ表示の問題が発生する*。	ディスプレイの解像度は1024×768に設定する必要があります。 テキストモードの場合： <ol style="list-style-type: none">1. OKモードに移行し、次のコマンドを実行します。 <pre>setenv output-device screen:r1024x768x60 reset-all</pre> XWindowの場合： <ol style="list-style-type: none">1. コンソールを開き、以下のコマンドを実行します。 <pre>m64config -res 1024x768x60</pre>2. ログアウトします。3. ログインします。
ローカルとリモートのマウスポインターが同期しない。	デフォルト設定では、ローカルとリモートのマウスポインターは、接続時に自動的に同期します。ただし、自動マウス同期の実行は、WindowsまたはMac(G4以降)でUSBマウスを使用した時のみ限ります。マウスダイナシクで「手動」を選択し、ポインターを手動で同期させてください。詳細については、p.98「マウスダイナシクモード」を参照してください。

* Sun VGAカードに関するトラブルの多くは、上記の方法で解決することが可能です。問題が解決しない場合は、Sun VGAカードのマニュアルを参照してください。

Macシステム

問題	解像度
ローカルとリモートのマウスポインターが同期しない。	Macには、Mac1とMac2の2つのUSB I/O設定があります (p.548「カスタマイズ」参照)。一般的に「Mac 1」は古いOSバージョン用であるのに対し、「Mac 2」は新しいOSバージョン用ですが、逆の場合が当てはまることもあります。ポインターの同期に問題がある場合は、もう一方のモードを選択してみてください。
Safariブラウザーで製品にログインしてスナップショット機能を使用すると、応答なしになる。	Safariを強制終了した後で、再起動してください。このような場合は、スナップショット機能を今後使用しないようにしてください。 Safariでスナップショット機能を使用するには、Mac OSは10.4.11に、Safariは3.0.4にそれぞれアップグレードしてください。

ログサーバー

問題	解像度
ログサーバープログラムが起動しない。	ログサーバーでデータベースにアクセスするにはMicrosoft Jet OLEDB 4.0ドライバーが必要です。 このドライバーはWindows ME、2000、XPで自動的にインストールされています。 Windows 98またはNTの場合、Microsoftのダウンロードサイト (http://www.microsoft.com/data/download.htm) に移動して、ドライバーファイル (MDAC 2.7 RTM Refresh (2.70.9001.0)) を取得してください。 このドライバーはWindows Office Suiteで使用されるため、Windows Office Suiteをインストールする方法もあります。ドライバーファイルまたはWindows Office Suiteがインストールされると、ログサーバーが動作するようになります。

その他のマウス同期方法

本マニュアルに記載されているマウスの同期の設定を適用したにもかかわらず、お使いのコンピュータでマウスポインターの問題が解決しない場合は、下記の手順を試してみてください。

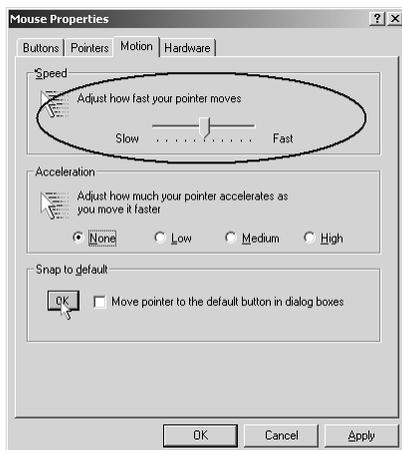
Windows

注意:

ローカルマウスとリモートマウスを同期するには、Microsoft に付属の汎用マウスドライバーを使用する必要があります。サードパーティー製のドライバー(例: マウスの製造元から提供されたドライバーなど)を使用している場合は、そのドライバーを削除してください。

1. Windows 2000:

- a) 「マウスのプロパティ」ダイアログボックスを開きます(「コントロールパネル」>「マウス」>「マウスのプロパティ」)。
- b) 「動作」タブをクリックします。
- c) マウスの速度のスライダーバーを中央の位置(左から6目盛り目)に移動させます。
- d) 「ポインターの加速」で、「いいえ」のラジオボタンを選択します。

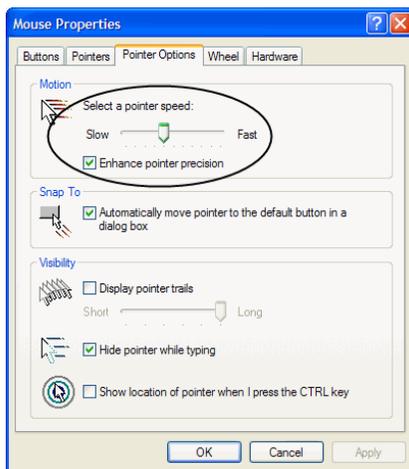


2. Windows XP/Windows Server 2003/Windows 7/Windows 8/Windows 10:

- a) 「マウスのプロパティ」ダイアログボックスを表示します([コントロールパネル]→[マウス])。

(Windows 10の場合は、[スタート]→[デバイス]→[マウス]→[マウスの追加オプション]の順にクリックしてください。)

- b) 「マウスのプロパティ」ダイアログボックスから、「ポインターオプション」タブをクリックします。
- c) マウスの速度のスライダーバーを中央の位置(左から6目盛り目)に移動させます。
- d) 「ポインターの精度を高める」の項目からチェックを外して、この機能を無効にします。



3. Windows ME:

マウスの速度を中間に設定し、マウスの加速機能を無効にします(この設定を行う場合は、ダイアログから「詳細...」ボタンをクリックします)。

4. Windows NT/Windows98/Windows95:

マウスの速度を最も低い設定にします。

Sun / Linux

ターミナルセッションを開き、以下のコマンドを実行してください。

(Sunの場合) `xset m 1`

(Linuxの場合) `xset m 0` または `xset m 1`

(一方がうまくいかない場合は、もう一方を試してみてください。)

サポートされるバーチャルメディア

WindowsClient Active Xビューア/WinClientAP

- ◆ IDE CDROM/DVD-ROMドライブ - 読み取り専用
- ◆ IDE ハードディスクドライブ - 読み取り専用
- ◆ USB CD ROM/DVD-ROMドライブ - 読み取り専用
- ◆ USBハードディスクドライブ - 読み取り/書き込み対応*
- ◆ USBフラッシュメモリー - 読み取り/書き込み対応*
- ◆ USBフロッピードライブ - 読み取り/書き込み対応

* これらのドライブは、ドライブとリムーバブルディスクのどちらの方法でもマウントできます (p.90「バーチャルメディア」参照)。リムーバブルディスクとしてマウントした場合、そのディスクにブート可能なOSが含まれていれば、そこからリモートサーバーを起動できます。さらに、そのディスクが複数のパーティションに分かれている場合は、リモートサーバーはすべてのパーティションにアクセスすることができます。

- ◆ ISOファイル - 読み取り専用
- ◆ フォルダー - 読み取り/書き込み対応
- ◆ スマートカードリーダー

Javaアプレットビューア/JavaClientAP

- ◆ ISOファイル - 読み取り専用
- ◆ フォルダー - 読み取り/書き込み対応

注意:

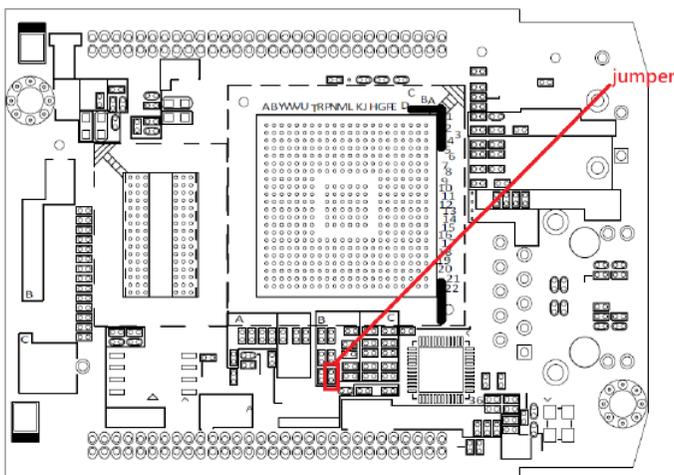
1. JavaClientは、WinClientと同じ方法でバーチャルメディアをサポートしますが、アカウントには管理者レベルの権限が必要です。
 2. フォルダーマッピングではFAT16ファイルシステムが使用されるため、2GBの制限事項があります。
-

アドミニストレーターでログインできない場合

ユーザーネームとパスワードの情報を忘れてしまったなどの理由でアドミニストレーターのログインが実行できない場合、システムデータベースの情報を消去することで対応が可能です。

システムのデータベース情報を消去するには、次の手順に従って操作を行ってください。

1. すべてのUSB Type-Aコネクタを取り外して、CN800の電源を切ります。
2. 以下に示すように、ジャンパーキャップを使用してメインボードのジャンパーをショートさせます。



3. すべてのUSB Type-Aコネクタを接続して、CN800の電源を入れます。
4. 電源LEDが点滅したら、CN800の電源を切ります。
5. ジャンパーキャップを取り外します。
6. ケースを元どおりに取り付けて、CN800に電源を入れます。

システムデータベースを消去してリセットしたら、デフォルトのユーザーネームとパスワード(p.15およびp.66を参照)を使用してログインできます。

仕様

CN800

コネクタ	
KVM(コンピューター)ポート	USB Type-A オス×1(Purple) USB Type-A オス×1(Black) VGA オス×1(Blue)
LANポート	RJ-45 メス×1
スイッチ	
リセット	ピンホール型スイッチ×1
LED	
電源	1(Green)
リンク	リンク×1(Orange/Green) アクティブ×1(Green)
エミュレーション	
キーボード/マウス	USB
ビデオ	
リモート	最大1920×1200 @ 60Hz
消費電力	
DC5V:3.47W:16BTU/h	
注意:	
◆ ワット単位の測定値は、外部負荷がない場合におけるデバイスの標準的な消費電力を示します。	
◆ BTU/h単位の測定値は、フル負荷時におけるデバイスの電力消費量を示します。	
動作環境	
動作温度	0～50°C
保管温度	-20～60°C
湿度	0～80%RH、結露なきこと
ケース	
ケース材料	プラスチック
重量	0.17 kg
サイズ(W×D×H)	9.32×5.66×2.44 cm

ATEN保証ポリシー

保証方針は、製品カテゴリーおよび購入地域によって異なる場合があります。詳細については、ATEN の公式ウェブ サイトにアクセスし、購入した国/地域を選択してからサポートセンターに移動するか、最寄りのATEN 営業所にお問い合わせください。

© 著作権2025 ATEN® International Co., Ltd.

リリース:2025-04-09

ATENおよびATENロゴは、ATEN International Co., Ltd.の登録商標です。無断転載を禁じます。

その他すべてのブランド名および商標は、それぞれの所有者の登録商標です。